net>scaler

NetScaler SDX

Machine translated content

Disclaimer

このコンテンツの正式なバージョンは英語で提供されています。Cloud Software Group ドキュメントの コンテンツの一部は、お客様の利便性のみを目的として機械翻訳されています。Cloud Software Group は 機械翻訳されたコンテンツを管理していないため、誤り、不正確な情報、不適切な用語が含まれる場合 があります。英語の原文から他言語への翻訳について、精度、信頼性、適合性、正確性、またはお使い の Cloud Software Group 製品またはサービスと機械翻訳されたコンテンツとの整合性に関する保証、該 当するライセンス契約書またはサービス利用規約、あるいは Cloud Software Group とのその他すべての 契約に基づき提供される保証、および製品またはサービスのドキュメントとの一致に関する保証は、明 示的か黙示的かを問わず、かかるドキュメントの機械翻訳された範囲には適用されないものとします。 機械翻訳されたコンテンツの使用に起因する損害または問題について、Cloud Software Group は責任を負 わないものとします。 NetScaler SDX

Contents

NetScaler SDX ハードウェアとソフトウェアの互換性マトリックス	3
SDX ハードウェアプラットフォーム	5
NetScaler SDX 8900	5
NetScaler SDX 9100	7
NetScaler SDX 14000	9
NetScaler SDX 14000-40G	11
NetScaler SDX 14xxX-40s	14
NetScaler SDX 14030 FIPS、14060 FIPS、14080 FIPS	16
NetScaler SDX 15000	18
NetScaler SDX 15000-50G	20
NetScaler SDX 1600	23
NetScaler SDX 25100A、SDX 25160A	25
NetScaler SDX 25100-40G	27
NetScaler SDX 26000	29
NetScaler SDX 26000-50S	31
NetScaler SDX 26000-100G	33
一般的なハードウェアコンポーネント	35
フィールド交換可能ユニット	45
安全性、注意事項、警告、その他の情報	50
インストールの準備	50
ハードウェアをインストールします	53
初期構成	63
NetScaler SDX アプライアンスの管理ポートが点灯します	67

LOM ポートのネットワーク設定を構成する	70
SDX 9100 および SDX 16000 に SSL 証明書を作成してインストールする	75
LOM GUI を使用して古いプラットフォームに証明書とキーをインストールする	80
アプライアンスの MAC アドレス、シリアル番号、ホストプロパティの取得	86
LOM ポートを使用して電源制御操作を実行する	87
BMC 構成を工場出荷時のデフォルトに戻す	89
IPMI BMC フェールオーバー用のポートの指定	89
BIOS POST コードを使用してエラーを検出する	90
NetScaler SDX アプライアンスのハードウェア正常性属性	91
SDX 16000 プラットフォームのハードウェア健全性属性	99
NetScaler SDX アプライアンスでのフォートビル NIC ファームウェアのアップグレード	104
NetScaler MPX アプライアンスを NetScaler ADC SDX アプライアンスに変換する	105
NetScaler MPX 26000-50S アプライアンスをネットスケーラー SDX 26000-50S アプライアンスに変換	106
NetScaler MPX 24100 および 24150 アプライアンスを NetScaler ADC SDX 24100 および 24150 ア プライアンスに変換する	125
NetScaler MPX 14020/14030/14040/14060/14080/14100 アプライアンスを NetScaler ADC SDX 14020/14030/14040/ 14060/14080/14100 アプライアンスに変換します	128
NetScaler MPX 14020 40G、MPX 14040 40G、MPX 14060 40G、MPX 14080 40G アプライアンス を NetScaler ADC SDX 14020 40G、SDX 14040 40G、SDX 14040 40G、SDX 14060 40G、SDX 14060 40G、SDX 14080 40G アプライアンスに変換します	135
NetScaler MPX 8900 アプライアンスを NetScaler ADC SDX 8900 アプライアンスに変換します	152
NetScaler MPX 15000 アプライアンスを NetScaler ADC SDX 15000 アプライアンスに変換する	161
SDX アプライアンス間で NetScaler インスタンスの構成を移行する	176
トラブルシューティング	182

NetScaler SDX ハードウェアとソフトウェアの互換性マトリックス

April 1, 2025

NetScaler SDX ハードウェアとソフトウェアおよび機能ソフトウェアの互換性については、次の点に注意してくだ さい。

- プラットフォームごとに、各リリースの開始ビルドのみが記載されています。リリース内の後続のすべてのビルドがサポートされます。
- 10.5 以前のリリースでは、SDX アプライアンスは仮想バンドルとともに出荷されていました。バンドルには、 管理サービスイメージ、Citrix Hypervisor イメージ、Citrix Hypervisor サプリメンタルパックの特定の組 み合わせが含まれていました。
- 11.0 以降のリリースでは、すべてのコンポーネントを組み合わせた単一バンドルイメージが出荷されます。
- SDX イメージバージョンと VPX イメージバージョンの組み合わせは、特定のハードウェアプラットフォームの最小バージョン要件を満たしている限り、サポートされます。
- 12.0 57.19 から、単一バンドルイメージには、ライトアウト管理 (LOM) ファームウェアも含まれています。
- バージョン 10.5 からバージョン 13.1 への直接アップグレードはサポートされていません。まず 10.5 から 11.1 または 12.0 または 12.1 にアップグレードしてから、SDX 13.1 にアップグレードします。
- 通常、SDX イメージと VPX イメージは相互依存しません。つまり、SDX アプライアンスと VPX インスタンス は同じバージョンのイメージを必要としません。

例外: 新しい VPX インスタンスをプロビジョニングする場合、または既存の VPX インスタンスを 12.0-58.15 にアップグレードする場合は、SDX バージョンを 12.0-58.15 にアップグレードする必要があります。 https://support.citrix.com/article/CTX236730を参照してください。

12.0~58.15 を実行している NetScaler ADC アプライアンスを管理するために NetScaler ADM を使用す る場合は、NetScaler ADM を 12.0-58.15 にアップグレードする必要があります。

次の表に、すべての NetScaler ADC SDX ハードウェアプラットフォーム、およびこれらのプラットフォームでサポ ートされる SDX および VPX イメージの互換性マトリックスを示します。

テーブルの読み方

SDX イメージのバージョンと VPX イメージのバージョンは、プラットフォームごとに一覧表示されます。SDX イメ ージと VPX イメージは相互依存していないため、SDX アプライアンスと VPX インスタンスは同じバージョンのイメ ージを必要としません。互換性の例外については、注記を確認してください。

重要

:次の表に、各ハードウェアプラットフォームおよびソフトウェアリリースで最初にサポートされるビルドを示

します。ビルド番号の後に「**only**」という単語がない限り、以降のビルドはすべてサポートされます。その場 合、指定したビルドだけがそのプラットフォームでサポートされます。

|ハードウェアプラットフォーム/SDX SBI バージョンと VPX イメージのバージョン | 11.1 | 12.1 | 13.0 | 13.1 | 14.1 |

| SDX 8015 | 11.1-47.14 | 12.1-48.13 | 13.0-36.x | 13.1-4.x | 14.1-4.x | | SDX 8400/8600 | 11.1-47.14 | 12.1-48.13 | 13.0-36.x | 13.1-4.x | 14.1-4.x | |SDX 8920/8930|11.1-57.11(表の後にある注を参照)|12.1-48.13|13.0-36.x|13.1-4.x|14.1-4.x| | SDX 9100 | X | X | X | 13.1–21.50 | 14.1–4.x | SDX 11500/13500/14500/16500/18500/20500 | 11.1-47.14 | 12.1-48.13 | 13.0-36.x | 13.1-4.x | X | | SDX 11515/11520/11530/11540/11542 | 11.1-47.14 | 12.1-48.13 | 13.0-36.x | 13.1-4.x | X | | SDX 14020/14030/14040/14060/14080/14100 | 11.1-47.14 | 12.1-48.13 | 13.0-36.x | 13.1-4.x | 14.1-4.x SDX 14020-40G/14040-40G/14060-40G/14080-40G/14100-40G | 11.1-47.14 | 12.1-48.13 | 13.0-36.x | 13.1-4.x | 14.1-4.x | | SDX 14040-40S/14060-40S/14080-40S/14100-40S | 11.1-48.10 | 12.1-48.13 | 13.0-36.x | 13.1-4.x | 14.1-4.x SDX 14030 FIPS/14060 FIPS/14080 FIPS | 11.1-52.13 | 12.1-48.13 | 13.0-36.x | 13.1-4.x | 14.1-4.x | SDX 15020/15030/15040/15060/15080/15100/15120 | 11.1-63.x | 12.1-56.x | 13.0-52.x | 13.1-4.x | 14.1-4.x SDX 15020-50G/15030-50G/15040-50G/15060-50G/15080-50G/15100-50G/15120-50G | 11.1-59.10 | 12.1-48.13 | 13.0-36.x | 13.1-4.x | 14.1-4.x | | SDX 16000 | X | X | X | 13.1–37.x | 14.1–4.x | | SDX 22040/22060/22080/22100/22120 | 11.1-47.14 | 12.1-48.13 | 13.0-36.x | 13.1-4.x | 14.1-4.x | | SDX 24100/24150 | 11.1-47.14 | 12.1-48.13 | 13.0-36.x | 13.1-4.x | 14.1-4.x | SDX 25100A/25160A/25200A | 11.1-51.21 | 12.1-48.13 | 13.0-36.x | 13.1-4.x | 14.1-4.x | SDX 25100-40G/25160-40G/25200-40G | 11.1-51.21 | 12.1-48.13 | 13.0-36.x | 13.1-4.x | 14.1-4.x | | SDX 26100/26160/26200 | 11.1-63.9 | 12.1-56.x | 13.0-52.x | 13.1-4.x | 14.1-4.x | | SDX 26100-100G/26160-100G/26200-100G | 11.1-58.13 | 12.1-48.13 | 13.0-36.x | 13.1-4.x | 14.1-4.x | | SDX 26100-50S/26160-50S/26200-50S | 11.1-63.9 | 12.1-56.x | 13.0-52.x | 13.1-4.x | 14.1-4.x |

メモ:

- NetScaler SDX 8900 アプライアンスでは、11.1 56.15 VPX イメージがサポートされています。SDX 11.1 56.15 イメージはサポートされていません。
- NetScaler Secure Web Gateway(SWG)は、リリース 12.0 56.20 以降でサポートされています。
- NetScaler クラスターは NetScaler SDX SWG インスタンスではサポートされていません。

関連情報

NetScaler SDX および VPX インスタンスをアップグレードする方法については、「12.1 リリースの単一バンドル ア ップグレード」を参照してください。

SDX ハードウェアプラットフォーム

September 30, 2024

さまざまな NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームは、さまざまな機能、通信ポート、および処理能力を提供します。すべてのプラットフォームにマルチコアプロセッサが搭載されています。

NetScaler SDX アプライアンスは、複数の仮想インスタンスをプロビジョニングおよび管理できるマルチテナント プラットフォームです。すべての NetScaler ADC アプライアンスには、前面から背面へのエアーフローがありま す。

現在のプラットフォームの最新リストについては、製品マトリックス をクリックし、**Citrix ADC** を選択してください。

NetScaler SDX 8900

January 25, 2024

NetScaler SDX 8900 アプライアンスは、1U アプライアンスです。このプラットフォームは、シングル 8 コアプロ セッサと 32 GB のメモリを備えています。アプライアンスは合計 10 個のネットワーク・ポートを提供します。

- 6 つの 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネットポート
- 4 つの 10G SFP+ イーサネットポート。

1G 銅トランシーバは、10G スロットでサポートされています。1G ファイバトランシーバはサポートされていません。

アプライアンスには 2 つの VPX インスタンスがあり、最大 7 つのインスタンスをサポートします。追加の 5 つのイ ンスタンスを別途購入できます。

NetScaler ハードウェアプラットフォームでサポートされているソフトウェアリリースについては、「NetScaler SDXハードウェアとソフトウェアの互換性マトリックス」を参照してください。

数字は説明のみを目的としています。

図 1: NetScaler SDX 8900 フロントパネル



NetScaler SDX 8900 アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット LOM ポート 1 つ。このポートを使用して、NetScaler ADC ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理します。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット管理ポート 1 個、番号が 0/1。このポートは、NetScaler ADC 管理機能用のアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 6 つの 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネットポート。左から右に 1/1 ~1/6 の番号が付けられています。
- 10 G SFP+ イーサネットポート 4 個、左から右に 10/1 ~10/4 の番号が付けられています。
- USB ポート (将来のリリース用に予約)。
- 図 2. NetScaler SDX 8900 背面パネル



SDX 8900 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

• 240 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ (SSD)

- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。
 - OS が機能している場合は、スイッチを2秒未満押して、正常なシャットダウンでシステムの電源を切断します。
 - OS が応答しない場合は、電源スイッチを4秒以上押して強制的に電源を切ります。

- LED カラー
 LED は示す

 オフ
 アプライアンスの電源装置に電力が供給されていません。

 赤に点滅
 この電源装置に電力が供給されていません。

 緑に点滅
 電源装置はスタンバイモードです。

 緑
 電源は機能している。

 赤
 電源装置の障害。
- 1 つの電源装置、100 ~240 VAC(冗長性のための 2 番目の電源装置は、お客様がインストール可能なオプションです)。各電源装置には、その状態を示す LED があります:

- アラームボタンを無効にする。アプライアンスに電源装置が2つある場合にのみ機能します。2つの電源装置のいずれかが入力電力を失う(2台目の電源装置がオプション)、または電源装置が故障した場合に、電源アラームを消音するには、このボタンを押します。
- NMI (マスク不可)割り込み (NMI)ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するため に使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他 の尖ったオブジェクトを使用します。NMIボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール]メニューで、ネ ットワーク経由でリモートから使用することもできます。詳しくは、「NetScaler SDX アプライアンスのライ トアウト管理ポート」を参照してください。

NetScaler SDX 9100

January 25, 2024

NetScaler SDX 9100 アプライアンスは 1U アプライアンスです。このプラットフォームには、単一の 10 コアプロ セッサと 64 GB のメモリが搭載されています。アプライアンスには合計 8 つの 25G SFP28 ポートがあります。

ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされるソフトウェアリリースについては、ハードウェア/ソフトウェ アリリースマトリックスを参照してください。

次の図は、SDX 9100 アプライアンスの前面パネルを示しています。

図 1: NetScaler SDX 9100、フロントパネル

						25/1 25/2 25/3 25/4	
ADC 9100	citrıx			LOM			BR
		Console Pc	USB Port	s Mar Mar	nagement Port	25/5 25/6 25/7 25/8]

NetScaler SDX 9100 シリーズアプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット LOM ポート 1 つ。このポートを使用して、ADC ソフトウェ アとは別に、アプライアンスをリモートで監視および管理します。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット管理ポート 1 個(番号は 0/1) このポートは、ADC 管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 2 つの USB ポート (将来のリリース用に予約)。
- 25/1 から 25/8 までの番号が付けられた 8 つの 25G SFP28 ポート。ポートごとにサポートされるトランシ ーバの詳細については、「25G、40G、50G、および 100G ポート」を参照してください。

次の図は、SDX 9100 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler SDX 9100、背面パネル



SDX 9100 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

• 480 GB のリムーバブルソリッドステートドライブ (SSD) x 1

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性がありますが、そのサイズは元のサイズ より小さくなることはありません。

• 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。

- OS が機能している場合は、スイッチを2秒未満押して、正常なシャットダウンでシステムの電源を切断します。
- OS が応答しない場合は、電源スイッチを4秒以上押して強制的に電源を切ります。
- 定格 450 ワット、100~240VAC の電源装置 2 個(2023 年 12 月 13 日以降に出荷されたハードウェア用)。
 最大消費電力は 275 ワットで、標準的な消費電力は 225 ワットです。次の表に、各電源装置の LED ステータスを示します。

LED カラー	LED が示す状態
オフ	アプライアンスの電源装置に電力が供給されていません。
赤に点滅	この電源装置に電力が供給されていません。
緑に点滅	電源装置はスタンバイモードです。
緑	電源は機能している。
赤	電源装置の障害。

- アラームボタンを無効にする。アプライアンスに電源装置が2つある場合にのみ機能します。2つの電源装置のいずれかが入力電力を失う(2台目の電源装置がオプション)、または電源装置が故障した場合に、電源アラームを消音するには、このボタンを押します。
- NMI (マスク不可)割り込み(NMI)ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するため に使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他 の尖ったオブジェクトを使用します。NMIボタンは、LOM GUI のリモートコントロールメニューでネットワ ーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートについて詳しく は、「NetScaler SDX アプライアンスのライトアウト管理ポート」を参照してください。

NetScaler SDX 14000

January 25, 2024

NetScaler SDX 14020/14030/14040/14060/14080/14100 は、2U アプライアンスです。各モデルは、2 つの 6 コアプロセッサと 64 GB のメモリと 16 個の 10G SFP+ ポート(16x10G SFP+)を備えています。

注:

NetScaler SDX のハードウェアとコンポーネントの互換性マトリックスについては、「NetScalerSDX ハード ウェアとソフトウェアの互換性マトリックス」を参照してください。

次の図は、SDX 14020/14030/14040/14060/14080/ 14100(16x10G SFP+)アプライアンスの前面パネルを示 しています。

図 1: NetScaler SDX 14020/14030/14040/14060/14080/14100(16x10G SFP+)、フロントパネル



NetScaler SDX 14020/14030/14040/14060/14080/14100 アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート(RJ45)。LOM ポートとも呼ばれます。このポートを使用して、 NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。
- 2 つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート (RJ45)。 左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられ ています。これらのポートは、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- ネットワークポート、16 個の 10G SFP+ ポート(16x10G SFP+)。
- USB ポート (将来のリリース用に予約)。
- 注

これらのアプライアンスの 10G SFP+ ポートは、銅線 1G SFP トランシーバをサポートします。

次の図は、SDX 14020/14030/14040/14060/14080/ 14100 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler SDX 14020/14030/14040/14060/14080/14100、背面パネル



SDX 14020/14030/14040/14060/14080/14100 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 独立したディスク (RAID)構成の冗長アレイ内の 240 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ 2 台。
 注: これらのドライブには NetScaler ソフトウェアが保存されており、ユーザーがドライブを増やすことはできません。
- 3~6 台の 300 GB 以上のソリッドステートドライブ。

注: これらのドライブは、VPX インスタンスのプロビジョニングに使用されます。追加のドライブを購入する には、NetScaler セールスサポートにお問い合わせください。

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性がありますが、そのサイズは元のサイズ より小さくなることはありません。

RAID 割り当ての管理の詳細については、「SDX 22XXX での RAID ディスク割り当ての管理」を参照してくだ さい。

- アプライアンスへの電源をオンまたはオフにする電源スイッチ。スイッチを2秒未満押して、電源を遮断します。
- **2** つの電源装置。各定格は 1000 ワット、100~240 ボルトです。各電源には、「一般的なハードウェアコンポ ーネント」で説明されているように、電源の状態を示す LED があります。
- ** アラームボタンを無効にします **。これは、アプライアンスに2つの電源装置がある場合にのみ機能します。次のいずれかの条件に当てはまる場合、このボタンを押して、電源アラームの鳴きを停止します。
 - アプライアンスを1つの電源コンセントにのみ接続している
 - 1つの電源装置が故障しており、修理されるまでアプライアンスの動作を続行する。
- マスクできない割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要請により、コアダンプを開始するために使用されます。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートについて詳しくは、「NetScaler SDX アプライアンスのライトアウト管理ポート」を参照してください。

注: 追加の SSD を含む SDX 14000 用のインスタンスライセンスパックを購入する場合は、CTX215581 をお読みく ださい。 追加のインスタンスライセンスを使用する前に、論理ドライブを追加する手順を完了してください。

NetScaler SDX 14000-40G

April 1, 2025

NetScaler SDX 14020-40G、SDX 14040-40G、SDX 14060-40G、SDX 14080-40G、SDX 14100-40G は 2U アプライアンスです。各モデルは、2 つの 6 コアプロセッサと 64 GB のメモリを備えています。SDX 14020-40G/14040G/140G/140G/140G/140G/140G/14100-40G アプライアンスは、4 つの 40G QSFP+ ポート、16 個 の 10G SFP+ ポート(4x40G QSFP+ + 16x10G SFP+)構成で使用できます。

NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされているソフトウェアリリースの詳細について は、「NetScaler SDX ハードウェアとソフトウェアの互換性マトリックス」を参照してください。

次の図は、SDX 14000-40G アプライアンスのフロントパネルを示しています。

図 1: インライン展開 図 1: NetScaler SDX 14020-40G、SDX 14040-40G、SDX 14060-40G、SDX 14080-40G、 SDX 14100-40G (4x40G QSFP+ + 16x10G SFP+)、フロントパネル



NetScaler SDX 14000-40G アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 2 つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート(RJ45)、左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられています。このポートを使用して、NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。注:LOM ポートの LED は設計上動作しません。
- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート (RJ45)。これらのポートは、システム管理機能のためにアプライア ンスに直接接続するために使用されます。
- ネットワークポート:4 つの 40G QSFP+ ポートと 16 個の 10G SFP+ ポート (4x40G QSFP+16x10G SFP+)。 ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「25G、40G、50G、および 100G ポート」を参 照してください。
- USB ポート (将来のリリース用に予約)。

次の図は、SDX 14000-40G アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: 図 2: NetScaler SDX 14020/14040/14060/14080/14100-40G(4x40G QSFP+、16x10G SFP+)、背面 パネル



SDX 14000-40G アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

 240 GB 以上のリムーバブル ソリッド ステート ドライブ (SSD) 2 台。2 台の 240 GB 以上の取り外し可能な ソリッドステートドライブ (SSD) 左端の 2 台のソリッドステートドライブには、NetScaler ADC ソフトウェ アが格納されます。次の 2 つのソリッドステートドライブは、ユーザーデータを格納します。残りの 4 つのソ リッドステートドライブは、将来使用するために予約されています。これらのアプライアンスは、独立ディス ク (RAID) デバイスの冗長アレイです。RAID 構成では、同じデータを複数のドライブに保存することで、パ フォーマンスを向上させ、ストレージ容量を増やし、データ損失のリスクを軽減し、フォールトトレランスを 実現します。

- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。スイッチを2秒未満押して、電源を遮断します。
- 2 つの電源装置、各電源装置の定格は 1000 ワット、100 ~240 ボルトです。各電源装置には、電源装置の状態を示す LED があります。
- アラームボタンを無効にします。このボタンは、アプライアンスに電源装置が2つある場合にのみ機能します。次のいずれかの条件に当てはまる場合、このボタンを押して、電源アラームの鳴きを停止します。
 - アプライアンスを1つの電源コンセントにのみ差し込んでいます。
 - 1つの電源装置が故障しており、修理されるまでアプライアンスの動作を続行する。
- テクニカルサポートからの依頼でコアダンプを開始するときに使用するマスク不可割り込み (NMI) ボタン。
 意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク 経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートについて詳しくは、「NetScaler SDX アプライアンスのライトアウト管理ポート」を参照してください。

NetScaler SDX 14xxX-40s

April 1, 2025

NetScaler SDX 14040-40S、SDX 14060-40S、SDX 14080-40S、SDX 14100-40S は 2U アプライアンスです。各 モデルは、2 つの 6 コアプロセッサと 64 GB のメモリを備えています。SDX 14040-40S/14060-40S/1408/14080-40S/SDX 14100-40S アプライアンスは、4 つの QSFP+ ポートと 16 個の 10G SFP+ ポート(4x40G QSFP+ + 8x10G SFP+)構成で使用できます。

NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされているソフトウェアリリースの詳細について は、「NetScaler SDX ハードウェアとソフトウェアの互換性マトリックス」を参照してください。

次の図は、SDX 14xxX-40s アプライアンスの前面パネルを示しています。

図 1: インライン展開 図 1: NetScaler SDX 14040-40S、SDX 14060-40S、SDX 14080-40S、SDX 14100-40S (4x40G QSFP+ + 8x10G SFP+)、フロントパネル



NetScaler SDX 14xxX-40s アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 2 つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート(RJ45)、左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられています。このポートを使用して、NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。注:LOM ポートの LED は設計上動作しません。
- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート (RJ45)。これらのポートは、システム管理機能のためにアプライア ンスに直接接続するために使用されます。
- ネットワークポート:4 つの 40S QSFP+ ポートと 8 つの 10G SFP+ ポート (4x40G QSFP+8x10G SFP+)。
 ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「25G、40G、50G、および 100G ポート」を参照してください。

次の図は、SDX 14xxX-40s アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: 図 2: NetScaler SDX 14040/14060/14080/14100-40S (4x40G QSFP+、8x10G SFP+)、バックパネル



SDX 14XX-40s アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

 240 GB 以上のリムーバブル ソリッド ステート ドライブ (SSD) 2 台。2 台の 240 GB 以上の取り外し可能な ソリッドステートドライブ (SSD) 左端の 2 台のソリッドステートドライブには、NetScaler ADC ソフトウェ アが格納されます。次の 2 つのソリッドステートドライブは、ユーザーデータを格納します。残りの 4 つのソ リッドステートドライブは、将来使用するために予約されています。これらのアプライアンスは、独立ディス ク (RAID) デバイスの冗長アレイです。RAID 構成では、同じデータを複数のドライブに保存することで、パ フォーマンスを向上させ、ストレージ容量を増やし、データ損失のリスクを軽減し、フォールトトレランスを 実現します。

- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。スイッチを2秒未満押して、電源を遮断します。
- 2 つの電源装置、各電源装置の定格は 1000 ワット、100 ~240 ボルトです。各電源装置には、電源装置の状態を示す LED があります。
- アラームボタンを無効にします。このボタンは、アプライアンスに電源装置が2つある場合にのみ機能します。次のいずれかの条件に当てはまる場合、このボタンを押して、電源アラームの鳴きを停止します。
 - アプライアンスを1つの電源コンセントにのみ差し込んでいます。
 - 1つの電源装置が故障しており、修理されるまでアプライアンスの動作を続行する。
- テクニカルサポートからの依頼でコアダンプを開始するときに使用するマスク不可割り込み (NMI) ボタン。
 意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク 経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートについて詳しくは、「NetScaler SDX アプライアンスのライトアウト管理ポート」を参照してください。

NetScaler SDX 14030 FIPS、14060 FIPS、14080 FIPS

April 1, 2025

NetScaler ADC モデルは、SDX 14030 FIPS、SDX 14060 FIPS、SDX 14080 FIPS は 2U アプライアンスです。各 モデルは、2 つの 6 コアプロセッサ、64 GB メモリ、16 個の 10G SFP+ ポート(16x10G SFP+)を備えています。

図 3. NetScaler SDX 14030/14060/14080 FIPS アプライアンスの背面パネル



NetScaler SDX 14030/14060/14080 FIPS アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 2 つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート(RJ45)、左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられています。このポートを使用して、NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。注:LOM ポートの LED は設計上動作しません。
- 2つの10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート (RJ45)、左から右に0/1と0/2の番号が付けられています。これらのポートは、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 16 個の 10G SFP+ ポート。
- USB ポート (将来のリリース用に予約)。

注:

- 10G ポートは、1G 銅線または 1G ファイバトランシーバをサポートしません。
- 40G ポートは、10G および 1G トランシーバをサポートしません。

図 2. NetScaler SDX 14030/14060/14080 FIPS アプライアンスの背面パネル



SDX 14030 FIPS、SDX 14060 FIPS、および SDX 14080 FIPS アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネ ントが表示されます。

- 独立したディスク (RAID)構成の冗長アレイ内の 240 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ 2 台。
 注: これらのドライブには NetScaler ソフトウェアが保存されており、ユーザーがドライブを増やすことはできません。
- 3~6 台の 300 GB 以上のソリッドステートドライブ。

注: これらのドライブは、VPX インスタンスのプロビジョニングに使用されます。追加のドライブを購入する には、NetScaler セールスサポートにお問い合わせください。

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性がありますが、そのサイズは元のサイズ より小さくなることはありません。

- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。スイッチを2秒未満押して、電源を遮断します。
- 2つの電源装置。各定格は1000 ワット、100~240 ボルトです。各電源装置には、電源の状態を示す LED が あります。「共通ハードウェアコンポーネント」を参照してください。
- ** アラームボタンを無効にします **。これは、アプライアンスにホットスワップ可能なデュアル冗長電源装置がある場合にのみ機能します。2つの電源装置の1つが入力電力を切断したとき、または電源装置が誤動作している場合に、電源アラームを消音するには、このボタンを押します。
- ノンマスカブル割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じて、コアダンプを開始するために 使用されます。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他 の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、リモート制御のライトアウト管理 GUI で、ネットワー ク経由でリモートから使用することもできます。詳しくは、「NetScaler SDX アプライアンスのライトアウト 管理ポート」を参照してください。

SDX 14030/14060/14080 FIPS アプライアンスの構成方法の詳細については、「SDX 14000 FIPS アプライアンスの構成」を参照してください。

NetScaler SDX 15000

January 25, 2024

NetScaler SDX 15020/15030/15040/15060/15080/15100/15120 アプライアンスは、2U アプライアンスです。 このプラットフォームには、2 つの 8 コアプロセッサと 128 GB のメモリが搭載されています。アプライアンスは、 合計 16 個のイーサネット 25G ポートを提供します。

NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされているソフトウェアリリースの詳細について は、「NetScaler SDX ハードウェアとソフトウェアの互換性マトリックス」を参照してください。

次の図は、SDX 15000 シリーズアプライアンスの前面パネルを示しています。

図 1: NetScaler SDX 15000、フロントパネル



NetScaler SDX 15000 シリーズアプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット LOM ポート 1 つ。このポートを使用して、NetScaler ADC ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理します。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット管理ポート1個、番号が0/1。このポートは、NetScaler ADC 管理機能用のアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 25G イーサネットポート 16 個、25/1~25/16 の番号付き。ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「25G、40G、50G、および 100G ポート」を参照してください。

次の図は、SDX 15000 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler SDX 15000、背面パネル



SDX 15000 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

 240 GB 4 台と 480 GB のリムーバブルソリッドステートドライブ (SSD) 4 台。2 つの 240 GB がシステムに よって使用され、残りは仮想インスタンスと RAID 1 ペアで使用されます。

- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。
 - OSが機能している場合は、スイッチを2秒未満押して、システムを正常にシャットダウンします。
 - OS が応答しない場合は、電源スイッチを4秒以上押して強制的に電源を切ります。
- ホットスワップ可能な 100 ~240 VAC 入力電源モジュール 2 個。各電源装置には、その状態を示す LED があります:

LED カラー	LED が示す状態
オフ	アプライアンスの電源装置に電力が供給されていません。
赤に点滅	この電源装置に電力が供給されていません。
緑に点滅	電源装置はスタンバイモードです。
緑	電源は機能している。
赤	電源装置の障害。

NetScaler SDX

LED カラー	LED が示す状態
赤と緑で点滅	警告(OVP/uVP/OCP/OTP/ファン)、OVP = 過電圧保 護、UVP = 低電圧保護、OCP = 過電流保護、OTP = 過
	温度保護

- アラームボタンを無効にする:アプライアンスに電源装置が2つある場合にのみ機能します。2つの電源装置のいずれかが入力電力を失う(2台目の電源装置がオプション)、または電源装置が故障した場合に、電源アラームを消音するには、このボタンを押します。
- Maskable Interrupt (NMI) ボタン: 意図しないアクティブ化を防ぐために凹んでおり、テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するために使用されます。この赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。[NMI] ボタンは、[リモート制御] メニューの [LOM GUI] で、ネットワーク経由でリモートでも使用できます。詳しくは、「NetScaler SDX アプライアンスの管理ポートが消灯」トピックを参照してください。

NetScaler SDX 15000-50G

April 1, 2025

NetScaler SDX 15020/15030/15040/15060/15080/15100/15120 50G モデルは、2U アプライアンスです。こ のプラットフォームは、デュアル 8 コアプロセッサと 128 GB のメモリを備えています。SDX 15000-50G アプライ アンスは、合計 12 個のネットワーク・ポートを提供します。

- 10 G SFP+ イーサネットポート 8 個
- 4 つの 50G イーサネットポート

NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされているソフトウェアリリースの詳細について は、「NetScaler SDX ハードウェアおよびコンポーネントの互換性マトリックス」を参照してください。

このガイドの図はあくまで示すものであり、実際の NetScaler ADC アプライアンスを表していない場合があります。

図 1. NetScaler SDX 15000-50G、フロントパネル



NetScaler SDX 15000-50G アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアル・コンソール・ポート ×1
- 10/100/1000 ベース-T RJ45 銅線イーサネットが、管理ポートから点灯します。このポートを使用して、 NetScaler ADC ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理します。
- 2 つの 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット管理ポート(0/1 および 0/2 の番号付き)これらのポートは、NetScaler ADC 管理機能用のアプライアンスに直接接続するために使用されます。これらのポートは、NetScaler 管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 10 G SFP+ イーサネットポート 8 個(10/1 ~10/8 の番号付き)各ポートには独自の LED があります。
- 50G ポート 4 個、50/1 から 50/4 までの番号が付けられています。各ポートには独自の LED があります。ポ ートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「25G、40G、50G、および 100G ポート」を参照 してください。
- フィギュア 2. NetScaler SDX 15000-50G、背面パネル

Solid-State Drives	Power Status LED 1		
	Power Switch	Power Supply 1	
	GND Stud Pow	er Status .ED 2	
NMI Button (recessed)	Disable Alarm Button	Power Supply 2	

SDX 15000-50G アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントがあります。

図 2 に示すように、2 台の 240 GB RAID サポートリムーバブルブートソリッドステートドライブ (SSD) (スロット1と2)。2 つの 240 GB RAID サポートリムーバブルストレージリポジトリ (スロット 3 および 4 のペア) SSD と 4 つの 480 GB ストレージリポジトリ (スロット 5 ~6 ペア、ペア7~8 ペア) の SSD

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性がありますが、そのサイズは元のサイズ より小さくなることはありません。

- アプライアンスへの電源をオンまたはオフにする電源スイッチ。OS が機能している場合は、スイッチを2秒 未満押して、正常なシャットダウンでシステムの電源を切断します。OS が応答しない場合は、電源スイッチ を4秒以上押して強制的に電源を切ります。
- ホットスワップ可能な 100 ~240 VAC 入力電源モジュール 2 個次の表に示すように、各電源装置には、その ステータスを示す LED があります。次の表に示すように、各電源にはステータスを示す LED があります。

LED カラー	LED が示す状態
オフ	アプライアンスの電源装置に電力が供給されていません。
赤に点滅	この電源モジュールに電力が供給されていません。
緑に点滅	電源装置はスタンバイモードです。
緑	電源は機能している。
赤	電源装置の障害。
赤と緑で点滅	警告(OVP/uVP/OCP/OTP/ファン)、OVP = 過電圧保
	護、UVP = 低電圧保護、OTP = 過温度保護。

• アラームを無効にするボタン。アプライアンスにホットスワップ可能なデュアル冗長電源装置がある場合にの

み機能します。2 つの電源装置の1つが入力電力を切断したとき、または電源装置が誤動作している場合に、 電源アラームを消音するには、このボタンを押します。

NMI (マスク不可割り込み) ボタン。テクニカルサポートの要求に応じてコアダンプを開始するために使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートについて詳しくは、「NetScaler SDX アプライアンスのライトアウト管理ポート」を参照してください。

NetScaler SDX 1600

January 25, 2024

NetScaler SDX 16000 アプライアンスは 2U アプライアンスです。このプラットフォームには、2 つの 16 コアプロ セッサと 256 GB (16 x 16 GB DIMM) のメモリが搭載されています。アプライアンスには、合計 8 つの 25G SFP28 ポートと 4 つの 100G QSFP28 イーサネットポートが用意されています。

ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされるソフトウェアリリースについては、ハードウェア/ソフトウェ アリリースマトリックスを参照してください。

次の図は、SDX 16000 アプライアンスの前面パネルを示しています。

図 1: NetScaler SDX 16000、フロントパネル



NetScaler SDX 16000 シリーズアプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット LOM ポート 1 つ。このポートを使用して、ADC ソフトウェ アとは別に、アプライアンスをリモートで監視および管理します。
- 2 つの 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット管理ポート、0/1 と 0/2 の番号が付けられています。こ れらのポートは、ADC 管理機能用のアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 2 つの USB ポート (将来のリリース用に予約)。
- 25/1 から 25/8 までの番号が付けられた 8 つの 25G SFP28 ポート。100/1 から 100/4 の番号が付けられた 4 つの 100G QSFP28 ポート。ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「25G、40G、 50G、および 100G ポート」を参照してください。

次の図は、SDX 16000 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler SDX 16000、背面パネル



SDX 16000 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 480 GB のリムーバブルソリッドステートドライブ (ブートドライブ) × 2
- データ保存用の 480 GB のリムーバブルソリッドステートドライブ 6 台

- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。
 - OS が機能している場合は、スイッチを2秒未満押して、正常なシャットダウンでシステムの電源を切断します。
 - OS が応答しない場合は、電源スイッチを4秒以上押して強制的に電源を切ります。

• それぞれ定格 850 ワット、100~240VAC の電源装置を 2 台搭載しています。次の表に、各電源装置の LED ステータスを示します。

LED カラー	LED が示す状態
オフ	アプライアンスの電源装置に電力が供給されていません。
赤に点滅	この電源装置に電力が供給されていません。
緑に点滅	電源装置はスタンバイモードです。
緑	電源は機能している。
赤	電源装置の障害。

- アラームボタンを無効にする。アプライアンスに電源装置が2つある場合にのみ機能します。2つの電源装置のいずれかが入力電力を失う(2台目の電源装置がオプション)、または電源装置が故障した場合に、電源アラームを消音するには、このボタンを押します。
- NMI (マスク不可)割り込み(NMI)ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するため に使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他 の尖ったオブジェクトを使用します。NMIボタンは、LOM GUI のリモートコントロールメニューでネットワ ーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートについて詳しく は、「NetScaler SDX アプライアンスのライトアウト管理ポート」を参照してください。

NetScaler SDX 25100A、SDX 25160A

January 25, 2024

NetScaler SDX 25100A および SDX 25160A は 2U アプライアンスです。各モデルには、2 つの 10 コアプロセッ サ、256 GB のメモリ、8 つの 40GE QSFP+ ポート (8x40GE QSFP+) が搭載されています。



図 1: NetScaler SDX 25100A および SDX 25160A フロントパネル

NetScaler SDX 25160A および SDX 25100A アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート(RJ45)。LOM ポートとも呼ばれます。このポートを使用して、 NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。
- ネットワークポート、8 つの 40G QSFP+ ポート。ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「25G、40G、50G、および 100G ポート」を参照してください。

注

40G ポートは、10G および 1G トランシーバをサポートしません。

図 2. NetScaler SDX 25100A および SDX 25160A 背面パネル



SDX 25100A および SDX 25160A アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

 300 GB リムーバブルソリッドステートドライブ(SSD) ×2。左端の2台のソリッドステートドライブには、 NetScaler ADC ソフトウェアが格納されます。次の2つのソリッドステートドライブは、ユーザーデータを 格納します。残りの4つのソリッドステートドライブは、将来使用するために予約されています。これらのア プライアンスは、独立ディスク(RAID)デバイスの冗長アレイです。

- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。スイッチを2秒未満押して、電源を遮断 します。
- 2 つの電源装置。各定格は 1000 ワット、100~240 ボルトです。各電源装置には、電源装置の状態を示す LED があります。
- アラームボタンを無効にします。これは、アプライアンスにホットスワップ可能なデュアル冗長電源装置がある場合にのみ機能します。2つの電源装置の1つが入力電力を切断したとき、または電源装置が誤動作している場合に、電源アラームを消音するには、このボタンを押します。
- ノンマスカブル割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じて、コアダンプを開始するために 使用されます。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他 の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネッ トワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートについて詳 しくは、「NetScaler SDX アプライアンスのライトアウト管理ポート」を参照してください。

NetScaler SDX 25100-40G

January 25, 2024

NetScaler SDX 25100-40G および SDX 25160-40G は、2U アプライアンスです。各モデルは、2 つの 10 コアプ ロセッサ、256 GB のメモリ、4 つの 40G QSFP+ ポート、16 個の 10G SFP+ ポート(4x40G QSFP+ + 16x10G SFP+)を備えています。



図 1: NetScaler SDX 25100 40G、SDX 25160 40G(4x40G QSFP+16x10G SFP+)フロントパネル

NetScaler SDX 25100 40G、SDX 25160 40G アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート(RJ45)。LOM ポートとも呼ばれます。このポートを使用して、 NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。
- 2 つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート (RJ45)、 左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられ ています。これらのポートは、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- ネットワークポート:4 つの 40G QSFP+ ポートと 16 個の 10G SFP+ ポート (4x40G QSFP+16x10G SFP+)。 ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「25G、40G、50G、および 100G ポート」を参 照してください。
- USB ポート (将来のリリース用に予約)。

注:

- 10G ポートは、1G 銅線または 1G ファイバトランシーバをサポートしません。
- 40G ポートは、10G および 1G トランシーバをサポートしません。

図 2. NetScaler SDX 25100-40G および SDX 25160-40G 背面パネル



SDX 25100-40G、SDX 25160-40G アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

 300 GB リムーバブルソリッドステートドライブ(SSD) ×2。左端の2台のソリッドステートドライブには、 NetScaler ADC ソフトウェアが格納されます。次の2つのソリッドステートドライブ(それぞれ 300 GB)には、ユーザーデータが格納されます。残りの4つのソリッドステートドライブは、将来使用するために予約されています。

- ・電源スイッチ。アプライアンスの電源をオンまたはオフにするのはどちらですか?スイッチを2秒未満押して、電源を遮断します。
- 2 つの電源装置。各定格は 1000 ワット、100~240 ボルトです。各電源には、「一般的なハードウェアコンポーネント」(/ja-jp/netscaler-hardware-platforms/sdx/common-hardware-components.html)で説明されているように、電源の状態を示す LED があります。
- アラームボタンを無効にします。これは、アプライアンスにホットスワップ可能なデュアル冗長電源装置がある場合にのみ機能します。2つの電源装置の1つが入力電力を切断したとき、または電源装置が誤動作している場合に、電源アラームを消音するには、このボタンを押します。
- ノンマスカブル割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じて、コアダンプを開始するために 使用されます。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他 の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネッ トワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートについて詳 しくは、「NetScaler SDX アプライアンスのライトアウト管理ポート」を参照してください。

NetScaler SDX 26000

January 25, 2024

NetScaler SDX 26000 アプライアンスは、2U アプライアンスです。これらのアプライアンスには、2 つの 14 コア プロセッサと 256 GB のメモリが搭載されています。アプライアンスには、8 つの 50G ネットワークポートと 16 個 の 25G ネットワークポートがあります。

NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされているソフトウェアリリースについて は、「NetScaler SDX ハードウェアとソフトウェアの互換性マトリックス」を参照してください。

次の図は、NetScaler SDX 26000 アプライアンスのフロントパネルを示しています。

図 1: NetScaler SDX 26000、フロントパネル



NetScaler SDX 26000 アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット LOM ポート 1 つ。このポートを使用して、NetScaler ADC ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理します。
- 2 つの 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット管理ポート(0/1 および 0/2 の番号付き)これらのポートは、NetScaler ADC 管理機能用のアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 8 つの 50G ポート、50/1 から 50/8 までの番号が付いています。
- 25/1~25/16の番号が付いた 16 個の 25G ポート。ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「25G、40G、50G、および 100G ポート」を参照してください。

次の図は、SDX 26000 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler SDX 26000、背面パネル



NetScaler SDX 26000 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

• 2 つの 240 GB と 6 つの 960 GB リムーバブルソリッドステートドライブ (SSD)

- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。
 - OS が機能している場合は、スイッチを2秒未満押して、正常なシャットダウンでシステムの電源を切断します。
 - OS が応答しない場合は、電源スイッチを4秒以上押して強制的に電源を切ります。
- ホットスワップ可能な 100 ~240 VAC、1000 W 電源モジュール 2 個。最大消費電力は 672 W です。標準的 な消費電力は 540 W です。各電源装置には、次のような状態を示す LED があります。

LED カラー	LED が示す状態
オフ	アプライアンスの電源装置に電力が供給されていません。
赤に点滅	この電源装置に電力が供給されていません。
緑に点滅	電源装置はスタンバイモードです。
緑	電源は機能している。
赤	電源装置の障害。
赤と緑で点滅	警告(OVP/uVP/OCP/OTP/ファン)、OVP = 過電圧保
	護、UVP = 低電圧保護、OCP = 過電流保護、OTP = 過
	温度保護

- アラームボタンを無効にします。2つの電源装置の1つが入力電力を失ったとき、または電源装置が故障した場合に、電源アラームを消音するには、このボタンを押します。
- NMI (マスク不可)割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するため に使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他 の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール]メニューで、ネッ トワーク経由でリモートから使用することもできます。詳しくは、「NetScaler SDX アプライアンスのライト アウト管理ポート」を参照してください。

NetScaler SDX 26000-50S

January 25, 2024

NetScaler SDX 26xxX-50 アプライアンスは、2U アプライアンスです。これらのアプライアンスには、2 つの 14 コアプロセッサと 256 GB のメモリが搭載されています。アプライアンスには、4 つの 50G ネットワークポートと 16 個の 25G ネットワークポートがあります。

NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされているソフトウェアリリースについて は、「NetScaler SDX ハードウェアとソフトウェアの互換性マトリックス」を参照してください。

次の図は、NetScaler SDX 26xxX-50S アプライアンスのフロントパネルを示しています。

図 1: NetScaler SDX 26xxX-50s、フロントパネル



NetScaler SDX 26xxX-50s アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット LOM ポート 1 つ。このポートを使用して、NetScaler ADC ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理します。
- 2 つの 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット管理ポート(0/1 および 0/2 の番号付き)これらのポートは、NetScaler ADC 管理機能用のアプライアンスに直接接続するために使用されます。

- 50G ポート 4 個、50/1 から 50/4 までの番号が付けられています。
- 25/1 ~25/16の番号が付いた 16 個の 25G ポート。ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「25G、40G、50G、および 100G ポート」を参照してください。

次の図は、SDX 26xxX-50S アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler SDX 26xxX-50s、背面パネル



NetScaler SDX 26xxX-50S アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

• 2 つの 240 GB と 6 つの 960 GB リムーバブルソリッドステートドライブ (SSD)

- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。
 - OS が機能している場合は、スイッチを 2 秒未満押して、正常にシャットダウンします。
 - OS が応答しない場合は、電源スイッチを4秒以上押して、ハードシャットダウンします。
- ホットスワップ可能な 100 ~240 VAC、1200 W 電源モジュール ×2 最大消費電力は 764 W です。標準的な 消費電力は 628 W です。各電源装置には、その状態を示す LED があります。

LED カラー	LED が示す状態
オフ	アプライアンスの電源装置に電力が供給されていません。
赤に点滅	この電源装置に電力が供給されていません。
緑に点滅	電源装置はスタンバイモードです。
禄	電源は機能している。

LED カラー	LED が示す状態
赤	電源装置の障害。
赤と緑で点滅	警告; (OVP/uVP/OCP/OTP/ファン); OVP = 過電圧保護; UVP = 低電圧保護; OCP = 過電流保護; OTP = 過温度保 護

- アラームボタンを無効にします。このボタンを押すと、電源装置が入力電力を失ったとき、または電源装置が 誤動作しているときに、電源アラームを消音します。
- Maskable Interrupt (NMI) ボタン: 意図しないアクティブ化を防ぐために凹んでおり、テクニカルサポートの要求に応じてコアダンプを開始するために使用されます。この赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク経由でリモートから使用することもできます。詳しくは、「NetScaler SDX アプライアンスのライトアウト管理ポート」を参照してください。

NetScaler SDX 26000-100G

January 25, 2024

NetScaler SDX 26000-100G アプライアンスは、2U アプライアンスです。このプラットフォームは、2 つの 14 コ アプロセッサと 256 GB のメモリを備えています。アプライアンスには、合計 8 個のネットワークポートが用意され ています。

NetScaler ハードウェアプラットフォームでサポートされているソフトウェアリリースについて詳しく は、「NetScaler SDX ハードウェアとソフトウェアの互換性マトリックス] (/ja-jp/netscaler-hardwareplatforms/sdx/sdx-hardware-software-compatibility-matrix.html) を参照してください。

このガイドの図はあくまで示すものであり、実際の NetScaler ADC アプライアンスを表していない場合があります。

図 1: NetScaler SDX 26000-100G フロントパネル



NetScaler SDX 26000-100G アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット LOM ポート 1 つ。このポートを使用して、NetScaler ADC ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理します。
- 2 つの 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット管理ポート(0/1 および 0/2 の番号付き)これらのポートは、NetScaler ADC 管理機能用のアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 100 G イーサネットポート 8 個。左から右に 100/1 ~100/8 の番号が付いています。ポートごとにサポート されるトランシーバの詳細については、「25G、40G、50G、および 100G ポート」を参照してください。



図 2. NetScaler SDX 26000-100G 背面パネル

SDX 26000-100G アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 2 つの 240 GB リムーバブルブートソリッドステートドライブ (SSD)
- 6 つの 960 GB リムーバブル SSD。

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性がありますが、そのサイズは元のサイズ より小さくなることはありません。

- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。
 - OS が機能している場合は、スイッチを2秒未満押して、正常なシャットダウンでシステムの電源を切断します。
 - OS が応答しない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押して強制的に電源を切ります。
- 電源装置×2、100~240 VAC。次の表に示すように、各電源装置には、そのステータスを示す LED があります。

LED カラー	LED が示す状態
オフ	アプライアンスの電源装置に電力が供給されていません。
赤に点滅	この電源装置に電力が供給されていません。
緑に点滅	電源装置はスタンバイモードです。
緑	電源は機能している。
赤	電源装置の障害。
赤と緑で点滅	警告 (OVP/UVP/OCP/OTP/ファン)、OVP = 過電圧保
	護、UVP = 不足電圧保護、OCP = 過電流保護、OTP =
	過熱保護。

- アラームボタンを無効にする。これは、アプライアンスにホットスワップ可能なデュアル冗長電源装置がある 場合にのみ機能します。2つの電源装置の1つが入力電力を切断したとき、または電源装置が誤動作している 場合に、電源アラームを消音するには、このボタンを押します。
- NMI (マスク不可)割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するため に使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他 の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール]メニューで、ネッ トワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートについて詳 しくは、「NetScaler SDX アプライアンスのライトアウト管理ポート」を参照してください。

一般的なハードウェアコンポーネント

September 30, 2024
各プラットフォームには、フロントパネルと背面パネルのハードウェアコンポーネントがあります。フロントパネル には、LCD ディスプレイと RS232 シリアルコンソールポートがあります。ポートの数、タイプ、場所(銅線イーサネ ット、銅線と光ファイバーの 1G SFP、10GSFP+、40G QSFP+)。背面パネルからは、ファンと現場交換可能ユニッ ト (電源、CompactFlash カード、ソリッド ステート ドライブ、ハード ディスク ドライブ) にアクセスできます。

LCD ディスプレイと LED ステータスインジケータ

一部の NetScaler ADC SDX アプライアンスでは、フロントパネルの LCD にアプライアンスのモデル番号が表示されますが、表示される番号はライセンスされたモデル番号ではない場合があります。SDX アプライアンスのライセンス済みモデル番号を表示するには、管理サービスにログオンし、画面の左上隅にあるライセンスモデル番号を確認します。たとえば、SDX 11515 ライセンスを購入した場合、LCD 画面には CITRIX NSSDX-11500、[管理サービス] 画面には NetScaler SDX (11515) と表示されます。

NetScaler ADC アプライアンスの LCD バックライトは常に点灯しています。

アプライアンスの背面パネルには、システムステータス LED がアプライアンスの全体的なステータスを示します。次の表に、システムステータス LED のインジケータを示します。

アプライアンスの背面パネルには、電源ステータス LED が各電源のステータスを示します。

注

システムステータス LED は、一部の NetScaler ADC SDX アプライアンスでのみ使用できます。

LED カラー	LED が示す状態
オフ	電源なし
緑	アプライアンスに電力が供給されています
赤	アプライアンスがエラーを検出しました

ポート LED は、リンクが確立され、トラフィックがポートを通過しているかどうかを示します。次の表に、各ポートの LED インジケータを示します。ポートタイプごとに 2 つの LED インジケータがあります。

注

このセクションはすべてのアプライアンスに適用されます。

LED port-status indicators

NetScaler SDX

ポートタイプ		LED カラー	LED は示	ंग
50Gbps		オフ	リンクが確立されていません リンクに問題があることを示します	
		オレンジで点滅		
		緑に点灯	アクティ	ブなトラフィックのない有
			効なリン	クを示します
		緑で点滅	アクティブなトラフィックを持つ有	
			効なリン	クを示します
ポートタイプ	LED	LED	LED カラー	LED は示す
10 Gbps	上	速度	オフ	接続なし。
			青一色	10 ギガビット/秒の
				トラフィックレート
	下	リンク/アクティビ ニ /	オフ	リンクなし
		7 1	緑に点灯	リンクは確立されて
				いるが、ポートを通
				過するトラフィック
				がない
			緑で点滅	トラフィックがポー
				トを通過している
1G SFP (1 Gbps)	左	リンク/アクティビ	オフ	リンクなし
		ティ		
			緑に点灯	リンクは確立されて
				いるが、ポートを通
				過するトラフィック
			组本上述	かない
			家で見滅	トラフィックかホー
	右	速度	オフ	接続なし
	п	~~~~	#	1 ギギビ 1 /54 の 1
			奥	エキガビット/秒のト
マネジメント	左	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	オフ	ラフィックレート 接続なし、または
(RJ45)	<u>~</u>			10 メガビット/秒
(1040)				(Mbps) のトラフィ
				ックレート

ポートタイプ	LED	LED	LED カラー	LED は示す
			緑	100 Mbps のトラフ ィックレート
			黄	1ギガビット/秒のト
				ラフィックレート
	右	リンク/アクティビ	オフ	リンクなし
		ティ		
			黄色に点灯	リンクは確立されて
				いるが、ポートを通
				過するトラフィック
				がない

各電源装置の2色の LED インジケータは、電源装置の状態を示します。

LED 電源インジケータ

電源タイプ	LED カラー	LED は示す
AC	オフ	電源装置に電力が供給されない
	赤に点滅	この電源装置に電力がありません
	緑に点滅	電源はスタンバイモードです
	緑	電源は機能している
	赤	電源装置の障害

ポート

ポートは、アプライアンスを外部デバイスに接続するために使用されます。NetScaler アプライアンスは、RS232 シリアルポート、10/100/1000Base-T 銅線イーサネットポート、1 ギガビット銅線および光ファイバー 1G SFP ポ ート、10 ギガビット光ファイバー SFP+、25 GB、40 GB QSFP+、50 GB、および 100 GB をサポートします。ポ ート. すべての NetScaler ADC アプライアンスには、これらのポートの一部またはすべての組み合わせがあります。 アプライアンスで使用可能なポートの種類と数の詳細については、そのプラットフォームについて説明しているセク ションを参照してください。

注

NetScaler ADC アプライアンスは、受信側スケーリング(RSS)機能を活用して、トラフィックを最適に分散 して処理します。TCP/IP プロトコル、送信元 IP アドレス、宛先 IP アドレス、送信元ポート、宛先ポート、宛 先ポート: RSS の実装は、5 タプルに基づいて、そのキュー間でパケットを分散 Toplitz ハッシュに基づいて います。

RS232 シリアルポート

RS232 シリアル・コンソール・ポートは、アプライアンスとコンピュータ間の接続を提供し、初期構成またはトラブ ルシューティングのためにアプライアンスに直接アクセスできるようにします。

すべてのハードウェアプラットフォームには、コンピュータとアプライアンスの接続に使用する適切なシリアル・ケーブルが付属しています。コンピューターをアプライアンスに接続する方法については、「ハードウェアのインストール」を参照してください。

銅線イーサネットポート

アプライアンスの多くのモデルにインストールされている銅線イーサネットポートは、標準の RJ45 ポートです。 アプライアンスにインストールされる銅線イーサネットポートには、次の 2 種類があります。

• 10/100BASE-T ポート

10/100BASE-T ポートの最大伝送速度は 100 メガビット/秒(Mbps)です。ほとんどのプラットフォームに は、少なくとも 1 つの 10/100BASE-T ポートがあります。ほとんどのプラットフォームには、少なくとも 1 つの 10/100BASE-T ポートがあります。

• 10/100/1000BASE-T ポート

10/100/1000BASE-T ポートの最大伝送速度は1ギガビット/秒で、他のタイプの銅線イーサネットポートの 10 倍高速です。ほとんどのプラットフォームには、少なくとも1つの10/100/1000Base-T ポートがありま す。ほとんどのプラットフォームには、少なくとも1つの10/100/1000Base-T ポートがあります。

これらのポートのいずれかをネットワークに接続するには、標準イーサネットケーブルの一方の端をポートに接続し、 もう一方の端を適切なネットワークコネクタに接続します。

管理ポート

管理ポートは標準の銅線イーサネットポート(RJ45)で、システム管理機能のためにアプライアンスへの直接アクセ スに使用されます。

1G SFP、10G SFP+、および **40G QSFP+** ポート

1G SFP ポートは、1 Gbps の速度で動作できます。銅線イーサネットポートとして動作するための銅線 1G SFP ト ランシーバ、または光ファイバポートとして動作するためのファイバ 1G SFP トランシーバのいずれかを受け入れま す。 10G SFP+ および Base-T 10G、40G QSFP+ は、最大 40 Gbps の速度で動作できる高速ポートです。ポートに接続するには、光ファイバケーブルが必要です。光ファイバケーブルのもう一方の端が 1G SFP ポートに接続されてい る場合、10G SFP+ ポートは、1G SFP ポートの速度と一致するようにネゴシエートします。

ポートの互換性

一部のアプライアンスでは、10G スロットは銅線 1G トランシーバをサポートしており、10 Gbps スロットでは最大 1 Gbps で動作できます。

注

- 一部のプラットフォームには、銅線トランシーバをサポートしない 10G スロットがあります。サポートの詳細については、アカウント担当者にお問い合わせください。
- ファイバ 1G トランシーバを 10G スロットに挿入することはできません。
- 10G トランシーバを 1G スロットに挿入することはできません。

10G SFP+ モジュールはデュアルスピードに対応しており、モデルの接続先ピアスイッチに応じて、1 Gbps と 10 Gbps の両方をサポートします。

25G、40G、50G、および 100G ポート

100G ポートは、10G、25G、40G、50G、100G の 5 速度をサポートできる。100G ポートでは 1G 速度はサポート されない。50G ポートと 100G ポートは同じトランシーバを使用する。40G QSFP+ は 40Gbps までの速度で動作 できる高速ポートである。ポートではなく、アプライアンスが速度を決定します。

QSFP28 インターフェイスで直接使用できるのは 50G/100G (QSFP28) トランシーバだけです。10G (SFP+) および 25G (SFP28) トランシーバを使用するには、QSFP28 インターフェイスで QSA28 アダプタを使用します。ピアが 40G の場合は、50G/100G ポートに 40G QSFP+ トランシーバを使用してください。

次の図は、トランシーバの互換性を示しています。





メモ:

- フォートビルファームウェア 8.70 は 1G 接続をサポートしていません。フォートビルファームウェア 8.70 を使用している場合、デュアルスピード 10G/1G SFP+ (SR LC と LR LC の両方) は 1G では動作し ません。
- i40e_firmware_view.shを使用してファームウェアのバージョンを確認してください。
- ファームウェアのバージョンが7.0 であることを確認します。ファームウェアのバージョンを7.0 にダ ウングレードするには、次のように入力します。

```
1 [root@netscaler-sdx ~]# echo "version 7.00" > /opt/xensource/
    packages/files/sdx-firmware/i40efirmware-target
2 [root@netscaler-sdx ~]# echo "version 7.00" > /opt/xensource/
    packages/files/sdx-firmware/i40efirmware-direction
3 [root@netscaler-sdx ~]#reboot
```

ほとんどのテーブルには、次の列があります。

- 摘要:部品の価格表の摘要。
- 送信波長: 公称伝送波長。
- ケーブル/ファイバタイプ:ファイバ特性は達成可能な最大伝送距離に影響します。特に、マルチモードファイバ (MMF) で 10G の場合、さまざまな分散コンポーネントが支配的になります。詳しくは、 http://www.thefoa.org/tech/ref/basic/fiber.htmlを参照してください。
- 標準リーチ:最大送信距離。
- 製品: 一部のシャーシは、異なるメディアオプションで利用できます。該当するデータシートを使用して、特定のシャーシタイプがメディアをサポートしていることを確認します。

1G プラグ可能なメディア

次の表に、1Gトランシーバの最大距離仕様を示します。

銅 1G SFP 距離仕様 説明: NetScaler 1G SFP イーサネット銅線(100 m) -4 パック

送信機波長(nm):適用不可

ケーブルタイプ:カテゴリ5(猫5)銅ケーブル。

典型的なリーチ (m): 100 m

適用可能なプラットフォーム:

- SDX 14000
- SDX 16000
- SDX 22040/22060/22080/22100/22120
- SDX 24100/24150

```
短いリーチファイバ 1G SFP 距離仕様 説明: NetScaler 1G SFP イーサネット SX (300 m) -4 パック
送信機波長 (nm): 850 nm (公称)
ファイバーの種類:50/125um MMF、2000MHZ-km (OM3) 典型的なリーチ (メートル): 550m
ファイバーの種類:50/125um MMF、500MHz-km (OM2) 典型的なリーチ (m): 550m
ファイバーの種類:50/125um MMF、400mHZ-km 典型的なリーチ (m): 550m
ファイバーの種類:62.5/125um MMF、200mHZ-km (OM1) 典型的なリーチ (m): 300m
ファイバーの種類:62.5/125um MMF、160MHZ-km 典型的なリーチ (m): 300m
適用可能なプラットフォーム: SDX 22040/22060/22080/22100/22120 SDX 24100/24150
短いリーチファイバ 1G SFP 距離仕様 説明: NetScaler 1G SFP イーサネット短距離 (300 m) -シングル
送信機波長 (nm): 850 nm (公称)
```

ファイバーの種類:50/125um MMF、2000MHZ-km (OM3) 典型的なリーチ (メートル): 550m

ファイバーの種類:50/125um MMF、500MHz-km (OM2) 典型的なリーチ (m): 550m

ファイバーの種類:50/125um MMF、400mHZ-km 典型的なリーチ (m): 550m

ファイバーの種類:62.5/125um MMF、200mHZ-km (OM1) 典型的なリーチ (m): 275 m

ファイバーの種類:62.5/125um MMF、160MHZ-km 典型的なリーチ (m): 220m

適用可能なプラットフォーム:

- SDX 22040/22060/22080/22100/22120
- SDX 24100/24150

長いリーチファイバ 1G SFP 距離仕様 説明: NetScaler 1G SFP イーサネット LX-シングル

送信機波長 (nm): 1310 nm (公称)

ファイバータイプ: 9/125um SMF

典型的なリーチ (m): 10 km

適用可能なプラットフォーム:

- SDX 22040/22060/22080/22100/22120
- SDX 24100/24150

長いリーチファイバ **1G SFP** 距離仕様 説明: NetScaler 1G SFP イーサネットロングレンジ(10 km)-シング ル

送信機波長 (nm): 1310 nm (公称)

ファイバータイプ: 9/125um SMF

典型的なリーチ (m): 10 km

適用可能なプラットフォーム:

- SDX 22040/22060/22080/22100/22120
- SDX 24100/24150

10 GE プラグ可能なメディア

次の表に、10G トランシーバの最大距離仕様を示します。

ショートリーチファイバ **10G SFP+** 距離仕様 説明:NetScaler 10G SFP+、イーサネットショートレンジ (300 m) -シングル

送信機波長 (nm): 850 nm (公称)

ファイバータイプ 50/125um MMF、2000MHz-km (OM3)、標準リーチ (m): 300 m 50/125um MMF、500MHzkm (OM2)、標準リーチ (m): 82 m 50/125um MMF、400Mhz-km、標準リーチ 66 m 62.5/125um MMF、 200MHz-Km (OM1)、標準リーチ:33 m 62.5/125um MMF、160MHz-km、標準リーチ:26 m

適用可能なプラットフォーム:

- SDX 9100
- SDX 14000
- SDX 14000-40G
- SDX 14000-40S
- SDX 14000FIPS

- SDX 15000
- SDX 15000-50G(50G ポートを 10G トランシーバに接続するにはアダプタが必要)
- SDX 16000 (100G ポートを 10G トランシーバに接続するにはアダプタが必要)
- SDX 22040/22060/22080/22100/22120
- SDX 24100/24150
- SDX 25000-40G
- SDX 26000 (50G ポートを 10G トランシーバに接続するにはアダプタが必要)
- SDX 26000-50S(50G ポートを 10G トランシーバに接続するにはアダプタが必要)
- SDX 26000-100G(100G ポートを 10G トランシーバに接続するにはアダプタが必要)

長リーチファイバ **10G SFP+** 距離仕様 説明: NetScaler 10G SFP+ イーサネットロングレンジ(10 km)-シン グル

送信機波長 (nm): 1310 nm (公称)

ファイバータイプ: 9/125um SMF

典型的なリーチ (m): 10 km

適用可能なプラットフォーム:

- SDX 9100
- SDX 14000
- SDX 14000-40G
- SDX 14000-40S
- SDX 14000FIPS
- SDX 15000
- SDX 15000-50G(50G ポートを 10G トランシーバに接続するにはアダプタが必要)
- SDX 16000 (100G ポートを 10G トランシーバに接続するにはアダプタが必要)
- SDX 22040/22060/22080/22100/22120
- SDX 24100/24150
- SDX 25000-40G
- SDX 26000 (50G ポートを 10G トランシーバに接続するにはアダプタが必要)
- SDX 26000-50S(50G ポートを 10G トランシーバに接続するにはアダプタが必要)
- SDX 26000-100G(100G ポートを 10G トランシーバに接続するにはアダプタが必要)

フィールド交換可能ユニット

April 1, 2025

NetScaler ADC フィールド交換可能ユニット(FRU)は、アプライアンスから取り外し、ユーザーまたは技術者が ユーザーのサイトで交換できるコンポーネントです。NetScaler SDX アプライアンスの FRU には、DC または AC 電源、ソリッドステートドライブ(SSD)、および直接接続ケーブル(DAC)を含めることができます。

NetScaler FRU はすべて Citrix から購入する必要があります。NetScaler が提供していないコンポーネントは、 NetScaler アプライアンスではサポートされていません。アプライアンス用の FRU を購入するには、NetScaler の 営業担当者にお問い合わせください。

注

このセクションの数字は、説明です。実際の製品は型番によって異なる場合があります。

このセクションでは、以下のトピックについて説明します:

- 電源装置
- ソリッドステートドライブ
- 直接接続ケーブル

電源装置

2 つの電源装置を含むアプライアンスの場合、2 台目の電源はバックアップとして機能します。一部のアプライアン スでは、4 つの電源装置を搭載でき、正常に動作するためには 2 つの電源装置が必要です。3 番目と 4 番目の電源は バックアップとして機能します。すべての電源装置が同じタイプ(AC または DC)である必要があります。

SDX アプライアンスには、国固有の電源コードとプラグが付属しています。

電源の仕様については、さまざまなプラットフォームについて説明している SDX ハードウェアプラットフォームの トピックを参照してください。

注

電源ファンが動作していないと思われる場合は、SDX GUI または消灯管理を使用してシステムの状態を確認してください。詳しくは、NetScaler SDX アプライアンスのシステムヘルスモニタリングとライトアウト管理ポートを参照してください。

各電源装置の2色のLEDインジケータは、電源装置の状態を示します。緑は、アプライアンスに電力が供給されていることを示します。赤は、電源装置がエラーを検出したことを示します。LED電源インジケータの詳細については、「一般的なハードウェアコンポーネント」の「LCDディスプレイとLEDステータスインジケータ」を参照してください。

電源装置の交換に関する電気的安全上の注意

 通常の使用中は、アプライアンスがアースに直接物理的に接続されていることを確認します。アプライアンス を取り付けまたは修理するときは、必ずアース回路を最初に接続し、最後に切断してください。

- NetScaler SDX アプライアンスには、(FRU) セクションに記載されている場合を除き、ユーザーサービス可能なコンポーネントは含まれません。シャーシを開けないでください。
- 電源装置を取り外す前に、必ず電源コードを電源から抜いてください。
- 電源コードが差し込まれているときは、電源装置に触れないでください。電源コードが差し込まれている限り、 電源スイッチがオフになっていても、電源装置に回線電圧が供給されます。

安全上の注意事項の一覧については、「安全性、注意事項、警告、およびその他の情報」を参照してください。

AC または DC 電源を交換してください

アプライアンスに電源装置が1つしかない場合は、電源装置を交換する前にアプライアンスをシャットダウンする必要があります。アプライアンスに電源装置が2つある場合は、もう一方の電源装置が動作していれば、アプライアンスをシャットダウンせずに1つの電源装置を交換できます。

NetScaler SDX アプライアンスに AC または DC 電源装置を取り付けまたは交換するには

1. 半円形のハンドルを電源装置に対して垂直に揃えます。次の図に示すように、蝶ネジを緩めてレバーをハンド ルの方向に押し、既存の PSU を引き出します。

図 3. 交換用 AC 電源装置を挿入します



フィギュア2. 既存の DC 電源の取り外し



2. 新しい電源を箱から慎重に取り外します。

- 3. アプライアンスの背面で、電源装置を電源スロットに合わせます。
- 4. 電源装置をスロットに挿入し、電源装置が所定の位置に固定されるまで半円形のハンドルを押します。

図 4. 交換用 DC 電源装置を挿入します



フィギュア 6. 交換用 SSD を挿入する



5. 電源を電源に接続します。すべての電源装置を接続する場合は、個別の電源コードを電源装置に接続し、それ らを別々のコンセントに接続します。

注

次の条件が満たされると、NetScaler SDX アプライアンスは高ピッチのアラートを発します。

- 1つの電源装置で障害が発生する。
- 2 つの電源装置が取り付けられているアプライアンスに電源ケーブルを1つだけ接続する場合。

アラームを消音するには、アプライアンスの背面パネルにある [Alarm Disable] というラベルの付いたボタンを押 します。アラームを無効にするボタンは、アプライアンスに電源装置が 2 つある場合にのみ機能します。

ソリッドステートドライブ

NetScaler SDX アプライアンスでは、ソリッドステートドライブ(SSD)にシステム起動ファイルと管理サービス インスタンスの VDI が格納されます。RAID をサポートするものもあれば、サポートしないものもあります。

RAID サポート付きの SSD はホットスワップ可能です。

注:

RAID 割り当ての管理の詳細については、「SDX プラットフォームでの RAID ディスク割り当ての管理」を参照 してください。 直接接続ケーブル

直接接続ケーブル (DAC) アセンブリは、双方向通信用の高性能統合デュプレックスデータリンクです。このケーブ ルは、機械的フォームファクタ用の IPF MSA (SFF-8432)、DAC 用の SFP+ MSA (SFF-8432) に準拠しています。 ケーブルの長さは最大5メートルですが、データ・レートには依存しません。10 Gbps を超える速度をサポートし、 光リンク (SFP+ トランシーバーおよび光ファイバー ケーブル) に代わるコスト効率の高い代替品です。DAC を備え たトランシーバーはホットスワップ可能です。アプライアンスをシャットダウンすることなく、接続されたケーブル でトランシーバを挿入および取り外すことができます。NetScaler ADC アプライアンスはパッシブ DAC のみをサポ ートします。

注意事項:

- DAC は、10G ポートでのみサポートされます。DAC を 1G ポートに挿入しないでください。
- トランシーバから内蔵銅ケーブルを取り外し、ファイバケーブルをトランシーバに挿入しないでください。

注

自動ネゴシエーションは、DAC が接続されているインターフェイスではサポートされません。

DAC を交換するには

1. DAC を取り外すには、DAC の上部にあるタブを引き、DAC をポートから引き出します。

図 10. DAC を 10G ポートに挿入する



2. DAC を挿入するには、アプライアンスの 10G ポートに DAC をスライドさせます。DAC がポートに正しく収 まると、カチッという音がします。

図 10.10G ポートから DAC を取り外します



安全性、注意事項、警告、その他の情報

January 25, 2024

製品の開梱および取り付けを行う前に、安全およびその他のコンプライアンス情報を読んでください。安全およびそ の他のコンプライアンス情報は、SDX と MPX アプライアンスの両方で同じままです。次のドキュメントを参照して ください。

- 安全性、注意事項、警告、およびその他の情報。
- 台湾 BSMI RoHS ステートメント

注: 各モデルの安全認証、規格、ROHS 準拠の一覧については、データシートを参照してください。データシートは www.netscaler.com で入手できます。[プラットフォーム]>[フォームファクター]>[ハードウェア] に移動します。

• FCC コンプライアンスステートメント

インストールの準備

September 30, 2024

新しいアプライアンスを設置する前に、アプライアンスを慎重に開梱し、すべての部品が納入されたことを確認して ください。アプライアンスの設置場所が、温度および電力要件を満たしていることを確認します。サーバキャビネッ トまたは床から天井までのキャビネットが床にしっかりとボルトで固定され、十分な通気量があることを確認しま す。 アプライアンスの設置、メンテナンス、または交換は、トレーニングを受けた資格のある担当者のみが行う必要があ ります。また、すべての注意事項と警告に従うように努める必要があります。

このドキュメントでは、次の詳細について説明します。

- アプライアンスの開梱
- 現場とラックの準備
- 電気安全上の注意

アプライアンスを開梱する

ケーブル、アダプター、レールキットなど特定のアプライアンスのハードウェアアクセサリは、注文したハードウェ アプラットフォームにより異なります。広いスペースのある頑丈なテーブルの上で新しいアプライアンスを含むボッ クスを開梱し、内容を確認します。

アプライアンスに指定されたケーブル、アダプタ、レールキットを受け取ったことを確認します。

注:

各ケーブルに使用できるコンセントがあるか確認します。受け取ったキットがラックに合わない場合は、 NetScalerの営業担当者に連絡して適切なキットを注文してください。トランシーバーモジュールは別売です。 NetScalerの営業担当者に連絡して、アプライアンス用のトランシーバーモジュールを注文してください。こ のアプライアンスでは、Citrix 提供のトランシーバーだけがサポートされます。

ブラジルのお客様には、NetScaler は電源ケーブルを同梱していません。**ABNT NBR 14136:2002** 規格に準 拠したケーブルを使用してください。

新しいアプライアンスのボックスに含まれている項目に加えて、インストールと初期構成プロセスを完了するには、 次の項目が必要です。

- ネットワークに接続する追加のイーサネットポートごとに Ethernet ケーブル
- ネットワークに接続する NetScaler Ethernet ポートごとに、ネットワークスイッチまたはハブで利用可能 なイーサネットポートが1つあります。注: トランシーバモジュールは別売です。NetScaler の営業担当者 に連絡して、アプライアンス用のトランシーバーモジュールを注文してください。このアプライアンスでは、 Citrix 提供のトランシーバーだけがサポートされます。
- 管理用のワークステーションとして使用するコンピューター

現場とラックの準備

NetScaler ADC アプライアンスには、特定のサイトおよびラック要件があります。適切な環境制御と電力密度が使 用可能であることを確認します。ラックは、アースにボルトで固定され、十分な通気量があり、十分な電源とネット ワーク接続が必要です。設置場所とラックの準備は、設置プロセスの重要な段階であり、円滑な設置を実現します。

サイトの要件

アプライアンスは、次の機能を備えたサーバー ルームまたはサーバー キャビネットに設置する必要があります。

• 環境制御

An air conditioner, preferably a dedicated computer room air conditioner (CRAC), capable of maintaining the cabinet or server room at a temperature of no more than 27 degrees C/80.6 degrees F at altitudes of up to 2100 m/7000 ft, or 18 degrees C/64.4 degrees F at higher altitudes, a humidity level no greater than 45 percent, and a dustfree environment.

• 電力密度

Wiring capable of handling at least 4000 watts per rack unit in addition to power needs **for** the CRAC.

ラックの要件

アプライアンスを設置するラックは、次の基準を満たしている必要があります。

• ラックの特性

ラックは、専用設計のサーバキャビネットに統合するか、床から天井までのタイプで、安定性を確保するために、上 部と下部にボルトで固定する必要があります。キャビネットがある場合は、安定性と十分な通気のために、耐荷重壁 に垂直に設置する必要があります。サーバールームがある場合は、十分な通気を確保するために、ラックを1メート ル/3フィート以上の間隔に配置する必要があります。ラックでは、IT 担当者が各サーバの前面と背面、およびすべ ての電源とネットワーク接続に自由にアクセスできるようにする必要があります。

• 電源接続

ユニットごとに最低2つの標準電源コンセント。

• ネットワーク接続

ラックユニットあたり少なくとも4つのイーサネット接続。

• スペース要件

NetScaler SDX 8015/8400/8600 用の空のラックユニットが1個、その他すべてのアプライアンスモデルでは2つの連続した空のラックユニットです。

以下のレールキットは別途注文できます。

- 23~33 インチのラックにフィットするコンパクトな4支柱レールキット。
- 2 支柱レールキット、2 支柱ラックに適合します。

電気安全上の注意

製品を開梱してインストールする前に、知っておく必要がある注意事項と危険情報を読んでください。詳細について は、「安全性、注意、警告、およびその他の情報」を参照してください。

ハードウェアをインストールします

September 30, 2024

アプライアンスを設置する場所が環境基準を満たし、サーバラックが指示に従って設置されていることを確認する。 アプライアンスをマウントしたら、ネットワーク、電源、および初期設定に使用するコンソール端末に、アプライア ンスを接続する準備が整いました。インストールを完了するには、アプライアンスをオンにします。インストール手 順に記載されている注意事項と警告を必ず守ってください。

注: アプライアンスをラックマウントする前に、シリアル番号を便利にしておいてください。シリアル番号は、アプ ライアンスに初めてログオンするためのパスワードであり、アプライアンスの背面にあります。

アプライアンスのラックマウント

ほとんどのアプライアンスは、EIA-310-D 仕様に準拠した標準のサーバラックに設置できます。アプライアンスを取 り付ける前に、アプライアンスに付属するレールのセットを取り付ける必要があります。アプライアンスを取り付け るときに必要な工具は、プラスのドライバとマイナスのドライバだけです。

注意: ラックに取り付けるユニットがアプライアンスだけの場合は、一番下に設置してください。ラックにほか のユニットも取り付ける場合は、最も重いユニットを一番下にしてください。ラックを固定する器具がある場 合は、アプライアンスを取り付ける前に設置してください。

さまざまなハードウェアプラットフォームと各プラットフォームに必要なラックユニットを確認するには、以下の各 モデルの詳細を参照してください。SDX ハードウェアプラットフォーム.

このキットには、アプライアンスの左側と右側に 2 つのレールアセンブリと、レールを取り付けるためのネジが含ま れています。アセンブリはインナーレールとラックレールで構成されます。付属のレールキットの長さは 28 インチ です(延長した場合は 38 インチ)。NetScaler の営業担当者に連絡して、23 インチ(33 インチ)のレールキットを 注文してください。

注: 角穴ラックと丸穴ラックの両方で同じレールキットを使用します。ネジ式丸穴ラックの具体的な手順については、「ラックレールをラックに取り付けるには」を参照してください。参照 ラックレールをラックに取り付けるには ネジ式丸穴ラックの具体的な手順を参照してください。

アプライアンスを取り付けるには、まずレールを取り付けてから、アプライアンスをラックに取り付ける必要があり ます。

アプライアンスを取り付けるには、以下の作業を行います。

- レールアセンブリからインナーレールを外します。
- インナーレールをアプライアンスに取り付けます。
- ラックレールをラックに取り付けます。
- アプライアンスをラックに取り付けます。

アプライアンスにはラックレールハードウェアが付属しています。このハードウェアは、アプライアンスの両側に1 つずつ取り付ける2個のインナーレールと、ラックに取り付けるラックレールアセンブリで構成されています。次の 図は、NetScaler SDX アプライアンスをラックにマウントする手順を示しています。

レールアセンブリから内側のレールを取り外します

- 1. レールアセンブリを平らな面に置きます。
- 2. アセンブリの前面に向かってインナーレールを引き出します。
- 3. 内側のレールがレールアセンブリから最後まで来るまで、ラッチを押します。
- 4. 手順1.~3.を繰り返してもう1つのインナーレールも取り外します。

アプライアンスにインナーレールを取り付けます

- 1. 右のインナーレールを、アプライアンスの右側のハンドルの後側に配置します。
- 2. レールの穴とアプライアンスの側面の対応する穴の位置を合わせます。
- 図に示すように、付属のネジでレールをアプライアンスに、1U アプライアンスの場合は片面に4つ、2U アプ ライアンスの場合は片面に5つ、取り付けます図1: インナーレールの取り付け図1: インライン展開イン ナーレールの取り付け



4. 手順 1.~3. を繰り返して、左のインナーレールをアプライアンスのもう一方の側に取り付けます。

ラックレールをラックに取り付ける

- 1. 丸穴のネジ式ラックを使用している場合は、手順3. に進みます。
- 次の図のように、四角ナットの固定器具をラック前面の支柱と背面の支柱に取り付けます。ネジを 挿入する前に、四角ナットの位置を 1U または 2U アプライアンスの正しい穴に合わせてください。
 3 つの穴は等間隔に並んでいません。図 2:図 2:フロントラックの支柱へのリテーナの取り付け



クへの取り付けローカライズイメージ

次の図のように、調整可能なレールアセンブリをラックに取り付けます。後ろのレールフランジをネジでラックに固定します。ネジでレールを適切な位置に固定すると、ラッチのバネを取り外すこともできます。図 4: レールアセンブリのラックへの取り付けローカライズイメージ



ラックへのアプライアンスの取り付け

- 1. アプライアンスに取り付けたインナーレールとラックレールの位置を合わせます。
- 2. アプライアンスをラックレールにスライドさせて、両側の圧力を均等に保ちます。
- 3. アプライアンスをラックから完全に引き出して、アプライアンスが所定の位置にロックされていることを確認 します。図 10. アプライアンスのラックへの取り付け



NetScaler ADC ハードウェアアプライアンスをラックマウントする方法に関するこのクイックビデオをご覧ください。

1G SFP トランシーバの取り付けと取り外し

SFP(Small Form-Factor Pluggable)は、最速1ギガビット/秒で通信し、銅線タイプでもファイバータイプ でも使用できるコンパクトなトランシーバーです。1G SFP 銅線トランシーバーを装着すると、1G SFP ポート が 1000BASE-T ポートに変換されます。1G SFP ファイバートランシーバーを装着すると、1G SFP ポートが 1000BASE-X ポートに変換されます。1G SFP トランシーバーを装着した1G SFP ポートでは、オートネゴシエーシ ョンがデフォルトで有効になります。ポートとネットワーク間のリンクが確立されると、ケーブルの両端で速度とモ ードが一致します。

注意: NetScaler ADC アプライアンスは、Citrix システムズ以外のベンダーが提供する 10G SFP+ トランシ ーバをサポートしていません。サードパーティ製の 1G SFP トランシーバをコンピュータにインストールしよ うとしています NetScaler アプライアンスは保証を無効にします。

アプライアンスの前面パネルにある 1G SFP ポートに、1G SFP トランシーバーを挿入します。トランシーバーの取 り付けと取り外しを頻繁に行うと、トランシーバーの寿命が短くなります。1G SFP トランシーバーまたはアプライ アンスを損傷しないように、取り外しは正しい手順で行ってください。

注意:ケーブルを装着した状態でトランシーバーを取り付けないでください。これを行うと、ケーブル、コネク タ、またはトランシーバーの光インターフェイスが損傷する可能性があります。 **1G SFP** トランシーバの取り付け

- 1. 1G SFP トランシーバーからケーブルを外します。光ファイバーケーブルを使用している場合は、ケーブルを しまう前にケーブルに埃除けキャップを取り付けてください。危険: 光ファイバトランシーバやケーブルを直 接調べないでください。レーザービームが放射されて目が傷つくおそれがあります。
- 2. 次の図に示すように、1G SFP トランシーバーと、アプライアンスの前面パネルにある 1G SFP トランシーバ ーポートの前面の位置を合わせます。

```
注
次の図の図は、実際のアプライアンスを表していない場合があります。
```

図 6:図 6:1G SFP トランシーバーの取り付け



- 3. 親指と人差し指の間に 1G SFP トランシーバを持ち、1G SFP トランシーバポートに挿入します。トランシー バが所定の位置にスナップする音がするまで押し込みます。
- 4. トランシーバーをロックします。
- 5. LED が緑色で2回点滅するのを確認します。これは、トランシーバーが正常に機能していることを示します。
- 6. ファイバ 1G SFP トランシーバを使用する場合は、ケーブルを挿入する準備ができるまで、トランシーバとケ ーブルに接続されているダストキャップを取り外さないでください。

1G SFP トランシーバの取り外し

- 1. 1G SFP トランシーバーを慎重に箱から取り出します。危険: 光ファイバトランシーバやケーブルを直接調べないでください。光ファイバーケーブルを使用している場合は、ケーブルをしまう前にケーブルに埃除けキャップを取り付けてください。光ファイバーケーブルを使用している場合は、ケーブルをしまう前にケーブルに埃除けキャップを取り付けてください。危険: 光ファイバトランシーバやケーブルを直接調べないでください。レーザービームが放射されて目が傷つくおそれがあります。
- 2. 1G SFP トランシーバーのロックを解除します。
- 3. 親指と人差し指で 1G SFP トランシーバーを持ち、ポートからゆっくりと引き抜きます。
- 光ファイバー 1G SFP トランシーバーを取り外す場合は、トランシーバーをしまう前に埃除けキャップを取り 付けてください。
- 5. 1G SFP トランシーバーを元箱または代わりの容器に入れます。

10G SFP+ トランシーバの取り付けと取り外し

10 ギガビット小型フォームファクタプラグ (SFP+) は、最大 10 ギガビット/秒の速度で動作できるコンパクトな光 トランシーバです。自動ネゴシエーションは、10G SFP+ トランシーバを挿入する 10G SFP+ ポートでデフォルト で有効になっています。ポートとネットワーク間のリンクが確立されると、ケーブルの両端でモードが一致し、10G SFP+ トランシーバの場合、速度も自動ネゴシエーションされます。

注意: NetScaler ADC アプライアンスは、Citrix システムズ以外のベンダーからの 1G SFP トランシーバを サポートしていません。NetScaler ADC アプライアンスにサードパーティ製 1G SFP トランシーバをインス トールしようとすると、保証が無効になります。サードパーティ製の 10G SFP+ トランシーバをコンピュータ に取り付けようとしています NetScaler アプライアンスは保証を無効にします。

10G SFP+ トランシーバをアプライアンスの前面パネルの 10G SFP+ ポートに挿入します。トランシーバーの取り 付けと取り外しを頻繁に行うと、トランシーバーの寿命が短くなります。トランシーバーまたはアプライアンスの損 傷を防ぐため、注意深く取り外し手順に従ってください。

注意:ケーブルを装着した状態でトランシーバーを取り付けないでください。これを行うと、ケーブル、コネクタ、またはトランシーバーの光インターフェイスが損傷する可能性があります。

10G SFP+ トランシーバの取り付け

- 1. 10G SFP+ トランシーバからケーブルを取り外します。取り外す前にケーブルに埃除けキャップを取り付けて ください。危険: 光ファイバトランシーバやケーブルを直接調べないでください。レーザービームが放射され て目が傷つくおそれがあります。
- 2. 10G SFP+ トランシーバをアプライアンスの前面パネルの 10G SFP+ トランシーバポートの前面に合わせま す。
- 3. 10G SFP+ トランシーバを親指と人差し指の間に持ち、10G SFP+ トランシーバポートに挿入し、トランシー バが所定の位置にスナップする音がするまで押し込みます。

- 4. トランシーバーをロックします。
- 5. LED が緑色で2回点滅するのを確認します。これは、トランシーバーが正常に機能していることを示します。
- 6. ケーブルを挿入できる状態になるまでは、トランシーバーおよびケーブルに取り付けられている埃除けキャップを外さないでください。

10G SFP+ トランシーバの取り外し

- 10G SFP+トランシーバからケーブルを取り外します。取り外す前にケーブルに埃除けキャップを取り付けて ください。光ファイバーケーブルを使用している場合は、ケーブルをしまう前にケーブルに埃除けキャップを 取り付けてください。危険: 光ファイバトランシーバやケーブルを直接調べないでください。レーザービーム が放射されて目が傷つくおそれがあります。
- 2. 10G SFP+ トランシーバーのロックを解除します。
- 3. 10G SFP+ トランシーバを親指と人差し指の間に持ち、ゆっくりとポートから引き出します。
- 4. 取り外す前にトランシーバーに埃除けキャップを取り付けてください。
- 5. 10G SFP+ トランシーバを元のボックスまたは別の適切な容器に入れます。

ケーブルを接続する

アプライアンスをラックに確実に取り付けた後、ケーブルを接続できます。Ethernet ケーブルとオプションのコン ソールケーブルを最初に接続します。最後に電源ケーブルを接続します。

警告:アプライアンスの取り付けまたは修理を行う前に、電源やワイヤに接触している可能性のあるジュエリーやその他の金属部品をすべて取り外してください。電気の通じている電源または配線とアースの両方に触れると、金属物が急速に加熱し、火傷を負ったり、衣服に火が付いたり、金属物が溶けて露出している端子がショートしたりする可能性があります。

イーサネットケーブルの接続

Ethernet ケーブルはアプライアンスをネットワークに接続します。必要なケーブルの種類は、ネットワークへの接 続に使用するポートの種類によって決まります。10/100/1000BASE-T ポートまたは 1G SFP 銅製トランシーバー では、標準の RJ-45 コネクタを備えたカテゴリ 5e またはカテゴリ 6 のイーサネットケーブルを使用します。光ファ イバケーブルには、1G SFP ファイバトランシーバ、10G SFP+ トランシーバを備えた LC デュプレックスコネクタ を使用します。光ファイバーケーブルのもう一方の端にあるコネクタの種類は、接続先のデバイスのポートに依存し ます。

10/100/1000BASE-T ポートまたは 1G SFP 銅線トランシーバにイーサネットケーブルを接続する

 次の図に示すように、Ethernet ケーブルの一方の端の RJ-45 コネクタを、アプライアンスの前面パネルにあ る適切なポートに挿入します。図 7: Ethernet ケーブルの挿入 図 7: イーサネットケーブルの挿入



- 2. もう一方の端の RJ-45 コネクタを、ルーターやスイッチなどのターゲットデバイスに挿入します。
- 3. 接続が確立されて、黄色の LED が点灯することを確認します。

イーサネットケーブルを 1G SFP ファイバ、10G SFP+ トランシーバに接続します

- 1. トランシーバーとケーブルから埃除けのキャップを外します。
- 2. 光ファイバーケーブルの一方の端の LC コネクタを、アプライアンスの前面パネルにある適切なポートに挿入 します。
- 3. もう一方の端のコネクタを、ルーターやスイッチなどのターゲットデバイスに挿入します。
- 4. 接続が確立されて、黄色の LED が点灯することを確認します。

コンソールケーブルの接続

コンソールケーブルを使用して、アプライアンスをコンピューターまたは端末に接続します。このコンピューターまたは端末からアプライアンスを設定できます。または、ネットワークに接続されたコンピューターを使用することもできます。コンソールケーブルを接続する前に、コンピューターまたは端末を、VT100端末エミュレーション、9600ボー、8 データビット、1 ストップビット、および「NONE」に設定されたフロー制御をサポートするように設定します。次に、コンソールケーブルの一方の端をアプライアンスの RS232 シリアルポートに、もう一方の端をコンピューターまたは端末に接続します。

コンソールケーブルをコンピュータまたは端末に接続する

1. 次の図に示すように、ケーブルの端にある DB-9 コネクタをアプライアンスの前面パネルのコンソールポート に挿入します。図 8: コンソールケーブルの挿入 フィギュア 9. イーサネットケーブルの挿入



注

ケーブルと RJ-45 コンバーターを併用するには、このオプションのコンバーターをコンソールポートに 挿入し、ケーブルをこれに接続します。

2. ケーブルのもう一方の端にある RJ-45 コネクタをコンピューターまたは端末のシリアルポートに挿入します。

電源ケーブルを接続します

SDX 8015/8400/8600 アプライアンスには、電源ケーブルが1つあります。他のすべてのアプライアンスには電源 ケーブルが2本付属しますが、1本だけ接続した場合でも動作できます。3極プラグはアースを兼ねているので、別 途アースケーブルを用意する必要は必要ありません。

アプライアンスを電源に接続する

1. 次の図に示すように、電源ケーブルの一方の端をアプライアンスの背面の電源装置の隣にある電源コンセント に接続します。図 9. 図 9: 電源ケーブルの挿入



- 2. 電源ケーブルのもう一方の端を、標準 110V/220V 電源コンセントに接続します。
- 3.2台目の電源装置がある場合は、手順1と2を繰り返して2台目の電源装置を接続します。>ノート>>一部のアプライアンスでは、一方の電源に障害が発生したり、アプライアンスに1本の電源ケーブルしか接続していない場合に、高音の警告を発します。アラームを消音するには、アプライアンスの背面パネルにある小さな赤いボタンを押します。

アプライアンスのスイッチを入ります

アプライアンスをラックに取り付け、ケーブルを接続したら、電源ケーブルが正しく接続されていることを確認しま す。2 台目の電源装置を取り付けた場合は、2 本目のケーブルが1本目とは別の回路のコンセントに接続されている ことを確認してください。接続を確認したら、アプライアンスをオンにできます。

アプライアンスの電源を入れるには

- 1. アプライアンスがコンソールポートまたはイーサネットポートを介して接続されていることを確認します。このチェックにより、電源を入れた後にアプライアンスを構成できることが保証されます。
- 2. アプライアンスの背面パネルのオン/オフ切り替え電源スイッチを押します。

注意:緊急電源オフ(EPO)スイッチの位置に注意してください。これにより、電気事故が発生した場合にアプ ライアンスの電源をすばやく切断できます。

初期構成

January 25, 2024

アプライアンスをラックに取り付けると、初期設定を実行できます。初期構成を実行するには、Management Service ユーザーインターフェイスまたはシリアルコンソールを使用できます。管理サービスのユーザーインターフ ェイスには、新しい SDX アプライアンスと同じネットワーク上の任意のコンピュータからアクセスできます。同じネ ットワーク上にコンピュータがない場合は、シリアルコンソールを使用して SDX アプライアンスの初期設定を実行 します。初期構成を完了したら、root ユーザーのパスワードを変更することをお勧めします。root-user パスワード の変更については、認証と認可の設定を参照してください。

初期設定を実行するために、次の情報を決定します。

- NetScaler SDX IP アドレスとサブネットマスク: SDX アプライアンスが配置されているサブネットを定義するために使用される管理 IP アドレスとマスク。この IP アドレスは、NetScaler SDX 管理サービスのユーザーインターフェイスにアクセスするために使用されます。
- Citrix Hypervisor の IP アドレス: Citrix Hypervisor の IP アドレス。
- デフォルトゲートウェイ: アプライアンスのサブネットからトラフィックを転送するルーターの IP アドレス。
 デフォルトゲートウェイは、NSIP アドレスと同じサブネットに存在する必要があります。
- root パスワード:root ユーザーには、アプライアンスに対する完全な管理者権限があります。root パスワードは、root ユーザーの認証に使用されます。アプライアンスの初期構成時に、このパスワードを変更します。

このセクションでは、以下のトピックについて説明します:

- 管理サービスユーザーインターフェイスによる初期設定
- シリアル・コンソールによる初期設定
- デフォルトユーザアカウントのパスワードの変更

管理サービスユーザーインターフェイスによる初期設定

Management Service ユーザーインターフェイスを使用してアプライアンスをセットアップするには、ワークステ ーションまたはラップトップをアプライアンスと同じネットワークに接続します。

管理サービスのユーザーインターフェイスを使用して NetScaler ADC SDX アプライアンスを構成するには

1. インターフェイス 0/1 を使用して、NetScaler SDX アプライアンスを管理ワークステーションまたはネット ワークに接続します。 2. ブラウザを開き、次のように入力します。http://192.168.100.1

注: NetScaler SDX 管理サービスは、IP アドレス 192.168.100.1 で事前構成されており、Citrix Hypervisor は IP アドレス 192.168.100.2 で事前構成されています。

- [ユーザー名]に「nsroot」と入力します。パスワードに、以前のデフォルトパスワードが機能しない場合 は、アプライアンスのシリアル番号を入力してみてください。シリアル番号のバーコードは、アプライアンス の背面にあります。最初のログオン後にパスワードを変更することをお勧めします。パスワードの変更につい ては、「管理者パスワードを変更する」を参照してください。
- 2. ナビゲーションウィンドウで、[システム]をクリックします。
- 3. 詳細ペインの [アプライアンスの設定] で、[ネットワーク構成] をクリックします。
- 4. [ネットワーク構成]ページで、次の操作を行います。

Management Camica	Appliance Comparts Mitte
Interface*	
0/1 ~	
Gateway*	
-	
Appliance Management IP*	
Netmask*	
255 . 255 . 252 . 0	
DNS	

a. [**Interface**] フィールドで、アプライアンスを管理ワークステーションまたはネットワークに接続する管理 インターフェイスを選択します。可能な値:0/1、0/2。デフォルト:0/1。

注: 管理ポートの LA チャネルを作成する場合、チャネルに割り当てることができる IP アドレスは 1 つだけで

- す。[Interface] フィールドに、0/1 および 0/2 の代わりに LA チャネルオプションだけが表示されます。ま
- た、両方のポートが接続されていても、管理サービスは1つのポートでのみアクティブになります。

b. [アプライアンスのサポート可能性 IP] フィールドに、Citrix Hypervisor の IP アドレスを入力します。

c. [**Gateway**] フィールドに、アプライアンスのサブネットからトラフィックを転送するルータの IP アドレスを入 力します。

d. [**DNS**] フィールドに、プライマリ DNS サーバの IPv4 アドレスを入力します。

注: IPv6 アドレスは、プライマリ DNS サーバーではサポートされていません。

e. 管理サービスに IPv4 アドレスを使用する場合は、「IPv4」チェックボックスを選択し、次のパラメータの詳細を 入力します:

i. アプライアンス管理 IP – Web ブラウザを使用して管理サービスにアクセスするために使用される IPv4 アドレス。

ii.Netmask: SDX アプライアンスが配置されているサブネットの定義に使用されるマスク。

f. 管理サービスに IPv6 アドレスを使用する場合は、「IPv6」チェックボックスを選択し、次のパラメータの詳細を入 力します:

i. 管理サービスの IP アドレス: Web ブラウザを使用して管理サービスにアクセスするために使用される IPv6 アドレス。

注

Citrix Hypervisor IP アドレスと管理サービスの IP アドレスは、同じサブネット内に存在する必要があります。

ii. ゲートウェイ IPv6 アドレス--アプライアンスのサブネットからトラフィックを転送するルーターの IPv4 アドレス。

g. プライマリ DNS サーバとは別に、DNS サーバの IP アドレスを追加 DNS サーバとして追加するには、[追加の DNS]チェックボックスをオンにします。IP アドレスは、IPv4 または IPv6 のいずれかになります。

注:

以下の点について確認してください:

- DNS サーバーの IP アドレスまたは 2 つの DNS サーバーの IP アドレスを別の DNS サーバーとして追加します。
- プライマリ DNS サーバーと余分な DNS サーバーには、同じ DNS サーバーの IP アドレスを使用しません。
- での認証、承認、および監査のための DNS サーバーのカスケードはサポートされていません。LDAP 参照、RADIUS、および TACACS の認証、認可、および監査では、アドレス解決用に設定されたプライマリ DNS サーバが常に認証、認可、および監査の対象として考慮されます。

8. 「**OK**」をクリックし、「閉じる」をクリックします。

アプライアンスが正しく構成されていることを確認するには、新しい管理サービス IP アドレスに ping するか、新しい IP アドレスを使用してブラウザーでユーザーインターフェイスを開きます。

注:

CLIを使用して NetScaler ADC SDX アプライアンスにログオンし、追加した DNS サーバーの IP アドレスが/ etc/resolv.confファイルに含まれていることを確認します。また、/mpsconfig/svm.confフ ァイルには、追加された DNS サーバーの IP アドレスが反映されます。

例:

"

/mps/changenameserver.sh 127.0.0.1 /mps/addnameserver.sh 1.2.3.4

シリアルコンソールによる初期設定

L2 ドメイン外から SDX アプライアンスの初期設定を実行するには、アプライアンスのコンソールポートに接続し、 指示に慎重に従います。

注

networkconfigユーティリティは、ビルド 72.5 以降から使用できます。

シリアルコンソールを使用して NetScaler ADC SDX アプライアンスを構成するには

- 1. コンソールケーブルをアプライアンスに接続します。
- 2. ケーブルのもう一方の端をコンピュータに接続し、任意の vt100 ターミナルエミュレーションプログラムを 実行します。
 - Microsoft Windows の場合は、ハイパーターミナルを使用できます。
 - Apple Macintosh OSX の場合は、GUI ベースのターミナルプログラムまたはシェルベースの Telnet クライアントを使用できます。
 注:OSX は FreeBSD UNIX プラットフォームに基づいています。ほとんどの標準 UNIX シェルプログラムは、OSX コマンドラインから入手できます。
 - ~UNIX ベースのワークステーションの場合は、サポートされている任意のターミナルエミュレーションプログラムを使用できます。
- Enter キーを押します。端末画面にログオンプロンプトが表示されます。
 注:使用しているターミナルプログラムによっては、Enter キーを2回または3回押す必要がある場合があります。
- 4. プロンプトで ssh nsrecover@169.254.0.10 と入力して管理サービスにログオンします。パスワードに、以前のデフォルトパスワードが機能しない場合は、アプライアンスのシリアル番号を入力してみてください。シリアル番号のバーコードは、アプライアンスの背面にあります。最初のログオン後にパスワードを変更することをお勧めします。パスワードの変更については、「管理者パスワードを変更する」を参照してください。

5. shellと入力してシェルプロンプトに切り替え、networkconfigを入力します

これで、新しい IP アドレスを使用して、管理サービスのユーザーインターフェイスにログオンできます。

既定のユーザーアカウントのパスワードを変更する

デフォルトのユーザーアカウントでは、NetScaler SDX アプライアンスのすべての機能に完全にアクセスできます。 セキュリティ上の理由から、管理者アカウントは必要な場合にのみ使用する必要があります。また、管理者アカウン トのパスワードを知っている必要があるのは、フルアクセスを必要とする個人のみです。管理者パスワードを頻繁に 変更することをお勧めします。パスワードを忘れた場合は、アプライアンスの設定を工場出荷時のデフォルトに戻し てパスワードをデフォルトにリセットし、パスワードを変更できます。

[**Users**]ペインで既定のユーザーアカウントのパスワードを変更できます。[ユーザー]ペインでは、次の詳細を表示できます。

名前

SDX アプライアンスに設定されているユーザーアカウントの一覧が表示されます。

• 権限

ユーザーアカウントに割り当てられたアクセス許可レベルが表示されます。

GUI を使用して管理パスワードを変更する

- 1. 管理者資格情報を使用してアプライアンスにログオンします。
- 2. [System] > [User Administration] > [Users] の順に選択します。
- 3. [ユーザー] ウィンドウで、既定のユーザーアカウントをクリックし、[変更] をクリックします。
- 4. [システムユーザーの変更] ダイアログボックスの [パスワード] と [パスワードの確認] に、任意のパスワード を入力します。
- 5. [**OK**] をクリックします。

NetScaler SDX ソフトウェアの構成について詳しくは、NetScaler SDX ソフトウェアのドキュメントを参照してください。

NetScaler SDX アプライアンスの管理ポートが点灯します

June 12, 2025

SDX ADC アプライアンスの前面パネルには、ライトアウト管理(LOM)ポートとも呼ばれるインテリジェント・プ ラットフォーム管理インターフェイス(IPMI)があります。NetScaler ADC ソフトウェアとは無関係に、LOM ポー トを使用してアプライアンスをリモートで監視および管理できます。 LOM ポートをデータチャネルとは別の専用チャネルに接続することで、データネットワークがダウンしている場合 でも、アプライアンスへの接続が維持されます。さらに、データケーブルとデータネットワークを単一障害点として 削減できます。

LOM ポートにはブラウザからアクセスでき、ほとんどのタスクで GUI を使用できます。すべてのタスクは、 NetScaler ADC シェルを使用して実行できます。

次のタスクには、GUI またはシェルのいずれかを使用できます。

- ネットワーク設定の構成
- サーバーヘルス監視
- 電源制御操作
- 工場出荷時リセット

NetScaler ADC アプライアンスが異なれば、サポートするシェルも異なります。

- Citrix Hypervisor ベースの NetScaler ADC SDX アプライアンスの場合は、dom0 Linux ルートシェルを 使用します。dom0 シェルにアクセスするには、nsrootアカウントではなくrootアカウントを使用して、 SDX 管理サービスの IP アドレスではなく、Citrix Hypervisor 管理 IP アドレスにログオンします。
- Linux ベースのアプライアンスの場合は、Linux bash ルートシェルを使用します。
- 注

LOM とベースボード管理コントローラ (BMC) という用語は同じ意味で使用されます。

注意: LOM ファームウェアのバージョンは、プラットフォーム固有のものです。LOM サポートマトリックス表に示 されているプラットフォームの LOM ファームウェアバージョン以外の LOM ファームウェアバージョンにアップグ レードすると、LOM が使用できなくなる場合があります。

LOM サポートマトリックス

LOM サポートマトリックスは、プラットフォームごとに推奨される LOM ファームウェアバージョンを示しています。

テーブル。LOM サポートマトリックス

ハードウェア	推奨バージョン
SDX 5900	4.61
SDX 8000	3.56
SDX 8900	4.61
SDX 9100	2.13.12
357,3100	3.11.0

NetScaler SDX

ハードウェア	推奨バージョン
	サポートされている NetScaler ビルド
	14.1 - 43.x
	13.1 - 58.x
SDX 14000	4.14
SDX 14000-40S	4.14
SDX 14000FIPS	4.14
SDX 14000-40G	4.14
SDX 15000	5.56
SDX 15000-50G	5.56
SDX 16000	2.13.12
3DX 10000	3.11.0
	サポートされている NetScaler ビルド
	14.1 - 43.x
	13.1 - 58.x
SDX 25000A	4.14
SDX 25000TA	4.14
SDX 25000-40G	4.14
SDX 26000	5.56
SDX 26000-50S	5.56
SDX 26000-100G	5.56

LOM バージョンを 3.11.0 にアップグレード

リリース 13.1 ビルド 58.x およびリリース 14.1 ビルド 43.x 以降、LOM バージョン 3.11.0 は次のプラットフォー ムで利用できます。このバージョンでは、複数の機能上の問題に対処しています。

- SDX 9100
- SDX 16000

アップグレード手順

1. dom0 Linux ルート シェルにログインします。

2. 次のコマンドを実行します:

echo "3.11"> /opt/xensource/packages/files/sdx-lom/platforms/
matua/version

- 3. 管理サービスのユーザー インターフェイスで、構成 > システムに移動します。
- 4. アプライアンスの再起動をクリックします。

構成の互換性

LOM 構成形式は、LOM バージョン 2.12.12 および 2.13.12 と新しい LOM バージョン 3.11.00 との間で互換性が ありません。

2.12.12 または 2.13.12 バージョンから新しい LOM 3.11.00 バージョンへのアップグレード プロセス中に、一部の LOM 構成が失われる可能性があります。アップグレードが完了すると、手動で作成された LOM 2.12.12 または 2.13.12 バージョンの構成バックアップを使用して構成を復元することはできません。

注

アップグレードする前に現在の LOM 構成を保存することをお勧めします。LOM 構成を保存することで、後で 不足している設定を手動で再適用できます。

アップグレード プロセスでは LOM 構成設定がすべて保持されるわけではないため、次の領域では手動での再適用が 必要になる場合があります。

- 手動で作成されたローカル LOM ユーザー アカウント (具体的には、デフォルトの ns ルート アカウントを除くすべてのアカウント)。
- RADIUS サーバーが秘密を共有しました。
- LDAP 認証用のパスワード。
- 通知 > **SMTP** セクションの SMTP パスワード。
- 通知 > アラート セクションの SNMPv3 アラートの認証キーと暗号化キー。
- 通知 > アラート セクションの SNMPv1 アラート トラップ コミュニティ文字列。
- 通知 > **SNMP** セクション内の任意の SNMP 設定。

LOM ポートのネットワーク設定を構成する

September 30, 2024

LOM ポートへの初期アクセスのデフォルトの IP アドレスは 192.168.1.3 です。最初のログオン時に、既定の資格情報と IP アドレスを変更します。すべての LOM GUI 操作では、Web ブラウザーで LOM IP アドレスを入力 し、管理者資格情報を入力して、アプライアンスに接続する必要があります。または、ipmitool ユーティリ ティを使用して、コマンドラインから LOM 機能にアクセスできます。ipmitoolユーティリティをリモート で使用すると、LOM ファームウェアのバージョン番号の確認、ウォーム再起動とコールドの再起動、LOM ネッ トワーク設定の構成、アプライアンスのヘルスの監視、電源制御操作を実行できます。このユーティリティは、 http://ipmitool.sourceforge.net/でダウンロードできます。ipmitoolユーティリティは、NetScaler MPX および CloudBridge/SDX (dom0) アプライアンスにも含まれており、LOM ポートネットワークの初期構成が可能 です。シェルを使用する場合、初期ネットワーク構成に DHCP 設定または静的 IP 設定を使用できます。ネットワーク 設定を構成したら、ネットワーク経由でipmitoolコマンドを使用できます。たとえば、BMC firmware revision コマンドには、BMC/LOM GUI ポートにアクセスするのと同じユーザー名、パスワード、IP アドレスが必要です。

初期構成では、ラップトップまたはワークステーションのネットワークポートを、クロスケーブルを使用して LOM ポートに直接接続するか、LOM ポートと同じローカルサブネット(192.168.1.x)内のスイッチに直接接続します。 ネットワーク到達可能な IP アドレスを割り当て、デフォルトのクレデンシャルを変更します。新しい設定を保存する と、LOM が再起動し、変更が有効になります。再起動後、新しいアドレスを使用して LOM にアクセスする必要があ ります。

間違えて古い IP アドレスと新しい IP アドレスの両方でネットワーク接続が失われる場合は、ローカルシェル方式を 使用して復旧する必要があります。

管理者の資格情報を管理し、セキュアな LOM 展開のためのネットワークを設定するためのベストプラクティスにつ いては、『セキュア展開ガイド 』を参照してください。

注

以下を除くすべての SDX プラットフォーム SDX 22040/22060/22080/22100/22120 と SDX 24100/24150、LOM ポートの LED は設計上動作しません。

ヒント: ネットワークを初めて設定する場合は、トラブルシューティングを容易にするために、ラップトップ/PC が LOM ポートに直接接続されていることを確認してください。コンピューターの静的アドレスを使用して、既定の IP アドレス (192.168.1.3) で LOM GUI に ping を実行でき、リモートアクセスが機能しない場合は、次の手順を実行 します。

ネットワークパス上にあるすべてのネットワークデバイスのネットワークファイアウォール設定とアクセス制御リスト(ACL)ポリシーについて詳しく見てみましょう。

ヒント:一部の LOM GUI 機能は機能するが、それ以外の機能では機能しない(たとえば、通常の NetScaler ADC コンソール出力は LOM GUI の NetScaler ADC コンソールウィンドウに表示されているが、コンソールでの入力が 機能しない)場合は、前述の方法でブロックされている特定の BMC プロトコルの原因を特定しますネットワーク。

ヒント**:** iKVM (HTML5) 機能を使用して LOM GUI にアクセスします。または、Java を使用します。最新の Java アップデートがコンピュータにインストールされていることを確認します。

GUI を使用して NetScaler ADC LOM ポートを構成するには

1. Web ブラウザで、http://192.168.1.3を入力し デフォルトのユーザー資格情報を入力します。パスワードに、 以前のデフォルトパスワードが機能しない場合は、アプライアンスのシリアル番号を入力してみてください。
シリアル番号のバーコードは、アプライアンスの背面にあります。

注

NetScaler LOM ポートは、IP アドレス 192.168.1.3 とサブネットマスク 255.255.0 で事前構成され ています。一部のオプションがグレー表示されている場合は、トラブルシューティング を参照してくだ さい。

- 2. [構成] タブで、[ネットワーク] をクリックし、次のパラメーターの新しい値を入力します。
 - IP アドレス: LOM ポートの IP アドレス。
 - [Subnet Mask]: LOM ポートのサブネットを定義するために使用されるサブネットマスク。
 - デフォルトゲートウェイ: LOM ポートをネットワークに接続するルータの IP アドレス。
- 3. [Save] をクリックします。
- 4. ユーザーの資格情報を変更する場合は、[構成]>[ユーザー]に移動してユーザーを選択し、[ユーザーの変更] をクリックして、資格情報を変更します。

シェルを使用して NetScaler ADC LOM ポートを構成するには

注: シェルにアクセスするには、スーパーユーザー (admin) 資格情報が必要です。

- 1. IP アドレッシングモードを設定します。
 - DHCP を使用するには、シェルプロンプトで次のように入力します。

ipmitool lan set 1 ipsrc dhcp

それ以上の IP レベルの設定は必要ありません。

• 静的アドレス指定を使用するには、シェルプロンプトで次のように入力します。

```
1 >ipmitool lan set 1 ipsrc static
2 >ipmitool lan set 1 ipaddr (LOM IP address)
3 >ipmitool lan set 1 netmask (netmask IP address)
4 >ipmitool lan set 1 defgw ipaddr <default gateway IP address>
```

BMC が再起動し、変更が適用されます。BMC への ping は、約 60 秒後に成功します。

2. 必要に応じて、イーサネット VLAN ID とプライオリティを構成するには、NetScaler ADC シェルプロンプト で次のように入力します。

1 >ipmitool lan set 1 vlan id <off|ID>
2 >ipmitool lan set 1 vlan priority <priority>

VLAN は、無効または有効にできます。VLAN ID を 1 ~4094 の値に設定し、VLAN プライオリティを 0 ~7 の値に設定します。ネットワーク設定が正しく適用されると、物理的に別のマシンからネットワーク経由でリ モートからipmitoolにアクセスできます。リモートアクセスの場合は、BMC ユーザー名、BMC パスワー ド、および BMC IP アドレスを入力します。たとえば、ipmitool mc info コマンドを実行するには、 リモートマシンのシェルプロンプトで、次のように入力します。

ipmitool -U <username> -P <password> -H <bmc IP address> mc info

ヘルスモニタリング情報の取得

NetScaler MIB には、NetScaler ソフトウェア管理 MIB と NetScaler IPMI LOM ハードウェア管理 MIB の 2 つ があります。ソフトウェア管理 MIB は、主に、アプリケーションソフトウェアと、アプリケーションソフトウェアの ハードウェアリソース(CPU%、メモリ% など)の使用状況を監視するために使用されます。アプライアンスの高レ ベルビューが提供されるため、組織内のアプリケーショングループが実行するアプリケーション監視機能に適してい ます。LOM MIB はハードウェアの状態を監視するために使用されるため、アプライアンスの低レベルビューが提供 されます。このタイプの監視は、ネットワーク監視グループによって実行されるネットワーク監視機能により適用で きます。

LOM MIB の LOM SNMP トラップは、ハードウェア障害を報告します。NetScaler MIB 内の NetScaler ADC SNMP トラップは、ソフトウェアの障害とハードウェアのロード問題を報告します。

NetScaler MIB には、ハードウェアセンサーの小さなサブセットがあります。BIOS は、主に起動時に NetScaler ADC ソフトウェアの起動前にハードウェアをチェックするため、BIOS レベルの障害はカバーされません。BIOS で 障害が検出された場合、ブートローダーはロードされません。ブートローダーがロードされない場合、オペレーティ ングシステムはロードされないため、トラップの送信を担当する NetScaler SNMP ソフトウェアサービスはロード されません。

NetScaler ADC ソフトウェア管理 MIB は、次の条件でのみ警告を発行します。

- 1. 障害が緩やかで、メイン CPU が SNMP アラートを発行できる場合。電気キャパシタの障害など、CPU に近 い電気的障害は、CPU がアラートを発行するには速すぎます。
- 2. BIOS、オペレーティングシステム、および SNMP サービスの開始後に障害が発生し、通常の起動に成功した場合。
- 3. オペレーティングシステムおよびその他のシステムソフトウェアが、SNMP ソフトウェアサービスを実行す るのに十分な安定した状態にあるときに障害が発生した場合。

ハードウェアまたはソフトウェアの障害が原因で NetScaler ADC MIB がこれらの警告を報告できない場合は、LOM MIB が警告を監視して報告します。LOM マイクロコントローラは、NetScaler ADC ソフトウェアとは独立して動作 します。NetScaler ADC アプライアンスのハードウェアとソフトウェアを監視するには、NetScaler MIB と LOM MIB の両方を使用する必要があります。

NetScaler IPMI LOM ハードウェア管理 MIB SNMP ファームウェアは、BMC マイクロコントローラチップ上で動 作します。BMC チップ CPU は、ハードウェア障害が発生した場合に、前述の条件のいずれかが発生するかどうかに かかわらず、警告を送信します。たとえば、メモリ DIMM 障害が原因で起動中に BIOS がシステムを停止した場合、 BMC チップは BIOS POST コードスヌーピングメカニズムを使用して障害を検出し、不良な DIMM SNMP アラー トを送信します。 LOM ポートにログオンして、アプライアンスに関するヘルス情報を表示できます。システム温度、CPU 温度、ファ ンと電源のステータスなど、すべてのシステムセンサー情報は、センサーの読み取り値ページに表示されます。イベ ントログには、ハードウェア障害イベントの記録に加えて、電源のオフ/オンなどのルーチンイベントのタイムスタン プが記録されます。SNMP トラップが有効になっている場合、これらのイベントは、SNMP ネットワーク監視ソフ トウェアに送信できます。SNMP アラートを設定する方法の詳細については、「SNMP アラートの構成」を参照して ください。

ヘルスモニタリング情報を取得するには

- 1. メニューバーで、[システムヘルス]をクリックします。
- 2. [オプション]で、[センサーの読み取り値]をクリックします。

MIB をインストールする

LOM ファームウェアバージョン用の IPMI SNMP 管理情報ベース(MIB)をダウンロードし、SNMP モニタリング ソフトウェアにインポートします。

設定例については、http://www.net-snmp.org/tutorial/tutorial-5/commands/snmptrap.htmlを参照して ください。ご使用の環境に固有のこの手順の正確な手順については、SNMP ネットワーク監視ソフトウェアプロバイ ダにお問い合わせください。

SNMP アラートの構成

SNMP アラートは LOM で設定できます。オプションで、電子メールを送信するようにアラートを構成できます。 アラートを構成するには、LOM GUI または NetScaler ADC シェルを使用できます。

GUI を使用して LOM で SNMP アラートを構成するには

- IPMI View ユーティリティをftp://ftp.supermicro.com/utility/IPMIView/からダウンロードし、コンピュータにインストールします。このユーティリティを使用して、構成をテストします。詳細については、『IPMI View ユーザガイド』(http://supermicro.com)のアラート設定に関するセクションを参照してください。
- 2. IPMI ビューユーティリティを開きます。
- 3. LOM GUI で、[構成]>[アラート]に移動し、[アラート No 1]をクリックして [変更]をクリックします。
- 4. アラートを生成するイベントの重要度レベルを選択します。
- 5. [宛先 IP] を、IPMI ビューユーティリティをインストールした IP アドレスに設定します。
- 必要に応じて、電子メールでアラートを受信するには、電子メールアドレスを指定します。定期的なアラートの電子メールを受信しないようにするには、「情報」よりも大きい重大度を指定します。
- 7. [次へ]をクリックし、[アクティブ化]をクリックします。

8. LOM は、1 分または 2 分以内に IPMI View ユーティリティへのアラートの送信を開始します。IPMI View ユ ーティリティが LOM からのアラートの受信を開始したら、宛先 IP アドレスを再構成して、HP OpenView などの SNMP ネットワーク管理ソフトウェアを指すようにします。

NetScaler ADC シェルを使用して LOM で SNMP アラートを設定する

フィルタとポリシー設定をカスタマイズするには、IPMI 仕様 2.0 rev. 1.1 のマニュアルを参照してください。

最新の IPMI 仕様は、インテル Web サイトの IPMI セクションから入手できます。

http://www.intel.com/content/www/us/en/servers/ipmi/ipmi-specifications.html

通常、SNMP ネットワーク管理ソフトウェアでのカスタマイズは、中央の場所で1回行うことができるため、推奨される方法です。したがって、次の設定は、すべてのセンサーのすべてのイベントを SNMP ネットワーク管理ソフトウェアに送信します。これらのイベントはトラフィック量が少ないイベントであるため、ネットワークの使用量が大きくなることはありません。

すべてのイベントを許可するように SNMP フィルタを設定するには、次の手順を実行します。

すべてのセンサーとイベントのポリシーリストを設定するには、次の手順を実行します。

ipmitool raw 4 0x12 9 0x10 0x18 0x11 0x81

SNMP イベントの宛先 IP アドレスを設定するには、次の手順を実行します。

ipmitool lan alert set 1 1 ipaddr <x.x.x.x>

ここで、は、SNMP イベントの送信先の IP アドレスです。

SNMP コミュニティストリング名を指定するには、次の手順を実行します。

ipmitool lan set 1 snmp <community string>

SDX 9100 および SDX 16000 に SSL 証明書を作成してインストールする

September 30, 2024

OpenSSL を使用してキーを作成し、証明書署名リクエスト (CSR) を生成し、自己署名 SSL 証明書を生成します。 LOM GUI を使用して SSL 証明書をインストールします。インストールが成功すると、LOM GUI は新しい SSL 証明 書を使用して安全な接続を行います。

前提条件

- OpenSSL がインストールされている FreeBSD または Linux マシンを実行している SDX プラットフォーム へのアクセス。
- LOM Web インターフェイスへの管理アクセス認証情報 (nsroot/パスワード)。

OpenSSL を使用して **SSL** 証明書を作成する

OpenSSL から以下のステップを実行します。

1. 2048 ビットの RSA プライベートキーを生成します。タイプ: openssl genrsa-out private_key.pem 2048

private_key.pem という名前のファイルが、RSA プライベートキーを含む現在のディレクトリに作成されます。

- 2. このプライベートキーを使用して CSR を生成します。タイプ: openssl req-**new**-key private_key.pem-out request.csr 次のパラメーターの値を入力します:
 - 国名 (2文字のコード): 例: 米国
 - 州または都道府県の名前 (フルネーム): 例: カリフォルニア
 - 地域名:たとえば、サンフランシスコ
 - 組織名:たとえば、「マイカンパニー」
 - 組織単位名: たとえば、IT 部門
 - 共通名たとえば、あなたの名前 (またはサーバーのホスト名)
 - 電子メールアドレス: たとえば、admin@mycompany.com
 - チャレンジパスワード: 空欄のまま
 - オプションの会社名:空欄のままにする

request.csr という名前のファイルが、証明書署名要求を含む現在のディレクトリに作成されます。

 CSR とプライベートキーを使用して自己署名 SSL 証明書を生成します。証明書は 365 日間有効です。 タイプ: openssl x509-req-in request.csr-signkey private_key.pem-out lom_certificate.pem-days 365

lom_certificate.pem という名前のファイルが、自己署名 SSL 証明書を含む現在のディレクトリに作成されます。

LOM GUI を使用して SSL 証明書をインストールする

- 1. デフォルトの管理者アカウント (nsroot) を使用して LOM Web インターフェイスにログインします。
- 2. 構成 > ネットワーク > SSL 証明書に移動します。
- 3.「新規 SSL 証明書」で、「ファイルを選択」をクリックします。

- 4. 証明書ファイル (lom_certificate.pem) の場所を参照します。
- 5.「新規秘密鍵」で、「ファイルを選択」をクリックします。
- 6. キーファイル (private_key.pem) の場所を参照します。
- 7. [アップロード] をクリックします。

SSL 証明書とプライベートキーを LOM UI にアップロードすると BMC が再起動し、システムはデフォルトでロック されます。ブラウザで SSL 証明書の詳細をチェックして、生成した lom_certificate.pem と一致していることを確 認します。

Example

```
1 [root@netscaler-sdx SSL_Cert]# openssl version
2 OpenSSL 1.0.2k-fips 26 Jan 2017
3 [root@netscaler-sdx SSL_Cert]# uname -a
4 Linux netscaler-sdx 4.4.0+2 #1 SMP Fri Apr 30 02:46:33 UTC 2021 x86_64
      x86_64 x86_64 GNU/Linux
5 [root@netscaler-sdx SSL_Cert]# cat /etc/centos-release
6 XenServer release 7.1.2 (xenenterprise)
7 [root@netscaler-sdx SSL_Cert]# openssl genrsa -out private_key.pem 2048
8 Generating RSA private key, 2048 bit long modulus
9 .....+++
  ....+++
11 e is 65537 (0x10001)
12 [root@netscaler-sdx SSL_Cert]# ls
13 private_key.pem
14 [root@netscaler-sdx SSL_Cert]# openssl req -new -key private_key.pem -
      out request.csr
15 You are about to be asked to enter information that will be
      incorporated
16 into your certificate request.
17 What you are about to enter is what is called a Distinguished Name or a
       DN.
18 There are quite a few fields but you can leave some blank
19 For some fields there will be a default value,
20 If you enter '.', the field will be left blank.
21 -----
22 Country Name (2 letter code) [XX]:US
23 State or Province Name (full name) []:California
24 Locality Name (eg, city) [Default City]:Santa_Clara
25 Organization Name (eg, company) [Default Company Ltd]:CSG
26 Organizational Unit Name (eg, section) []:Engineering
27 Common Name (eg, your name or your server's hostname) []: cloud.com
28 Email Address []: none@cloud.com
29
30 Please enter the following 'extra' attributes
31 to be sent with your certificate request
32 A challenge password []:
33 An optional company name []:
34 [root@netscaler-sdx SSL_Cert]# ls
35 private_key.pem request.csr
```

```
36 [root@netscaler-sdx SSL_Cert]# openssl x509 -req -in request.csr -
      signkey private_key.pem -out lom_certificate.pem -days 365
37 Signature ok
38 subject=/C=US/ST=California/L=Santa_Clara/0=CSG/0U=Engineering/CN=cloud
      .com/emailAddress=none@cloud.com
39 Getting Private key
  [root@netscaler-sdx SSL_Cert]# ls
40
41 lom_certificate.pem private_key.pem request.csr
42
43 [root@netscaler-sdx SSL_Cert]# openssl version
44 OpenSSL 1.0.2k-fips 26 Jan 2017
45 [root@netscaler-sdx SSL_Cert]# uname -a
46 Linux netscaler-sdx 4.4.0+2 #1 SMP Fri Apr 30 02:46:33 UTC 2021 x86_64
      x86_64 x86_64 GNU/Linux
47 [root@netscaler-sdx SSL_Cert]# cat /etc/centos-release
48 XenServer release 7.1.2 (xenenterprise)
49 [root@netscaler-sdx SSL_Cert]# openssl genrsa -out private_key.pem 2048
50 Generating RSA private key, 2048 bit long modulus
51 .....+++
52 .....+++
53 e is 65537 (0x10001)
54 [root@netscaler-sdx SSL_Cert]# ls
55 private_key.pem
56 [root@netscaler-sdx SSL_Cert]# openssl req -new -key private_key.pem -
      out request.csr
57 You are about to be asked to enter information that will be
      incorporated
58 into your certificate request.
59 What you are about to enter is what is called a Distinguished Name or a
       DN.
60 There are quite a few fields but you can leave some blank
61 For some fields there will be a default value,
62 If you enter '.', the field will be left blank.
63 ---
64 Country Name (2 letter code) [XX]:US
65 State or Province Name (full name) []:California
66 Locality Name (eg, city) [Default City]:Santa_Clara
67 Organization Name (eg, company) [Default Company Ltd]:CSG
68 Organizational Unit Name (eg, section) []:Engineering
69 Common Name (eg, your name or your server's hostname) []: cloud.com
70 Email Address []: none@cloud.com
71
72 Please enter the following 'extra' attributes
73 to be sent with your certificate request
74 A challenge password []:
75 An optional company name []:
76 [root@netscaler-sdx SSL_Cert]# ls
77 private_key.pem request.csr
78 [root@netscaler-sdx SSL_Cert]# openssl x509 -reg -in request.csr -
      signkey private_key.pem -out lom_certificate.pem -days 365
79 Signature ok
80 subject=/C=US/ST=California/L=Santa_Clara/0=CSG/0U=Engineering/CN=cloud
      .com/emailAddress=none@cloud.com
```

```
81 Getting Private key
82 [root@netscaler-sdx SSL_Cert]# ls
83 lom_certificate.pem private_key.pem request.csr
```

サンプルプライベートキー**.pem (2048** ビット)

1	BEGIN RSA PRIVATE KEY
2	MIIEogIBAAKCAQEAlW0N9EghsirHkPsgAiwXHuPdNw6D0stwC9V7ZLu38g36pqYk
3	X1yhON4yF61nCqS+Mfiu+plPEDbXc5dwtd7Le4JEW80FHko5mBz3Uj9MSenJTBVT
4	V1d+hyu82nR0VWdAxe72kPiiTG7PuM34ZZqeHuy+tLU9FkAXDtxyjlPf/TDJPQl/
5	7h1klnTW5t9s2rSXznj3jsX0g88xF8S/ksGP106F507XoZYtpafUB/SqfZuX95qv
6	12EbbusifBwrmKVd/Z5/FguSGCeszBmrCol0dfUT44lMRPP2zW0m60234j4HmOuh
7	Z/qL34seA1SmIMHkr9K57VHWqWoc3NmTDK2n0wIDAQABAoIBAEaI7AVb50wLFZlC
8	caGU3nUeatYKa7fdQE7VvyGV2wbPwnnYA2NgfloxyM0UfwdvLLi6Ax8YL1IgESPn
9	YLT5LmRm4Y3PhY7+yqEbS0PvzTs2uGbJykV4b6mu477bKe8GhnTokEtukm4yAKvj
10	zlVn3ywJ5Ru4UdWm+ztwpEK7JQiGvkoMSn7+qDhEAw5sw9cdCRxqLITm0xVhda5L
11	xO576NCAvSMCGlkwu9F6nnscP2TIT6Do44AiERAQRUdWVrNWNAbQQwQ+9QOLRLIn
12	lg+h8UIzBdUo4+HPm6ewSKTM1VBtQWTrLzKSEatUoqxXBznx1FpPbjo0G5xcTnXS
13	pzoztIECgYEAxxV1c706Hcy56hNv1q4G1UYDhRvBMIyeCnZWrr5lFD0Q5v7I/azH
14	i2EN4B/XZEQjstGxjGzCUXwngZoMykth67+bfynGkuAzdDQFgTXZCT1LSGWbJJQw
15	XhMTkL9Qpc9F1pByeX3G/o5pBc4xtjInMqf1wPEFD14ujeE/WMC0eCsCgYEAwCU9
16	azqLK1LMPgjcmep4Zl51xTVbaCzo5mreQAMoljxc4QDEW+HIK7/hhD57/MyA7Zya
17	6xIhIQ0q26xGV+MrJ9tWIhyUfoC07kV9jc0TcszaMAzNk0+vKVEwmvQC7833csC9
18	Tx/hS4jSiYkyqeIVYV0IZWjZvSlFqfmsZCl1UvkCgYAGSPolRkMQb8cqyaRNPb8/
19	em9gA2lM9B0FNwkziRU9110yRzbnM041a0H54md1ZeV0nuohCcn0spu4rrlapZiY
20	<pre>zbrF//ah6mwVbhMCakXI0e0PjI2iUP9Z6PZEKpYMNgf5ZyQGC999Z9e09FyDaP/t</pre>
21	zHmotrM3Mfz8Q7ExRxwrcwKBgCwRnneUcszZ7Zwgvi/S9hBMg+haJ3/KJRSL2DOI
22	RevHJmo4mdCVBSr7lEaXaip940gebe2SN+Tztyuw5GVN5dz7UlL6iRhGfrjTWUuH
23	iHlhAH3awd+SfBMW2vX/FxlW/PTlvcWDA1ImrFr9C5CpGMw+4SkZFi9rYt3sNJy4
24	YX9JAoGAbAKC332U9iTPXajrygPkAtDjJQXnwp0BAXHU9NxNHF00X2gkU+RQSotC
25	8muqyDgA0SLuagd0bAZS59wQCjTtHXB8WR5R5fri7a1MdmW+/0nhGG09CwV4Vw/n
26	ZEFexXmC1uUO1jfj0HtXrKgmkalj/1e60tjr/r6UxV/vM900gtw=
27	END RSA PRIVATE KEY

サンプルリクエスト**.csr**

1	BEGIN CERTIFICATE REQUEST
2	MIIC3DCCAcQCAQAwgZYxCzAJBgNVBAYTAlVTMRMwEQYDVQQIDApDYWxpZm9ybmlh
3	MRQwEgYDVQQHDAtTYW50YV9DbGFyYTEMMAoGA1UECgwDQ1NHMRQwEgYDVQQLDAtF
4	bmdpbmVlcmluZzESMBAGA1UEAwwJY2xvdWQuY29tMSQwIgYJKoZIhvcNAQkBFhVr
5	aG9hLm5ndXllbkBjbG91ZC5jb20wggEiMA0GCSqGSIb3DQEBAQUAA4IBDwAwggEK
6	AoIBAQCVbQ30SCGyKseQ+yACLBce4903DoM6y3AL1Xtku7fyDfqmpiRfXKE43jIX
7	rWcKpL4x+K76mU8QNtdzl3C13st7gkRbw4UeSjmYHPdSP0xJ6clMFVNXV36HK7za
8	dHRVZ0DF7vaQ+KJMbs+4zfhlmp4e7L60tT0WQBc03HK0U9/9MMk9CX/uHWSWdNbm
9	<pre>32zatJf0ePe0xc6DzzEXxL+SwY/U7oXk7tehli2lp9QH9Kp9m5f3mq/XYRtu6yJ8</pre>
10	HCuYpV39nn8WC5IYJ6zMGasKiXR19RPjiUxE8/bNbSbo7bfiPgeY66Fn+ovfix4D
11	VKYgweSv0rntUdapahzc2ZMMrafTAgMBAAGgADANBgkqhkiG9w0BAQsFAAOCAQEA
12	I9rsE/tsUgGNHzgsJ6Bq45a1AFN1hDS2IPuvEVl+ 3 eGECR6ZRMxcHRn3ZGS0ISmD
13	mYeTfzwxT/IcCRXbVqFvAPkdiRwZwDvCjDg3BN1petrSURbyYbd9BTRkthSn+N10

```
9Szyik0EKbuHnQ9TbeCB0vAKpSFIz+jImfNYXYIlvFTsJRJaDFDN0Xlv6QgDAX2J
qxjVaiOisJVz5QXjzD/NpWtFFQJYblLphS4uXmMllg3sWaAI9LhfAd1wJC9uSr8R
CZyqnV6UjC0AXMsBbchR2SNa5lWNBH6F9Kjv2StlrpglmJfq63MqDQLq3HFfKrfA
aQi90lrjSMWkdIQX22pZxw==
----END CERTIFICATE REOUEST-----
```

サンプル lom_certificate.pem

1	BEGIN CERTIFICATE
2	MIIDqjCCApICCQDaiXN+twsKSjANBgkqhkiG9w0BAQsFADCBljELMAkGA1UEBhMC
3	VVMxEzARBgNVBAgMCkNhbGlmb3JuaWExFDASBgNVBAcMC1NhbnRhX0NsYXJhMQww
4	CgYDVQQKDANDU0cxFDASBgNVBAsMC0VuZ2luZWVyaW5nMRIwEAYDVQQDDAljbG91
5	ZC5jb20xJDAiBgkqhkiG9w0BCQEWFWtob2Eubmd1eWVuQGNsb3VkLmNvbTAeFw0y
6	NDA2MTEwMjAxMDRaFw0yNTA2MTEwMjAxMDRaMIGWMQswCQYDVQQGEwJVUzETMBEG
7	A1UECAwKQ2FsaWZvcm5pYTEUMBIGA1UEBwwLU2FudGFfQ2xhcmExDDAKBgNVBAoM
8	A0NTRzEUMBIGA1UECwwLRW5naW5lZXJpbmcxEjAQBgNVBAMMCWNsb3VkLmNvbTEk
9	MCIGCSqGSIb3DQEJARYVa2hvYS5uZ3V5ZW5AY2xvdWQuY29tMIIBIjANBgkqhkiG
10	9w0BAQEFAAOCAQ8AMIIBCgKCAQEAlW0N9EghsirHkPsgAiwXHuPdNw6DOstwC9V7
11	ZLu38g36pqYkX1yhON4yF61nCqS+Mfiu+plPEDbXc5dwtd7Le4JEW80FHko5mBz3
12	Uj9MSenJTBVTV1d+hyu82nR0VWdAxe72kPiiTG7PuM34ZZqeHuy+tLU9FkAXDtxy
13	jlPf/TDJPQl/7h1klnTW5t9s2rSXznj3jsX0g88xF8S/ksGP106F507XoZYtpafU
14	B/SqfZuX95qv12EbbusifBwrmKVd/Z5/FguSGCeszBmrCol0dfUT44lMRPP2zW0m
15	60234j4HmOuhZ/qL34seA1SmIMHkr9K57VHWqWoc3NmTDK2n0wIDAQABMA0GCSqG
16	SIb3DQEBCwUAA4IBAQBLojhxNsw24NOuTIQ3dJh6WZATiiBjw8kQyEJqyiB8oCmO
17	oAVleDAjI44C2eaR1vj321yNQI6bmBGPffwUoIX6YMAfll6nJqOfl9+rJd1FYCCd
18	FIqt76sC9YTu8WL3j7X1LE2lhQj7RZUt321QcG30qxQoXlQIM5oP7q17WkmPY0tW
19	JQZ4LjQRGHtc9rDiSlkzeMeBgtG3HqdNSorn2S15JJf/4sm5JXQXd7GByicv9aNM
20	AagjqwlkziJUpL02r2bRX+3Qn0NE5WlxaYYisIPe9py3TsnLXHcrnTqrHbh6e4wc
21	+yF9+4nouCHPj0s2i0QV7koFHz8lnEiUYaxYT8wl
22	END CERTIFICATE

LOM GUI を使用して古いプラットフォームに証明書とキーをインストールする

April 1, 2025

HTTPS を使用して LOM GUI にアクセスすることをお勧めします。HTTPS を使用するには、デフォルトの SSL 証 明書を信頼できる認証局からの証明書に置き換え、秘密鍵を LOM GUI にアップロードする必要があります。

SNMP アラートを暗号化するには、SSL 証明書と秘密キーを設定します。GUI で、[構成]>[**SSL** 証明書] に 移動し、SSL 証明書と秘密キーを適用します。ネットワークに LOM を安全に展開する方法の詳細については、 NetScaler ADC セキュア展開ガイドを参照してください。暗号化を有効にし、LOM のセキュリティ対策について は、http://support.citrix.com/article/CCTX200084を参照してください。

間違えた場合は、BMC を工場出荷時のデフォルトに戻して証明書とキーを消去する必要があります。

注

証明書ファイルには、証明書のみが含まれている必要があります。証明書と鍵は、同じファイル内に存在するこ とはできません。証明書に証明書のみが含まれていること、およびキーファイルにキーのみが含まれているこ とを確認します。

LOM GUI を使用して信頼できる証明書と秘密キーをアップロードするには

	CITR	X .	ľ	Server: 010.217.210 User: nsroot	3.016 (Administrator)	
	System	System Health	Configuration	Remote Control	Virtual Media	Maintenance
[***+#+冲]、[661 -+	 System System Summa FRU Reading 	ry Pirmware	Alerts Al	n rol te Console Preview esh Preview Image	IP address : 010.217.2 BMC MAC address : 0 System LAN1 MAC ad System LAN2 MAC ad	216.016 10:25:90:ad:5f.e1 dress : 00:25:90:ad:60: dress : 00:25:90:ad:60:
[**構成]>[SSL証明書]に移動します。**		4				

- 1. [**構成]>[SSL証明書]に移動します。*
- 2. 右側のペインで、[Choose File] ボタンをクリックして、新しい SSL 証明書と新しい秘密キーを選択します。 CITDIX.

CITR	X		Server: 010.217.216.01 User: nsroot	6 (Administrator)		Oritical OREF	esh@Logou
System	System Health	Configuration	Remote Control	Virtual Media	Maintenance	Miscellaneous	
Configuration	SSI	L Upload					
Alerts							
Date and Time		The validity of the default of Certificate and New Private	e Key.	renew SSL certificate, plea	ise upload New SSL		
LDAP							
Active Directo	ry Cer	tification Valid From	2/8/2011 10:36:3	37 PM			
RADIUS	Cer	tification Valid Until	1/31/2041 10:36	37 PM			
Mouse Mode	New	v SSL Certificate	Choose File	No file chosen			
Network							
Remote Session	Upl	oad					
SMTP							
SSL Certification	on						

3. 正しい証明書と秘密キーを選択したことを確認するには、証明書とキーのファイル名をチェックします。ファイ

5.

	CITRI	X °		Host-Identificat Server: (User:	100 10.217.216.0 nsroot	116 (Administrator)
	System	System Health	Configuration	Remote	e Control	Virtual Media
	Configuration	٢	SSL Upload			
	Alerts		The unidity of the deal	foult contificato in s	hour holour. T	o repour CCI contificato al
	Date and Time		Certificate and New F	Private Key.	nown below. 1	o renew SSL certificate, pr
	DLDAP					
	Active Directory		Certification Valid From	n 2	/8/2011 10:36	337 PM
	RADIUS		Certification Valid Until	I 1	/31/2041 10:3	36:37 PM
	Mouse Mode		New SSL Certificate	ĺ	Choose File	certbundle-one.pem
	Network					
	Remote Session	1	Upload			
	SMTP					
ボタンの横に表示されます。	SSL Certificatio	n				

4. [アップロード] をクリックします。新しい SSL 証明書をアップロードすると、既存の(デフォルト)証明書が 置き換えられることが通知されます。

	The page at ht	tps://10.217.	216.16 sa	ys:
	A SSL Certificate a will replace the exi Do you want to co	lready exists. Lo sting certificate ntinue?	oading a nev e.	v SSL certificat
			ОК	Cancel
[作成]をクリックします				

6. 証明書とキーが正常にアップロードされたことを示すメッセージが表示されたら、[**OK**]をクリックしてデバイ

The page at https://10.217.216.16 says:

The Certificate and Key were uploaded successfully. The device needs to be reset for the new certificate to be effective. Click 'OK' if you want to reset the device now. If you Click 'OK', you will have to reconnect to the device with a new browser session. Click 'Cancel' if you want to reset the device later.



7. デフォルトの資格情報を使用して、LOM GUI にログオンします。

注

証明書またはキーが無効な場合、BMC は再起動して新しい設定を試し、以前の設定に戻ります。

8. 次の画面に示すように、アドレスバーで、[接続] タブを表示するには、ロックアイコンをクリックします。



,	
ĺ	Certificate
	General Details Certification Pat
	Certificate Information Windows does not have entries certificate.
	Issued to: ee_server
	Issued by: ca_1
	Valid from 2/8/20
	Learn more about pertificated
証明書の詳細が表示されます。 	
	lables, //accessarily albuilt, a such

 9. 証明書情報をクリックすると、アップロードした証明書の詳細が表示されます。
 >注: LOM および NetScaler セキュリティのベスト プラクティスについては、http://support.citrix.com /article/CTX200084を参照してください。 アプライアンスの MAC アドレス、シリアル番号、ホストプロパティの取得

March 1, 2025

メディア アクセス制御アドレス (MAC アドレス) は、物理ネットワーク セグメント上の通信用にネットワーク インタ ーフェイスに割り当てられる一意の識別子です。シリアル番号はアプライアンスの背面パネルにあります。背面パネ ルに簡単にアクセスできない場合は、Lights Out Management (LOM) ポートにログオンしてアプライアンスのシ リアル番号を取得できます。また、ARP、ICMP、Telnet、セキュアシェルアクセス、ダイナミックルーティングの状 態など、アプライアンス上で構成された IP アドレスに割り当てられたパラメータ設定を取得することもできます。

LOM GUI を使用してアプライアンスの MAC アドレス、シリアル番号、ホストプロパティを取得するには

- 1. LOM GUI にログオンします。
- 2. システム > コンポーネント情報に移動します。
- 3. 概要 タブでは、アプライアンスの MAC アドレス、シリアル番号、およびホストのプロパティを表示できます。

アプライアンスシェルを使用して BMC の MAC アドレスとホストのプロパティを取得するには

シェルプロンプトで、次のように入力します:

ipmitool lan print

Example

1	Set in Progress	: Set Complete
2	Auth Type Support	: MD2 MD5 OEM
3	Auth Type Enable	: Callback : MD2 MD5 OEM
4		: User : MD2 MD5 OEM
5		: Operator : MD2 MD5 OEM
6		: Admin : MD2 MD5 OEM
7		: OEM :
8	IP Address Source	: Static Address
9	IP Address	: 192.168.1.3
10	Subnet Mask	: 255.255.255.0
11	MAC Address	: 00:25:90:3f:5e:d0
12	SNMP Community String	: public
13	IP Header	: TTL=0x00 Flags=0x00 Precedence=0x00 TOS=0
	×00	
14	BMC ARP Control	: ARP Responses Enabled, Gratuitous ARP
	Disabled	
15	Gratituous ARP Intrvl	: 0.0 seconds
16	Default Gateway IP	: 0.0.0.0
17	Default Gateway MAC	: 00:00:00:00:00
18	Backup Gateway IP	: 0.0.0.0

19	Backup Gateway MAC	: 00:00:00:00:00:00
20	802.1q VLAN ID	: Disabled
21	802.1q VLAN Priority	: 0
22	RMCP+ Cipher Suites	: 1,2,3,6,7,8,11,12,0
23	Cipher Suite Priv Max	: aaaaXXaaaXXaaXX
24		: X=Cipher Suite Unused
25		: c=CALLBACK
26		: u=USER
27		: o=OPERATOR
28		: a=ADMIN
29		: O=OEM

LOM ポートを使用して電源制御操作を実行する

January 25, 2024

LOM ポートを使用して、正常なシャットダウンと再起動、アプライアンスの電源の再起動、BMC マイクロコントロ ーラの再起動などの電源制御操作をリモートで実行できます。コールドリスタートは、ウォームリスタートよりも時 間がかかります。コールドリスタートでは、アプライアンスの電源をオフにし、再び電源を入れます。

GUIを使用した電源制御操作の実行

- 1. メニューバーで、[リモートコントロール]をクリックします。
- 2. [オプション]の[電源制御]をクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。
 - システムのリセット:アプライアンスを正常に再起動します。アプライアンスの再起動前に、アプライアンスに対するすべての操作が停止され、クライアントまたはサーバーへの新しい接続は受け入れられません。また、既存の接続はすべて閉じられます。このオプションは、rebootコマンドを入力するなど、ウォーム再起動に似ています。この操作中、BMCは再起動しません。
 - システムの電源オフー即時:アプライアンスを正常にシャットダウンせずに、アプライアンスへの電源 を直ちに切断します。BMC はこのモードで正常に動作し続け、ユーザーはリモートでアプライアンスの 電源をオンにできます。このオプションは、ユニットの電源が切れるまで電源ボタンを押すのと同じで す。
 - システムの電源オフー秩序あるシャットダウン:アプライアンスを正常にシャットダウンしてから、ア プライアンスへの電源を切断します。アプライアンスの背面パネルの電源ボタンを4秒未満押した場合 と同じ効果があります。アプライアンスのすべての操作が停止され、クライアントまたはサーバーへの 新しい接続は受け入れられません。また、アプライアンスがシャットダウンする前に、既存の接続はす べて閉じられます。BMC はこのモードで正常に動作し続け、ユーザーはリモートでアプライアンスの電 源をオンにできます。このオプションは、アプライアンスシェルで shutdown コマンドを入力するの と同じです。

- システムの電源オン:アプライアンスのスイッチをオンにします。この操作中、BMCは再起動しません。このオプションは、電源ボタンを押すのと同じです。
- システムの電源オフ/オン:アプライアンスの電源を切り、再び電源を入れます。この操作中、BMCは 再起動しません。このオプションは、ユニットの電源が切れるまで電源ボタンを押し、次に電源ボタン を押してユニットの電源を入れます。
- 3. [アクションを実行]をクリックします。

BMC の電源を入れ直します

電源ボタンを使用したアプライアンスのウォーム再起動、コールド再起動、またはアプライアンスの電源再投入には、 BMC の電源の再投入は含まれません。BMC は、電源装置から直接スタンバイ電源で動作します。したがって、BMC は、アプライアンスの電源ボタンの状態の影響を受けません。BMC の電源を再投入する唯一の方法は、アプライアン スからすべての電源コードを 60 秒間取り外すことです。

アプライアンスシェルを使用して BMC で電源制御操作を実行します

BMC マイクロコントローラのウォームリスタートまたはコールド再起動を実行する場合、LOM ポートと通信できま せん。どちらのアクションも BMC を再起動しますが、メイン CPU は再起動しません。アプライアンスから LOM の ウォーム再起動を実行するには、次のように入力します。

ipmitool mc reset warm

ネットワーク上の別のコンピュータからリモートでウォーム再起動を実行する

ipmitool -U <bmc_gui_username> -P <bmc_gui_password> -H <bmc IP address> mc reset warm

アプライアンスから LOM のコールド再起動を実行します

ipmitool mc reset cold

ネットワーク上の別のコンピュータからリモートでウォーム再起動を実行する

ipmitool -U <bmc_gui_username> -P <bmc_gui_password> -H <bmc IP
address> mc reset cold

コアダンプを実行する

アプライアンスに障害が発生したり、応答しなくなった場合は、コアダンプをリモートで実行できます。この手順は、 アプライアンスの背面パネルにある **NMI** ボタンを押すのと同じ効果があります。

GUI を使用してコアダンプを実行する

- 1. メニューバーで、[リモートコントロール]をクリックします。
- 2. [オプション]の[NMI]をクリックし、[NMIの開始]をクリックします。

シェルを使用して、ネットワーク上の別のコンピュータからリモートでコアダンプを実行する

シェルプロンプトで、次のように入力します:

ipmitool -U <bmc_gui_username> -P <bmc_gui_password> -H <bmc IP address> chassis power diag

BMC 構成を工場出荷時のデフォルトに戻す

January 25, 2024

BMC は、SSL 証明書と SSL キーの削除など、工場出荷時のデフォルト設定に復元できます。

GUI を使用して設定を工場出荷時のデフォルトにリセットするには

- 1. [メンテナンス]>[工場出荷時のデフォルト]に移動します。
- 2. [復元]をクリックします。

シェルを使用して設定を工場出荷時のデフォルトにリセットするには

シェルプロンプトで、次のように入力します:

ipmitool raw 0x30 0x40

IPMI BMC フェールオーバー用のポートの指定

January 25, 2024

LOM ファームウェアバージョン 3.x 以降では、専用 LOM ポートと共有 LOM 管理ポート間のフェイルオーバーのデ フォルトモードは、アクティブなポートにフェイルオーバーされます。デフォルトでは、ケーブルを接続するポート を選択する以外に、ユーザー構成は必要ありません。マザーボードには、管理 MAC と管理ポート間、および LOM MAC と LOM ポート間のイーサネットスイッチがあります。次の図は、イーサネットスイッチを示しています。

図 1: イーサネットスイッチ



このスイッチは、専用 LOM ポートまたは共有管理ポートを介して LOM トラフィックを送信するように設定できま す。専用の LOM ポートは、管理ポートを単一障害点として排除し、共有 LOM/管理ポートはケーブル配線コストを 削減します。

BIOS POST コードを使用してエラーを検出する

January 25, 2024

BIOS POST コードは、LOM GUI またはシェルを使用して読み取ることができます。BIOS ビープ音を解釈するに は、https://www.supermicro.com/manuals/other/AMI_AptioV_BIOS_POST_Codes_for_SM_Motherb oards.pdfを参照してください。

LOM GUI を使用して BIOS ポストコードを読み取るには

[その他] > [BIOS ポストスヌーピング] に移動します。

シェルを使用して BIOS POST コードを読み取るには

プロンプトで、次のように入力します:

ipmitool raw 0x30 0x2a

NetScaler SDX アプライアンスのハードウェア正常性属性

September 30, 2024

NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームの動作範囲は、属性によって異なります。

注

注記属性の現在の値を表示するには、stat system -detailコマンドを使用します。

SDX 9100 プラットフォームのヘルス属性

次の表に、SDX 24100/24150 のヘルス属性を示します。

ヘルス属性	推奨範囲
CPU 温度 (摂氏)	10-95
PCH 温度 (摂氏)	10-85
システム温度 (摂氏)	10-80
周辺温度 (摂氏)	10-80
CPU_VRMIN 温度 (摂氏)	10-95
VRMABCD 温度 (摂氏)	10-95
VRMEFGH 温度 (摂氏)	10-95
DIMMABCD 温度 (摂氏)	10-80
DIMMEFGH 温度 (摂氏)	10-80
システムファン1速度 (RPM)	1300-18000
システムファン 2 速度 (RPM)	1300-18000
システムファン 3 速度 (RPM)	1300-18000
システムファン 4 速度 (RPM)	1300-18000
システムファン 5 速度 (RPM)	1300-18000
システムファン 6 速度 (RPM)	1300-18000
スタンバイ 3.3V 電源(ボルト)	2.885-3.69
+5.0V 電源(ボルト)	4.466-5.737
+12.0V 電源(ボルト)	10.704-13.476
VBAT (ボルト)	2.591-3.464

ヘルス属性	推奨範囲
3.3VSB (ボルト)	2.954-3.552
5VSB (ボルト)	4.496-5.378
1.8 V PCH (ボルト)	1.618-1.943
PVNN PCH (ボルト)	0.892-1.072
1.05 V PCH (ボルト)	0.915-1.176
1.0 V BMC (ボルト)	0.892-1.072
1.2 V BMC (ボルト)	1.074-1.29
1.8 V BMC (ボルト)	1.62-1.944
2.5 V BMC (ボルト)	2.177-2.804
VcpuVRM (ボルト)	1.616-1.944
vCPU (ボルト)	0.931-1.195
vdimmABCD (ボルト)	1.096-1.344
vdimmefGH (ボルト)	1.096-1.344

SDX 8900 プラットフォームのヘルス属性

次の表に、SDX 9100 プラットフォームの正常性属性を示します。

ヘルス属性	推奨範囲
CPU 0 コア(ボルト)	1.77-1.81
メイン 3.3V 電源(ボルト)	3.25-3.32
スタンバイ 3.3V 電源(ボルト)	3.25-3.32
+5.0V 電源(ボルト)	4.84-4.95
+12.0V 電源(ボルト)	11.75-12.00
バッテリー (ボルト)	3.02-3.13
5V スタンバイ(ボルト)	5.05-5.16
CPU ファン 0 スピード (RPM)	6600-12600
CPU ファン1スピード (RPM)	6300-12200
システムファン速度 (RPM)	6700-8600

NetScaler SDX

ヘルス属性	推奨範囲
システムファン1速度 (RPM)	6600-8500
システムファン 2 速度 (RPM)	6700-8500
CPU 0 温度 (摂氏)	40-57
CPU1温度(摂氏)	35-45
内部温度 (摂氏)	30-49
電源装置1のステータス	標準
電源装置2のステータス	存在しない–正常

SDX 15000 および SDX 26000 プラットフォームの正常性属性

次の表に、SDX 8900 プラットフォームの正常性属性を示します。

^								
ル								
ス	最 公 最							
属 単	小 称 大							
性 位	値値値							
CP垘	1.417.812.835							
0 ル								
コト								
ア								
電								
圧								
CP垘	1.417.812.8353_	_ 31∜GC132.330. 48	3_3 1∜\$3B132.330. 48	5VOC 4.752.050.28	p121∜11.B23.D20.67	VBANT 2.755.068.20	00ヴ	5
1 ル		ル	ル	ル	ル	ル	ィ な-な-な-な-	
コト		۲	F	۲	F	۲	ッ	
ア							۲	
電								
圧								

SDX 14000 プラットフォームのヘルス属性

次の表に、SDX 15000 および SDX 26000 プラットフォームの正常性属性を示します。

ヘルス属性	推奨範囲
CPU 0 コア(ボルト)	0.85-0.91
CPU 1 コアボルト	0.85-0.93
メイン 3.3V 電源(ボルト)	3.31-3.36
スタンバイ 3.3V 電源(ボルト)	3.26-3.31
+5.0V 電源(ボルト)	4.99-5.06
+12.0V 電源(ボルト)	11.98-12.08
バッテリ電圧	3.02-3.12
内部 CPU VTT パワー	0.99-1.01
CPU ファン 0 スピード (RPM)	1875-4350
CPU ファン1スピード (RPM)	1875-4200
システムファン速度 (RPM)	1875-4350
システムファン1速度 (RPM)	1875-4275
システムファン 2 速度 (RPM)	1875-4200
CPU 0 温度 (摂氏)	33-43
CPU 1 温度 (摂氏)	35-45
内部温度 (摂氏)	28-38
電源装置1のステータス	標準
電源装置2のステータス	標準

SDX 22040 プラットフォームのヘルス属性

次の表に、SDX 14000 プラットフォームの正常性属性を示します。

		リカバリ不					
		可能な値を	重要度が低	低非クリテ	上限非クリ	上限クリテ	上位の回復
ヘルス属性	単位	下げる	い	ィカル	ティカル	ィカル	不可
CPU1 Temp	C度	0.000	0.000	0.000	90.000	93.000	95.000

ヘルス属性	単位	リカバリ不 可能な値を 下げる	重要度が低 い	低非クリテ ィカル	上限非クリ ティカル	上限クリテ ィカル	上位の回復 不可
CPU2 Temp	C 度	0.000	0.000	0.000	90.000	93.000	95.000
システム温 度	C 度	-9.000	-7.000	-5.000	80.000	85.000	90.000
周辺温度	C 度	-9.000	-7.000	-5.000	80.000	85.000	90.000
PCH 温度	C 度	-11.000	-8.000	-5.000	90.000	95.000	100.000
FPC_Temp 1	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	66.000	70.000	75.000
FPC_Temp 2	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000
FPC_Temp 3	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000
HDDBP_Ter 1	mp度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000
HDDBP_Ter 2	mβ度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000
FAN 1	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FAN 2	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FAN 3	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FAN 4	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FAN 5	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FAN 6	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FAN 7	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FAN 8	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_1 ステ ータス	離散	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_1 FAN	RPM	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_1 Temp	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_2 ステ ータス	離散	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_2 FAN	RPM	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-

	¥¥ (*	リカハリイ 可能な値を	重要度が低	低非クリテ	上限非クリ	上限クリテ	上位の回復
ヘルス属性 	単1⊻	トける	<u>ل</u> ۱	イカル	テイカル	イカル	个
PS_2 Temp	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_3 ステ ータス	離散	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_3 FAN	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_3 Temp	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000
PS_4 ステ ータス	離散	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_4 FAN	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_4 Temp	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000
FPC ステー タス	離散	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
VTT	ボルト	0.816	0.864	0.912	1.344	1.392	1.440
CPU1 Vcore	ボルト	0.480	0.512	0.544	1.488	1.520	1.552
CPU2 Vcore	ボルト	0.480	0.512	0.544	1.488	1.520	1.552
VDIMM AB	ボルト	1.104	1.152	1.200	1.648	1.696	1.744
VDIMM CD	ボルト	1.104	1.152	1.200	1.648	1.696	1.744
VDIMM EF	ボルト	1.104	1.152	1.200	1.648	1.696	1.744
VDIMM GH	ボルト	1.104	1.152	1.200	1.648	1.696	1.744
+1.5 V	ボルト	1.248	1.296	1.344	1.648	1.696	1.744
3.3 V	ボルト	2.640	2.784	2.928	3.648	3.792	3.936
+3.3VSB	ボルト	2.640	2.784	2.928	3.648	3.792	3.936
5 V	ボルト	4.096	4.288	4.480	5.504	5.696	6.912
12 V	ボルト	10.176	10.494	10.812	13.250	13.568	13.886
VBAT	ボルト	2.400	2.544	2.688	3.312	3.456	3.600

SDX 24100 プラットフォームの正常性属性

		リカバリ不	リカバリ不						
		可能な値を	重要度が低	低非クリテ	上限非クリ	上限クリテ	上位の回復		
ヘルス属性	単位	下げる	い	ィカル	ティカル	ィカル	不可		
CPU1	C 度	0.000	0.000	0.000	90.000	93.000	95.000		
Temp									
CPU2	C 度	0.000	0.000	0.000	90.000	93.000	95.000		
Temp									
システム温 度	C度	-9.000	-7.000	-5.000	80.000	85.000	90.000		
周辺温度	C 度	-9.000	-7.000	-5.000	80.000	85.000	90.000		
PCH 温度	C 度	-11.000	-8.000	-5.000	90.000	95.000	100.000		
FPC_Temp 1	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	66.000	70.000	75.000		
FPC_Temp 2	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000		
FPC_Temp 3	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000		
HDDBP_Ter 1	nβ度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000		
HDDBP_Ter 2	m β 度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000		
FAN 1	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-		
FAN 2	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-		
FAN 3	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-		
FAN 4	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-		
FAN 5	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-		
FAN 6	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-		
FAN 7	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-		
FAN 8	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-		
PS_1 ステ ータス	離散	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-		
PS_1 FAN	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-		

次の表に、SDX 22040 プラットフォームの正常性属性を示します。

NetScaler SDX

		リカハリヤ	手西府が低	低まちいニ	上阳北方山	ᄂᅋᇰᇿᆖ	ト位の同復	
ヘルフ属性	畄位	可能な値を	里安度が低い	瓜キシリティカル	工限非クリ	工限クリティカル	工业の回復	
	<u> </u>	1.0.0		1 1110	7 1 777		1.6]	
PS_1	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000	
Temp								
PS_2 ステ	離散	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	
		<i></i>	4.1	<i>.</i>	<i>4</i> .1	4.1	4.1	
PS_2 FAN	RPM	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	
PS_2 	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	
lemp	÷0 ±1			<i>k</i> .			<i>k</i> .	
PS_3 ステ	離散	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	
PS_3 FAN	RPM	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	
PS_3	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	
Temp								
PS_4 ステ	離散	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	
ータス								
PS_4 FAN	RPM	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	
PS_4	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	
Temp								
FPC ステー	離散	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	
	+*″ II ⊾	0.916	0 964	0.012	1 244	1 202	1 440	
VII	小// F	0.010	0.004	0.912	1.544	1.392	1.440	
CPU1	ボルト	0.480	0.512	0.544	1.488	1.520	1.552	
CPU2	ボルト	0.480	0.512	0.544	1.488	1.520	1.552	
Vcore	3.77.1							
VDIMM AB	ボルト	1.104	1.152	1.200	1.648	1.696	1.744	
VDIMM CD	ボルト	1.104	1.152	1.200	1.648	1.696	1.744	
VDIMM EF	ボルト	1.104	1.152	1.200	1.648	1.696	1.744	
VDIMM	ボルト	1,104	1,152	1.200	1.648	1,696	1,744	
GH		1110 1	11102	1.200	110 10	1.000	200 0	
+1.5 V	ボルト	1.248	1.296	1.344	1.648	1.696	1.744	
3.3 V	ボルト	2.640	2.784	2.928	3.648	3.792	3.936	
+3.3VSB	ボルト	2.640	2,784	2,928	3.648	3,792	3.936	
5.575B	-1-1-1-	4.000	4 200	4.400	5.510	5.152 E COC	C 012	
SV	ホルト	4.096	4.288	4.480	5.504	5.696	6.912	

		リカバリ不					
		可能な値を	重要度が低	低非クリテ	上限非クリ	上限クリテ	上位の回復
ヘルス属性	単位	下げる	い	ィカル	ティカル	ィカル	不可
12 V	ボルト	10.176	10.494	10.812	13.250	13.568	13.886
VBAT	ボルト	2.400	2.544	2.688	3.312	3.456	3.600

SDX 16000 プラットフォームのハードウェア健全性属性

September 30, 2024

次の表は、SDX 16000 プラットフォームのヘルス属性の推奨範囲を示しています。

シェルからipmitool sdr listコマンドを実行します。このコマンドは、感覚パラメータデータを詳細に一 覧表示します。

CLIからstat system -detailコマンドを実行します。このコマンドは、パラメーターのサブセットを一覧 表示します。

ヘルス属性 (シェル)	ヘルス属性 (CLI)	推奨範囲
CPU1 Temp	CPU 0 温度 (摂氏)	10-95
CPU2 Temp	CPU1温度(摂氏)	10-95
PCH 温度	温度1(摂氏)	10-85
システム温度	内部温度 (摂氏)	10-80
周辺温度	温度 0 (摂氏)	10-80
ファン1	CPU ファン 0 スピード (RPM)	1260-8260
ファン2	CPU ファン1スピード (RPM)	1260-8260
ファン3	システムファン速度 (RPM)	1260-8260
ファン4	システムファン1速度 (RPM)	1260-8260
ファン5	システムファン 2 速度 (RPM)	1260-8260
ファン 6	ファン 0 スピード (RPM)	1260-8260
12V	+12.0 ボルトの電源電圧	11.330-12.520
5VCC	+5.0 ボルトの電源電圧	4.713-5.217

ヘルス属性 (シェル)	ヘルス属性 (CLI)	推奨範囲
3.3VCC	メイン電源電圧: 3.3 V	3.134-3.464
VBAT	バッテリ電圧 (ボルト)	2.591-3.464
Vcpu1VCCIN	CPU 0 コア電圧 (ボルト)	1.616-2.016
VCPU2 VCCIN	CPU 1 コア電圧 (ボルト)	1.616-2.016
Vcpu1VDDQABCD	電圧 0 (ボルト)	1.096-1.344
Vcpu1VDDQEFGH	電圧1(ボルト)	1.096-1.344
Vcpu2VDDQABCD	電圧 2 (ボルト)	1.096-1.344
Vcpu2VDDQEFGH	電圧3(ボルト)	1.096-1.344
5VSB	5V スタンバイ電圧 (ボルト)	4.745-5.249
3.3VSB	スタンバイ電源電圧: 3.3 V	3.117-3.447
1.8V PCH	電圧 4 (ボルト)	1.698-1.883
PS1 ステータス	電源装置1のステータス	-該当なし-
PS2 ステータス	電源装置2のステータス	-該当なし-

出力例

次のセクションでは、システムセンサーヘルス属性を表示するさまざまな方法を示します。データはサンプル表現の みです。アプライアンスからの出力は異なる場合があります。許容範囲については、前の表を参照してください。

- CLI から
- シェルから
- ・ LOM GUI から

CLI

コマンドラインで、次のように入力します。stat system -detail

```
1 >stat system -detail
2
3 NetScaler Executive View
4
5 System Information:
6 Up since Tue Nov 15 13:50:59 2022
7 Up since(Local) Tue Nov 15 13:50:59 2022
8 Memory usage (MB) 3562
9 InUse Memory (%) 6.24
```

10	Number of CPUs	9	
11	System Heelth Statistics (Standard).		
12	CPU & Core Voltage (Volta)	1 77	
14	CPU 1 Core Voltage (Volts)	1 77	
15	Main 3 3 V Supply Voltage	3 49	
16	Standby 3.3 V Supply Voltage	3.45	
17	+5.0 V Supply Voltage	5.26	
18	+12.0 V Supply Voltage	12.44	
19	Battery Voltage (Volts)	3.11	
20	Intel CPU Vtt Power(Volts)	0.00	
21	5V Standby Voltage(Volts)	5.04	
22	Voltage Sensor2(Volts)	0.00	
23	CPU Fan O Speed (RPM)	3360	
24	CPU Fan 1 Speed (RPM)	3360	
25	System Fan Speed (RPM)	3360	
26	System Fan 1 Speed (RPM)	3360	
27	System Fan 2 Speed (RPM)	3360	
28	CPU 0 Temperature (Celsius)	54	
29	CPU 1 Temperature (Celsius)	53	
30	Internal Temperature (Celsius)	33	
31	Power supply 1 status	NORMAL	
32	Power supply 2 status		
33	Power supply 3 status	NOT SUPPORTED	
34 25	Power supply 4 status	NUT SUPPORTED	
36	System Dick Statistics.		
37	/flash Size (MB)	29748	
38	/flash Used (MB)	3927	
39	/flash Available (MB)	23441	
40	/flash Used (%)	14	
41	/var Size (MB)	800856	
42	/var Used (MB)	20127	
43	/var Available (MB)	716660	
44	/var Used (%)	2	
45			
46	System Health Statistics(Auxiliary):		
47	Voltage 0 (Volts)	1.20	
48	Voltage 1 (Volts)	1.20	
49	Voltage 2 (Volts)	1.20	
50	Voltage 3 (Volts)	1.20	
51	Voltage 4 (Volts)	1.88	
52	Voltage 6 (Volts)	0.00	
54	Voltage 7 (Volts)	0.00	
55	Fan Ø Speed (RPM)	3360	
56	Fan 1 Speed (RPM)	0	
57	Fan 2 Speed (RPM)	õ	
58	Fan 3 Speed (RPM)	0	
59	Temperature 0 (Celsius)	28	
60	Temperature 1 (Celsius)	34	
61	Temperature 2 (Celsius)	Θ	
62	Temperature 3 (Celsius)	0	

63 Done 64 >

Shell

コマンドラインで、次のように入力します。shell

1	> shell		
2	root@ns# ipmitool	sdr list	
3			
4	CPU1 Temp	54 degrees C	ok
5	CPU2 Temp	53 degrees C	ok
6	PCH Temp	34 degrees C	ok
7	System Temp	33 degrees C	ok
8	Peripheral Temp	28 degrees C	ok
9	CPU1_VRMIN Temp	65 degrees C	ok
10	CPU1_VRMIO Temp	44 degrees C	ok
11	CPU2_VRMIN Temp	46 degrees C	ok
12	CPU2_VRMIO Temp	47 degrees C	ok
13	P1_VRMABCD Temp	38 degrees C	ok
14	P1_VRMEFGH Temp	43 degrees C	ok
15	P2_VRMABCD Temp	42 degrees C	ok
16	P2_VRMEFGH Temp	45 degrees C	ok
17	FAN1	3360 RPM	ok
18	FAN2	3360 RPM	ok
19	FAN3	3360 RPM	ok
20	FAN4	3360 RPM	ok
21	FAN5	3360 RPM	ok
22	FAN6	3360 RPM	ok
23	P1_DIMMA~D Temp	38 degrees C	ok
24	P1_DIMME~H Temp	33 degrees C	ok
25	P2_DIMMA~D Temp	30 degrees C	ok
26	P2_DIMME~H Temp	30 degrees C	ok
27	12V	12.44 Volts	ok
28	5VCC	5.26 Volts	ok
29	3.3VCC	3.49 Volts	ok
30	VBAT	3.11 Volts	ok
31	Vcpu1VCCIN	1.77 Volts	ok
32	Vcpu1VCCI0	1.00 Volts	ok
33	Vcpu2VCCIN	1.77 Volts	ok
34	Vcpu2VCCI0	1.00 Volts	ok
35	Vcpu1VDDQABCD	1.20 Volts	ok
36	Vcpu1VDDQEFGH	1.20 Volts	ok
37	Vcpu2VDDQABCD	1.20 Volts	ok
38	Vcpu2VDDQEFGH	1.20 Volts	ok
39	5VSB	5.04 Volts	ok
40	3.3VSB	3.45 Volts	ok
41	2.5V BMC	2.56 Volts	ok
42	1.8V BMC	1.83 Volts	ok
43	1.2V BMC	1.20 Volts	ok
44	1.0V BMC	1.02 Volts	ok
45	1.8V PCH	1.88 Volts	ok

46	PVNN PCH	1.06 Volts	ok
47	1.05V PCH	1.06 Volts	ok
48	PS1 Status	0×01	ok
49	PS2 Status	0×01	ok
50	AOC_NIC2 Temp	51 degrees C	ok
51	AOC_NIC4 Temp	51 degrees C	ok
52	root@ns#		

LOM GUI

- 1. LOM GUI にログオンします。
- 2. ダッシュボードの [センサー]をクリックすると、温度と電圧の値が表示されます。ファンの値を表示するに は、「ファン」をクリックします。

Dashboard						_		
□ System +	Overview	CPU Memory	PSU	Power	Sensor		Fan	
Configuration +	- Eller							
Remote Control	E2 Pitter							
🖏 Maintenance +	Show Thresholds	ON O						
	Select a sensor type category	× Voltage × Temperature						
	Sensor Readings							
	Export to Excel							٩
	Severity 🔹 🔹	Name	Reading	Type	Low NR	Low CT	High CT	High NR
	<i>"</i>	CPU2 Temp	55	Temporature	5	5	100	100
	<i>"</i>	CPU1 Temp	55	Temperature	5	5	100	100
	<i>"</i>	PCH Temp	33	Temperature	5	5	90	105
		System Temp	33	Temperature	5	5	85	90
	<i>"</i>	Peripheral Temp	28	Temperature	5	5	85	90
	<i>"</i>	CPU1_VRMIN Temp	65	Temperature	5	5	100	105
	<i>"</i>	CPU1_VRMIO Temp	44	Temperature	5	5	100	105
	<i>"</i>	CPU2_VRMIN Temp	46	Temperature	5	5	100	105
	<i>"</i>	CPU2_VRMIO Temp	47	Temperature	5	5	100	105
	<i>"</i>	P1_VEMABCD Temp	38	Temperature	5	5	100	105
	2	P1_VRMEFGH Temp	43	Temperature	5	5	100	105
	<i>"</i>	P2_VRMABCD Temp	42	Temperature	5	5	100	105
	2	P2_VRMEEGH Temp	45	Temperature	5	5	100	105
	2	P1_DIMMA~D Temp	38	Temperature	5	5	85	90
	2	P1_DIMME~H Temp	33	Temperature	5	5	85	90
	2	P2_DIMMA-D Temp	30	Temperature	5	5	85	90
	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	P2_DIMME~H Temp	30	Temperature	5	5	85	90
		AOC_NIC2 Temp	51	Temperature	5	5	100	105
	9	AOC_NIC4 Temp	51	Temperature	5	5	100	105
	2	12V	12.435	Voitage	10.735	10.735	13.2	13.2
	9	5VCC	5.259	Voitage	4.461	4.461	5.469	5.469
		3.3VCC	3.464	Voitage	2.958	2.968	3.629	3.629
								-
Dashboard	Owneday	0011	0011	Dames			E.c.	
System +	Overview	CPU Memory	PSU	Power	Sensor		Fan	
Configuration +	Fan							
Remote Control								
Maintenance +	Operating State	Health Status	Name	RPM L	ow NR Lo	ow CT	High CT	High NR
	<i>"</i>	OK	FAN1	3360 9	80 11	20	8680	8960
	<i>"</i>	OK	FAN2	3360 9	80 11	20	8680	8960
	<i>"</i>	OK	FAN3	3360 9	80 11	20	8690	0368
	<i>"</i>	OK	FAN4	3360 9	80 11	20	8680	8960
	<i>,</i>	OK	FAN5	3360 9	80 11	20	8680	8960
	<i>"</i>	OK	FAN6	3360 9	80 11	20	8680	0368

NetScaler SDX アプライアンスでのフォートビル NIC ファームウェアのアップグレード

January 25, 2024

https://support.citrix.com/article/CTX263807を修正するフォートビル NIC を含む NetScaler ADC SDX アプ ライアンスのファームウェアをアップグレードします。

サポートされるプラットフォーム

重要:単一バンドルイメージ(SBI)をアップグレードする前に、まず VPX インスタンスを次のいずれかのリリース にアップグレードしてください。

- リリース 11.1 ビルド 65.x 以降
- リリース 12.1 ビルド 57.x 以降
- リリース 13.0 ビルド 58.x 以降

SDX SBI が以下の最小バージョンにアップグレードされると、ファームウェアと NIC ドライバーは自動的にバージョン 7.0 にアップグレードされます。アップグレードの完了にかかる時間は、プラットフォームによって異なります。 たとえば、6 つのフォートビル NIC を搭載した SDX 14000 プラットフォームでは、アップグレードにかかる合計時間は約 30 分です。

ソフトウェアバージョン	SBIバージョン
11.1 ビルド 65.x	11.1 ビルド 65.x
12.1 ビルド 57.x	12.1 ビルド 57.x
13.0 ビルド 58.x	13.0 ビルド 58.x

次の SDX アプライアンスおよび対応するゼロ容量アプライアンスには、フォートビル NIC が含まれています。

- SDX 8900
- SDX 14000-40S
- SDX 14000-40G
- SDX 15000
- SDX 15000-50G
- SDX 25000-40G
- SDX 26000
- SDX 26000-50S

10G/25G/40G NIC を搭載した NetScaler SDX のアップデートされた NIC ドライバーとファームウェ アのサポート

シングルバンドルイメージ (SBI) バージョン 14.1-8.x 以降または 13.1-50.x 以降にアップグレードすると、次のプ ラットフォームで 10G/25G/40G NIC ドライバとファームウェアが自動的にバージョン 8.70 にアップグレードさ れます。NIC ファームウェアバージョン 8.70 は CVE-2020-8690、CVE-2020-8691、CVE-2020-8692、および CVE-2020-8693 を修正します。

- SDX 8900
- SDX 14000-40G
- SDX 15000
- SDX 15000-50G
- SDX 25000-40G
- SDX 16000
- SDX 9100
- SDX 26000
- SDX 26000-50S

NetScaler MPX アプライアンスを NetScaler ADC SDX アプライアンスに変換する

January 25, 2024

NetScaler MPX アプライアンスを SDX アプライアンスに変換して、マルチサービスとマルチテナントを完全にサポ ートし、専用の単一の物理アプライアンスに複数の仮想化された ADC インスタンスを展開できます。

注: SDX アプライアンスから MPX アプライアンスへの変換はサポートされていません。

NetScaler MPX 11515/11520/11530/11540/11542 アプライアンスを、NetScaler SDX 11515/11520/11530/11540/11542 アプライアンスに変換できます。変換するには、新しいソリッドステートドライブ (SSD) と新しいハードディスクド ライブ (HDD) を使用してソフトウェアをアップグレードします。

NetScaler モデル SDX 11515/11520/11530/11540/11542 は、2U アプライアンスです。各モデルには、合計 12 個の物理コア (ハイパースレッディング付きの 24 コア) と 48 GB のメモリ用の 6 コアのプロセッサが 2 つ搭載され ています。

SDX 11515/11520/11530/11540/11542 アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート(RJ45)。LOM ポートとも呼ばれます。このポートを使用して、 NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。

注: SDX 11515/11520/11530/11540/11542 アプライアンスでは、LOM ポートの LED は設計上動作し ません。

2 つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート(RJ45)。左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられています。これらのポートは、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。8 つの 10G SFP+ ポートと 4 つの銅線またはファイバの 1 G SFP ポート。

新しいソリッドステートドライブ(SSD)を使用してソフトウェアをアップグレードすることで、NetScaler MPX 8005/8010/8015/8200/8400/8800 アプライアンスを NetScaler ADC SDX 8010/8015/8400/8600 アプライア ンスに変換できます。

NetScaler ADC モデル SDX 8010/8015/8400/8600 は、1U のアプライアンスです。 各モデルには、 クアッドコアプ ロセッサ (ハイパースレッディング付き 8 コア) と 32 GB のメモリが搭載されています。SDX 8010/8015/8400/8600 アプライアンスは、次の 2 つのポート構成で使用できます。

- 6 つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネットポートと 1 G SFP ポート 6 個(6x10/100/1000BASE-T 銅 線イーサネットポート + 6x1G SFP)
- 6 つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネットポートと 2 つの 10G SFP+ ポート(6x10/100/1000BASE-T 銅線イーサネットポート + 2x10G SFP+

NetScaler MPX 26000-50S アプライアンスをネットスケーラー SDX 26000-50S

アプライアンスに変換

September 30, 2024

NetScaler MPX アプライアンスを NetScaler SDX アプライアンスに変換するには、新しいソリッドステートドラ イブ(SSD)を使用してソフトウェアをアップグレードします。NetScaler は、NetScaler MPX アプライアンスを SDX アプライアンスに移行するためのフィールド変換キットを提供しています。

変換には 8 つの SSD すべてが必要です。

注:

変換プロセスを開始する前に、アプライアンスのライトアウト管理(LOM)ポートを構成することをお勧めし ます。ADC アプライアンスの LOM ポートについて詳しくは、「NetScaler SDX アプライアンスのライトアウ ト管理ポート」を参照してください。

MPX アプライアンスを SDX アプライアンスに変換するには、コンピュータまたはターミナルに接続されたコンソー ルケーブルを使用してアプライアンスにアクセスする必要があります。コンソールケーブルを接続する前に、次の構 成をサポートするようにコンピュータまたはターミナルを構成してください。

- VT100 端末エミュレーション
- ・ 9600 ボー
- 8データビット
- 1ストップビット
- パリティとフロー制御を NONE に設定

コンソールケーブルの一方の端をアプライアンスの RS232 シリアル・ポートに接続し、もう一方の端をコンピュー タまたは端末に接続します。

注:

コンバータ付きのケーブルを使用するには、オプションのコンバータをコンソールポートに挿入し、ケーブル を接続します。

ケーブルを接続した状態で、MPX アプライアンスのコンポーネントが正しく機能していることを確認します。これ で、変換を開始する準備ができました。変換プロセスにより、BIOS が変更され、Citrix Hypervisor とサービス仮 想マシンイメージがインストールされ、NetScaler VPX イメージがソリッドステートドライブにコピーされます。

変換プロセスでは、ローカルストレージと NetScaler VPX ストレージ用の独立ディスク(RAID)コントローラーの 冗長アレイもセットアップされます。SSD スロット #1 と #2 はローカルストレージに使用され、SSD スロット #3、 #4、#5、#6、#7、#8 は NetScaler VPX ストレージに使用されます。

変換プロセスの後、アプライアンスの設定を変更し、新しいライセンスを適用します。その後、現在の NetScaler SDX アプライアンス上の管理サービスを通じて VPX インスタンスをプロビジョニングできます。

MPX アプライアンスのコンポーネントが適切に動作していることを確認する

- 1. コンソールポートにアクセスし、管理者の資格情報を入力します。
- アプライアンスのコマンドラインインターフェイスから次のコマンドを実行して、シリアル番号を表示します。 show hardware。変換後にアプライアンスにログオンするために、シリアル番号が必要になる場合があ ります。

Example

1	> show hardware
2	Platform: NSMPX-26000-50S 28*CPU+256GB+4*MLX(50)+16*F2X+2*E1K+4*4-
	CHIP CO 520310
3	Manufactured on: 9/15/2020
4	CPU: 2400MHZ
5	Host Id: 1862303878
6	Serial no: 83WRVD62EM
7	Encoded serial no: 83WRVD62EM
8	Netscaler UUID: 258f9971-f7db-11ea-b021-00e0ed9041b6
9	BMC Revision: 5.03
10	Done

シリアル番号は、シトリックスのテクニカルサポートに問い合わせる際に役立つことがあります。
3. 次のコマンドを実行して、アクティブなインターフェイスの状態を表示します:

show interface

Example

```
1 > show interface
2
3 1) Interface 0/1 (Gig Ethernet 10/100/1000 MBits) #8
4 flags=0xc020 <ENABLED, UP, UP, autoneg, HAMON, HEARTBEAT, 802.1q>
5 MTU=1500, native vlan=1, MAC=0c:c4:7a:56:64:7e, uptime 120h29m33s
6 Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
            throughput 0
  Actual: media UTP, speed 1000, duplex FULL, fctl OFF, throughput
8
      1000
9 LLDP Mode: NONE,
                               LR Priority: 1024
10
11 RX: Pkts(1614945) Bytes(104805024) Errs(0) Drops(1601312) Stalls
      (0)
12 TX: Pkts(9166) Bytes(2556380) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
13 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
14 Bandwidth thresholds are not set.
15
16 2) Interface 0/2 (Gig Ethernet 10/100/1000 MBits) #9
17 flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, HEARTBEAT,
      802.1q>
18 MTU=1500, native vlan=1, MAC=0c:c4:7a:56:64:7f, downtime 120
      h29m53s
   Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
19
           throughput 0
21 LLDP Mode: NONE,
                               LR Priority: 1024
23 RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
24 TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
25 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
26 Bandwidth thresholds are not set.
28 3) Interface 25/1 (25G Ethernet, unknown device) #10
29 flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, HEARTBEAT,
      802.1q>
30 MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:90:41:bc, downtime 120
      h29m53s
31 Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
32
            throughput 0
                                LR Priority: 1024
33 LLDP Mode: NONE,
34
35 RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
36 TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
37 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
38 Bandwidth thresholds are not set.
39 Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
40
41 4) Interface 25/2 (25G Ethernet, unknown device) #11
42 flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, HEARTBEAT,
```

```
802.1q>
43 MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:90:41:bd, downtime 120
      h29m53s
44 Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
45
            throughput 0
46 LLDP Mode: NONE,
                               LR Priority: 1024
47
48 RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
49 TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
50 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
51 Bandwidth thresholds are not set.
52 Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
53
54 5) Interface 25/3 (25G Ethernet, unknown device) #12
55
  flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, HEARTBEAT,
      802.1q>
  MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:90:41:be, downtime 120
      h29m53s
  Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
            throughput 0
58
59 LLDP Mode: NONE,
                               LR Priority: 1024
61
   RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
   TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
62
63 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
64 Bandwidth thresholds are not set.
65 Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
67 6) Interface 25/4 (25G Ethernet, unknown device) #13
  flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, HEARTBEAT,
      802.1q>
69 MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:90:41:bf, downtime 120
      h29m53s
70 Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
71
            throughput 0
72 LLDP Mode: NONE,
                               LR Priority: 1024
73
74 RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
   TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
76 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
77 Bandwidth thresholds are not set.
78 Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
80 7) Interface 25/5 (25G Ethernet, unknown device) #14
81 flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, HEARTBEAT,
      802.1q>
82
  MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:90:41:f2, downtime 120
      h29m53s
83 Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
84
            throughput O
85 LLDP Mode: NONE,
                               LR Priority: 1024
87 RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
```

```
88 TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
 89 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
90 Bandwidth thresholds are not set.
91 Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
92
93 8) Interface 25/6 (25G Ethernet, unknown device) #15
   flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, HEARTBEAT,
94
       802.1q>
   MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:90:41:f3, downtime 120
       h29m53s
   Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
             throughput 0
                                 LR Priority: 1024
98 LLDP Mode: NONE,
99
100 RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
   TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
101
102 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
103 Bandwidth thresholds are not set.
104 Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
105
106 9) Interface 25/7 (25G Ethernet, unknown device) #16
   flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, HEARTBEAT,</pre>
       802.1q>
   MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:90:41:f4, downtime 120
108
       h29m53s
109 Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
110
             throughput 0
111 LLDP Mode: NONE,
                                 LR Priority: 1024
112
113 RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
   TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
114
115 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
116 Bandwidth thresholds are not set.
117 Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
118
119 10) Interface 25/8 (25G Ethernet, unknown device) #17
120 flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, HEARTBEAT,
       802.1q>
121 MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:90:41:f5, downtime 120
       h30m00s
122 Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
             throughput 0
                                 LR Priority: 1024
124 LLDP Mode: NONE,
125
126 RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
127
   TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
128 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
129 Bandwidth thresholds are not set.
130 Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
131
132 11) Interface 25/9 (25G Ethernet, unknown device) #2
133 flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, HEARTBEAT,
       802.1q>
```

```
134 MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:90:41:b4, downtime 120
       h30m00s
    Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
135
136
             throughput 0
137 LLDP Mode: NONE,
                                 LR Priority: 1024
138
    RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
139
    TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
140
141 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
142 Bandwidth thresholds are not set.
143 Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
144
145 12) Interface 25/10 (25G Ethernet, unknown device) #3
146 flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, HEARTBEAT,
       802.1q>
   MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:90:41:b5, downtime 120
147
       h30m00s
   Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
148
             throughput 0
149
150 LLDP Mode: NONE,
                                 LR Priority: 1024
151
    RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
152
    TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
154 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
155 Bandwidth thresholds are not set.
156 Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
157
158 13) Interface 25/11 (25G Ethernet, unknown device) #0
159 flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, HEARTBEAT,
       802.1q>
160 MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:90:41:b6, downtime 120
       h30m00s
161 Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
162
             throughput 0
                                 LR Priority: 1024
163 LLDP Mode: NONE,
164
165 RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
    TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
   NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
   Bandwidth thresholds are not set.
168
169 Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
170
171 14) Interface 25/12 (25G Ethernet, unknown device) #1
172 flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, HEARTBEAT,
       802.1q>
173 MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:90:41:b7, downtime 120
       h30m00s
174 Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
175
             throughput 0
                                 LR Priority: 1024
176 LLDP Mode: NONE,
177
178 RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
179 TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
```

```
180 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
181 Bandwidth thresholds are not set.
182 Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
184 15) Interface 25/13 (25G Ethernet, unknown device) #6
185 flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, HEARTBEAT,
        802.1q>
186 MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:90:41:ee, downtime 120
       h30m00s
187 Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
188
             throughput 0
                                 LR Priority: 1024
189 LLDP Mode: NONE,
190
   RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
192
    TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
193 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
194 Bandwidth thresholds are not set.
195 Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
196
197 16) Interface 25/14 (25G Ethernet, unknown device) #7
198 flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, HEARTBEAT,
        802.1q>
199 MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:90:41:ef, downtime 120
       h30m00s
200 Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
201
             throughput 0
202 LLDP Mode: NONE,
                                 LR Priority: 1024
203
204 RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
    TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
206 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
207 Bandwidth thresholds are not set.
208 Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
209
210 17) Interface 25/15 (25G Ethernet, unknown device) #4
211 flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, HEARTBEAT,
        802.1q>
212 MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:90:41:f0, downtime 120
       h30m00s
213 Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
214
             throughput 0
215 LLDP Mode: NONE,
                                 LR Priority: 1024
216
217 RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
218 TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
219 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
220 Bandwidth thresholds are not set.
221 Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
222
223 18) Interface 25/16 (25G Ethernet, unknown device) #5
224 flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, HEARTBEAT,
       802.1q>
225 MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:90:41:f1, downtime 120
```

```
h30m00s
226 Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
227
            throughput 0
228 LLDP Mode: NONE,
                                LR Priority: 1024
229
230 RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
   TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
231
232 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
233 Bandwidth thresholds are not set.
234 Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
235
236 19) Interface 50/1 (mce Ethernet, unknown device) #20
237 flags=0xc020 <ENABLED, UP, UP, autoneg, HAMON, HEARTBEAT, 802.1q>
238 MTU=9216, native vlan=1, MAC=24:8a:07:a4:91:0c, uptime 99h59m54s
239 Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
240
            throughput 0
241 Actual: media UTP, speed 50000, duplex FULL, fctl OFF, throughput
       50000
242 LLDP Mode: NONE,
                                LR Priority: 1024
243
244 RX: Pkts(215681) Bytes(11431096) Errs(0) Drops(215680) Stalls(0)
245 TX: Pkts(131) Bytes(5516) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
246 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
247 Bandwidth thresholds are not set.
248
249 20) Interface 50/2 (mce Ethernet, unknown device) #21
250 flags=0xc020 <ENABLED, UP, UP, autoneg, HAMON, HEARTBEAT, 802.1q>
251 MTU=1500, native vlan=1, MAC=24:8a:07:a4:91:0d, uptime 100h00m22s
252 Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
253
            throughput 0
   Actual: media UTP, speed 50000, duplex FULL, fctl OFF, throughput
254
       50000
255 LLDP Mode: NONE,
                                 LR Priority: 1024
256
257 RX: Pkts(313720) Bytes(17365302) Errs(0) Drops(312232) Stalls(0)
258 TX: Pkts(114) Bytes(4788) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
259 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
260 Bandwidth thresholds are not set.
261
262 21) Interface 50/3 (100G Ethernet) #18
263 flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, HEARTBEAT,
       802.1q>
264 MTU=1500, native vlan=1, MAC=24:8a:07:a4:91:00, downtime 120
       h30m07s
265 Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
            throughput O
267 LLDP Mode: NONE,
                                LR Priority: 1024
268
269 RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
270 TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
271 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
272 Bandwidth thresholds are not set.
273
```

```
274 22) Interface 50/4 (100G Ethernet) #19
275 flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, HEARTBEAT,
       802.1q>
276 MTU=1500, native vlan=1, MAC=24:8a:07:a4:91:01, downtime 120
       h30m07s
277 Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
             throughput 0
279 LLDP Mode: NONE,
                                 LR Priority: 1024
280
281 RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
282 TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
283 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
284 Bandwidth thresholds are not set.
285
            Interface L0/1 (Netscaler Loopback interface) #22
286 23)
        flags=0x20008020 <ENABLED, UP, UP>
287
288 MTU=9216, native vlan=1, MAC=0c:c4:7a:56:64:7e, uptime 120h30m01s
289 LLDP Mode: NONE,
                                 LR Priority: 1024
290
291 RX: Pkts(611167959) Bytes(89143315781) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
292 TX: Pkts(1207140213) Bytes(120806672260) Errs(0) Drops(0) Stalls
        (0)
293 Bandwidth thresholds are not set.
294
295 Done
296 >
```

4. show **interface**コマンドの出力で、すべてのインターフェイスが有効になっており、各インターフェ イスのステータスが UP/UP と表示されていることを確認します。

メモ:

- T ケーブルがインターフェイスに接続されている場合にのみ、インターフェイスのステータスが UP/UP として表示されます。
- -すべてのポートにSFP+トランシーバがない場合は、インターフェイスを段階的に確認します。最初の インターフェイスセットを確認したら、SFP+トランシーバを取り外し、次のポートセットに接続します。
- UP/UP 状態ではない各インターフェイスに対して、次のコマンドを実行します。enable interface 50/x。xは新しいインターフェイス番号です。

```
1 > enable interface 50/1
2 Done
3 > enable interface 50/2
4 Done
5 > enable interface 50/3
6 Done
7 > enable interface 50/4
8 Done
```

2. 次のコマンドを実行して、電源装置のステータスが正常であることを確認します。

stat system -detail

Example

```
1 > stat system -detail
2
3 Citrix ADC Executive View
4
5 System Information:
6 Up since Wed Jan 20 21:35:18 2021
7 Up since(Local) Wed Jan 20 21:35:18 2021
8 Memory usage (MB)
                                  5802
9 InUse Memory (%)
                                  2.52
10 Number of CPUs
                                    15
11
12 System Health Statistics (Standard):
13 CPU O Core Voltage (Volts)
                                              1.80
                                             1.80
14 CPU 1 Core Voltage (Volts)
15 Main 3.3 V Supply Voltage
                                             3.35
16 Standby 3.3 V Supply Voltage
                                                3.25
17 +5.0 V Supply Voltage
                                                 5.03
18 +12.0 V Supply Voltage
                                                12.13
19 Battery Voltage (Volts)
                                                 2.98
20 Intel CPU Vtt Power(Volts)
                                                  0.00
21 5V Standby Voltage(Volts)
                                              4.97
22 Voltage Sensor2(Volts)
                                              0.00
                                              3100
23 CPU Fan O Speed (RPM)
24 CPU Fan 1 Speed (RPM)
                                              3100
25 System Fan Speed (RPM)
                                             3100
26 System Fan 1 Speed (RPM)
                                             3100
27 System Fan 2 Speed (RPM)
                                              3100
28 CPU 0 Temperature (Celsius)
                                                    47
29 CPU 1 Temperature (Celsius)
                                                    51
30 Internal Temperature (Celsius)
                                                    35
31 Power supply 1 status
                                                NORMAL
32 Power supply 2 status
                                 NOT SUPPORTED
                                                NORMAL
33 Power supply 3 status
34 Power supply 4 status
                                    NOT SUPPORTED
36 System Disk Statistics:
37 /flash Size (MB)
                                                 23801
38 /flash Used (MB)
                                                  787
39 /flash Available (MB)
                                                 21110
40 /flash Used (%)
                                                    3
41 /var Size (MB)
                                                341167
42 /var Used (MB)
                                                112391
43
  /var Available (MB)
                                                201482
44 /var Used (%)
                                                    35
45
46 System Health Statistics(Auxiliary):
47 Voltage 0 (Volts)
                                              1.20
48 Voltage 1 (Volts)
                                              1.20
49 Voltage 2 (Volts)
                                              1.21
50 Voltage 3 (Volts)
                                              1.20
```

51	Voltage 4 (Volts)	1.54	
52	Voltage 5 (Volts)	0.00	
53	Voltage 6 (Volts)	0.00	
54	Voltage 7 (Volts)	0.00	
55	Fan 0 Speed (RPM)	3200	
56	Fan 1 Speed (RPM)	Θ	
57	Fan 2 Speed (RPM)	Θ	
58	Fan 3 Speed (RPM)	Θ	
59	Temperature 0 (Celsius)	27	
60	Temperature 1 (Celsius)	38	
61	Temperature 2 (Celsius)	Θ	
62	Temperature 3 (Celsius)	Θ	
63	Done		
64	>		

1. 次のコマンドを実行して、システム設定データと統計情報の tar を生成します。

show techsupport

Example

1	> show techsupport
2	
3	showtechsupport data collector tool - \$Revision\$!
4	NetScaler version 13.0
5	The NS IP of this box is 10.217.206.43
6	This is not HA configuration
7	Copying selected configuration files
8	Running shell commands
9	Running CLI show commands
10	Collecting ns running configuration
11	Collecting running gslb configuration
12	Running CLI stat commands
13	Running vtysh commands
14	Copying newnslog files
15	Copying core files from /var/core
16	Copying core files from /var/crash
17	Copying GSLB location database files
18	Copying GSLB auto sync log files
19	Copying Safenet Gateway log files
20	Copying messages, ns.log, dmesg and other log files
21	Creating archive
22	<pre>/var/tmp/support/support.tgz points to> /var/tmp/support</pre>
	/collector_P_10.217.206.43_5Dec2020_05_32.tar.gz
23	
24	showtechsupport script took 1 minute(s) and 17 second(s) to
	execute.
25	Done

注

コマンドの出力は、/var/tmp/support/collector_<IP_address>_P_<date>.tar.

gz ファイルにあります。後で参照するために、このファイルを別のコンピュータにコピーします。コマンドの 出力は、シトリックスのテクニカルサポートに連絡するときに役立つことがあります。

1. コマンドラインインターフェイスで、シェルプロンプトに切り替えます。種類: shell

Example

2. 次のコマンドを実行して、アプライアンスのメモリを確認します。

root@ns# grep "memory"/var/nslog/dmesg.boot

Example

```
1 root@ns# grep "memory" /var/nslog/dmesg.boot
2 real memory = 274877906944 (262144 MB)
3 avail memory = 264024535040 (251793 MB)
4 root@ns#
```

3. アプライアンスが MPX から SDX に変換されると、デフォルトの認証情報は、nsroot/nsroot からルート/nsroot に変更されます。

root@ns# grep "cpu"/var/nslog/dmesg.boot

Example

1	<pre>root@ns# grep "cpu" /var/nslog/dmesg.boot</pre>
2	cpu0 (BSP): APIC ID: 0
3	cpul (AP): APIC ID: 2
4	cpu2 (AP): APIC ID: 4
5	cpu3 (AP): APIC ID: 6
6	cpu4 (AP): APIC ID: 8
7	cpu5 (AP): APIC ID: 10
8	cpu6 (AP): APIC ID: 12
9	cpu7 (AP): APIC ID: 16
10	cpu8 (AP): APIC ID: 18
11	cpu9 (AP): APIC ID: 20
12	cpul0 (AP): APIC ID: 22
13	cpull (AP): APIC ID: 24
14	cpu12 (AP): APIC ID: 26
15	cpu13 (AP): APIC ID: 28
16	cpu14 (AP): APIC ID: 32
17	cpu15 (AP): APIC ID: 34
18	cpu16 (AP): APIC ID: 36
19	cpu17 (AP): APIC ID: 38
20	cpul8 (AP): APIC ID: 40

0.1	10 (40) + 4010 10 + 40	
21	cpul9 (AP): APIC ID: 42	
22	cpu20 (AP): APIC ID: 44	
23	cpu21 (AP): APIC ID: 48	
24	cpu22 (AP): APIC ID: 50	
25	cpu23 (AP): APIC ID: 52	
26	cpu24 (AP): APIC ID: 54	
27	cpu25 (AP): APIC ID: 56	
28	cpu26 (AP): APIC ID: 58	
29	cpu27 (AP): APIC ID: 60	
30	cpu0: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>	
31	cpu1: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>	
32	cpu2: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>	
33	cpu3: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>	
34	cpu4: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>	
35	cpu5: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>	
36	cpu6: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>	
37	cpu7: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>	
38	cpu8: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>	
39	cpu9: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>	
40	cpul0: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>	
41	cpull: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>	
42	cpul2: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>	
43	cpul3: <acp1 cpu=""> on acp10</acp1>	
44	cpul4: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>	
45	cpul5: <acp1 cpu=""> on acp10</acp1>	
46	cpul6: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>	
47	cpul/: <acpi cpu=""> on acpio</acpi>	
48	cpul8: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>	
49	cpul9: <acpi cpu=""> on acpio</acpi>	
50	cpuzo: <acpi cpu=""> on acpio</acpi>	
51 51	cpuzz: CACPI CPU2 on acpio	
52	cpu22. CACPI CPU2 on acpi0	
57	cpu24: <acpi acpi0<="" cpus="" on="" th=""><th></th></acpi>	
55	cpu25. (ACPI CPUS on acpin	
56	cpu26: $(ACPI CPU) on acpi0$	
57	cpu27: $(ACPT CPU) on acpi0$	
58	est0: <enhanced control="" frequency="" speedstep=""> on</enhanced>	cpu0
59	p4tcc0: <cpu control="" frequency="" thermal=""> on cpu0</cpu>	opuo
60	est1: <enhanced control="" frequency="" speedstep=""> on</enhanced>	cpu1
61	p4tcc1: <cpu control="" frequency="" thermal=""> on cpu1</cpu>	
62	est2: <enhanced control="" frequency="" speedstep=""> on</enhanced>	cpu2
63	p4tcc2: <cpu control="" frequency="" thermal=""> on cpu2</cpu>	
64	est3: <enhanced control="" frequency="" speedstep=""> on</enhanced>	cpu3
65	p4tcc3: <cpu control="" frequency="" thermal=""> on cpu3</cpu>	
66	est4: <enhanced control="" frequency="" speedstep=""> on</enhanced>	cpu4
67	p4tcc4: <cpu control="" frequency="" thermal=""> on cpu4</cpu>	
68	est5: <enhanced control="" frequency="" speedstep=""> on</enhanced>	cpu5
69	p4tcc5: <cpu control="" frequency="" thermal=""> on cpu5</cpu>	
70	est6: <enhanced control="" frequency="" speedstep=""> on</enhanced>	cpu6
71	p4tcc6: <cpu control="" frequency="" thermal=""> on cpu6</cpu>	
72	<pre>est7: <enhanced control="" frequency="" speedstep=""> on</enhanced></pre>	cpu7
73	p4tcc7: <cpu control="" frequency="" thermal=""> on cpu7</cpu>	

74 est8: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu8 75 p4tcc8: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu8 76 est9: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu9 77 p4tcc9: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu9 78 est10: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu10 79 p4tcc10: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu10 80 est11: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu11 81 p4tcc11: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu11 82 est12: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu12 83 p4tcc12: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu12 84 est13: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu13 85 p4tcc13: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu13 86 est14: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu14 p4tcc14: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu14 87 est15: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu15 89 p4tcc15: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu15 90 est16: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu16 91 p4tcc16: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu16 92 est17: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu17 93 p4tcc17: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu17 94 est18: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu18 95 p4tcc18: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu18 96 est19: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu19 97 p4tcc19: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu19 98 est20: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu20 99 p4tcc20: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu20 100 est21: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu21 101 p4tcc21: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu21 102 est22: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu22 103 p4tcc22: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu22 104 est23: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu23 105 p4tcc23: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu23 106 est24: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu24 107 p4tcc24: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu24 108 est25: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu25 109 p4tcc25: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu25 110 est26: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu26 p4tcc26: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu26 112 est27: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu27 113 p4tcc27: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu27 114 root@ns#

4. 次のコマンドを実行して、/varドライブが/dev/ ar0s1a: root@ns# df -hとしてマウントされ ているか検証します。

Example

1	root@ns# df -	h				
2	Filesystem	Size	Used	Avail	Capacity	Mounted on
3	/dev/md0	422M	404 <mark>M</mark>	9.1M	98%	/
4	devfs	1.0k	1.0k	0 B	100%	/dev
5	procfs	4.0k	4.0k	0 B	100%	/proc
6	/dev/ar0s1a	23 <mark>6</mark>	6.9 <mark>G</mark>	14G	32%	/flash

```
7 /dev/ar0s1e 333G 32G 274G 10% /var
8 root@ns#
```

5. 次のコマンドを入力して ns_hw_err.bash スクリプトを実行し、潜在的なハードウェアエラーをチェックします。

root@ns# ns_hw_err.bash

Example

```
1 root@ns# ns_hw_err.bash
2 NetScaler NS13.0: Build 73.17.nc, Date: Nov 11 2020, 07:56:08
      (64-bit)
3 platform: serial 83WRVD62EM
4 platform: sysid 520310 - NSMPX-26000-50S 28*CPU+256GB+4*MLX(50)
      +16*F2X+2*E1K+4*4-CHIP COL 8955
5 HDD MODEL: ar0: 434992MB <Intel MatrixRAID RAID1> status: READY
6
  Generating the list of newnslog files to be processed...
7
8 Generating the events from newnslog files...
9 Checking for HDD errors...
10 Checking for HDD SMART errors...
11 Checking for Flash errors...
12 Checking for Mega Raid Controller errors...
13 Checking for SSL errors...
14 Checking for BIOS errors...
15 Checking for SMB errors...
16 Checking for MotherBoard errors...
17 Checking for CMOS errors...
18
           License year: 2021: OK
19 Checking for SFP/NIC errors...
20
21 Checking for Firmware errors...
22 Checking for License errors...
23 Checking for Undetected CPUs...
24 Checking for DIMM flaps...
25 Checking for Memory Channel errors...
26 Checking for LOM errors...
27 Checking the Power Supply Errors...
28 Checking for Hardware Clock errors...
29 Script Done.
30 root@ns#
```

重要:管理ポートを含む、LOM ポートを除くすべてのポートをネットワークから物理的に切断します。

6. シェルプロンプトで、ADC コマンドラインに切り替えます。タイプ: 終了

Example

```
1 root@ns# exit
2 logout
```

3 Done

7. 次のコマンドを実行して、アプライアンスをシャットダウンします。ADC を完全に停止するかどうかを尋ねら れます。種類: shutdown -p now

Example

```
1 > shutdown -p now
 2 Are you sure you want to completely stop NetScaler (Y/N)? [N]:y
3 Done
4 > Dec 5 06:09:11 <auth.notice> ns shutdown: power-down by root:
 5 Dec 5 06:09:13 <auth.emerg> ns init: Rebooting via init mechanism
 6 Dec 5 06:09:13 <syslog.err> ns syslogd: exiting on signal 15
 7 Dec 5 06:09:13 aslearn[1662]: before pthread_join(), task name:
      Aslearn_Packet_Loop_Task
 8 Dec 5 06:09:15 aslearn[1662]: Exiting function ns_do_logging
 9 Dec 5 06:09:15 aslearn[1662]: before pthread_join(), task name:
      Aslearn_WAL_Cleanup_Task
10 Dec 5 06:09:15 aslearn[1662]: before pthread_join(), task name:
      Aslearn_HA_Primary_Task
11 Dec 5 06:09:15 aslearn[1662]: 1662 exiting gracefully
12 Dec 5 06:09:18 [1672]: nsnet_tcpipconnect: connect() failed;
       returned -1 errno=61
13 qat0: qat_dev0 stopped 12 acceleration engines
14 pci4: Resetting device
15 gat1: gat_dev1 stopped 12 acceleration engines
16 pci6: Resetting device
17 gat2: gat_dev2 stopped 12 acceleration engines
18 pci132: Resetting device
19 qat3: qat_dev3 stopped 12 acceleration engines
20 pci134: Resetting device
21 Dec 5 06:09:33 init: some processes would not die; ps axl advised
22 reboot initiated by init with parent kernel
23 Waiting (max 60 seconds) for system process `vnlru' to stop...done
24 Waiting (max 60 seconds) for system process `bufdaemon' to stop...
       done
25 Waiting (max 60 seconds) for system process `syncer' to stop...
26 Syncing disks, vnodes remaining...0 0 0 done
27 All buffers synced.
28 Uptime: 1h53m18s
29 ixl_shutdown: lldp start 0
30 ixl_shutdown: lldp start 0
31 ixl_shutdown: lldp start 0
32 ixl_shutdown: lldp start 0
33 usbus0: Controller shutdown
34 uhub0: at usbus0, port 1, addr 1 (disconnected)
35 usbus0: Controller shutdown complete
36 usbus1: Controller shutdown
37 uhub1: at usbus1, port 1, addr 1 (disconnected)
38 ugen1.2: <vendor 0x8087> at usbus1 (disconnected)
39 uhub3: at uhub1, port 1, addr 2 (disconnected)
40 ugen1.3: <FTDI> at usbus1 (disconnected)
41 uftdi0: at uhub3, port 1, addr 3 (disconnected)
42 ugen1.4: <vendor 0x1005> at usbus1 (disconnected)
43 umass0: at uhub3, port 3, addr 4 (disconnected)
```

```
44 (da0:umass-sim0:0:0:0): lost device - 0 outstanding, 0 refs
45 (da0:umass-sim0:0:0:0): removing device entry
46 usbus1: Controller shutdown complete
47 usbus2: Controller shutdown
48 uhub2: at usbus2, port 1, addr 1 (disconnected)
49 ugen2.2: <vendor 0x8087> at usbus2 (disconnected)
50 uhub4: at uhub2, port 1, addr 2 (disconnected)
51 ugen2.3: <vendor 0x0557> at usbus2 (disconnected)
52 uhub5: at uhub4, port 7, addr 3 (disconnected)
53 ugen2.4: <vendor 0x0557> at usbus2 (disconnected)
54 ukbd0: at uhub5, port 1, addr 4 (disconnected)
55 ums0: at uhub5, port 1, addr 4 (disconnected)
56 usbus2: Controller shutdown complete
57 ixl_shutdown: lldp start 0
58 ixl_shutdown: lldp start 0
59 ixl_shutdown: lldp start 0
60 ixl_shutdown: lldp start 0
61 acpi0: Powering system off
```

アプライアンスのアップグレード

アプライアンスをアップグレードするには、次の手順に従います。

- 1. ADC アプライアンスの電源を切ります。
- 2. 次の図に示すように、アプライアンス背面のスロット #1 とスロット #2 にある 2 つのソリッドステートドラ イブ (SSD)の位置を確認します。



交換用のソリッドステートドライブ (SSD) が ADC モデルに必要なものであることを確認します。変換には最低4台の SSD が必要です。NetScaler のラベルはいずれかの SSD の上部にあります。SSD には、新しいバージョンの BIOS と、必要な NetScaler SDX 管理サービスの最新ビルドがあらかじめ入力されています。この SSD はスロット1に取り付ける必要があります。

- 4. ドライブハンドルを引きながら、ドライブカバーの安全ラッチを押し下げて、SSDを取り外します。
- 5. 新しい Citrix 認定 SSD ドライブで、ドライブハンドルを完全に左に開きます。次に、可能な限り新しいドラ イブをスロット #1 に挿入します。
- 6. ドライブを装着するには、ハンドルをアプライアンスの背面と同じ位置で閉じ、ドライブがスロットにしっか りとロックされるようにします。

重要:SSD の向きは重要です。ドライブを挿入するときは、すでに挿入されている SSD と同様に、NetScaler 製品ラベルが横にあることを確認してください。

7. スロット #1 の SSD と同じ容量の 2 台目の Citrix 認定 SSD をスロット 2 に挿入します。

重要エクスプレッション値のタイプを指定するときは

古い SSD と新しい SSD の混合とマッチングはサポートされていません。最初の RAID ペア (ローカルストレージ) を構成するスロット #1 とスロット #2 の SSD は、同じサイズとタイプである必要があります。同様に、2 番目の RAID ペア (VPX ストレージ) を構成するスロット #3 とスロット #4 の SSD のサイズとタイプが同じで ある必要があります。付属の変換キットに含まれるドライブのみを使用してください。

- 1. 960 GB の空の SSD ドライブをスロット 3、4、5、6、7、8 に挿入します。
- 2. データポートと管理ポートからすべてのネットワークケーブルを取り外します。
- 3. ADC アプライアンスを起動します。手順については、アプライアンスのスイッチを参照してください。

変換処理には最大 90 分かかることがありますが、その間はアプライアンスの電源を再投入しないでください。 変換プロセス全体がコンソールに表示されず、応答しないように見えることがあります。

変換プロセスにより、BIOS が更新され、Citrix Hypervisor と管理サービスオペレーティングシステムがイ ンストールされます。

- 4. 変換処理中は、コンソールケーブルを接続したままにします。プロセスの完了を待ちます。完了すると、SDX ログインプロンプトが表示されます。
- 5. 変換プロセス中に、IP アドレスをデフォルト値の 192.168.1.3 にリセットするため、LOM ポート接続が失わ れる可能性があります。
- アプライアンスが MPX から SDX に変換されると、Citrix Hypervisor のデフォルト資格情報は root/nsroot に変更されます。このパスワードが機能しない場合は、nsroot/アプライアンスのシリアル番号を入力してみ てください。シリアル番号のバーコードは、アプライアンスの背面に表示され、show hardwareコマン ドの出力にも表示されます。

注:

The serial number of the appliance remains the same.

7. 変換が成功したことを確認するには、FVT の結果が正常であることを確認してください。次のコマンドを実行 します。tail /var/log/fvt/fvt.log 変換したアプライアンスの再構成

変換プロセスの後、アプライアンスの以前の動作設定はなくなります。したがって、デフォルトの IP アドレス 192.168.100.1/16 を使用してのみ、Web ブラウザを介してアプライアンスにアクセスできます。ネットワーク 192.168.0.0 でコンピュータを構成し、クロスオーバーイーサネットケーブルを使用してアプライアンスの管理ポ ート (0/1) に直接接続します。または、ストレートイーサネットケーブルを使用して、ネットワークハブ経由で NetScaler ADC SDX アプライアンスにアクセスします。既定の資格情報を使用してログオンし、次の操作を行いま す。

- 1. ダッシュボード タブを選択します。
- 2. システムリソース セクションに、NetScaler SDX アプライアンスの CPU コア、SSL コア、および合計メモ リの正確な数が表示されていることを確認します。
- 3. 構成>システムに移動して、管理サービスのネットワーク情報を変更します。
- 4.「ネットワーク構成の変更」ダイアログ・ボックスで、次の詳細を指定します。
 - インターフェイス:アプライアンスを管理ワークステーションまたはネットワークに接続する管理イン ターフェイス。可能な値:0/1、0/2。デフォルト:0/1。
 - ゲートウェイ: アプライアンスのサブネットからトラフィックを転送するルーターの IP アドレス。
 - 管理サービスに IPv4 アドレスを使用する場合は、「IPv4」チェックボックスを選択し、次のパラメータの詳細を入力します:
 - アプライアンス管理 IP: Web ブラウザを使用して管理サービスにアクセスするために使用される IPv4 アドレス。
 - Netmask: SDX アプライアンスが配置されているサブネットマスク。
 - DNS: プライマリ DNS サーバーの IPv4 アドレスです。IPv6 アドレスは、プライマリ DNS サーバでは サポートされていません。
 - 管理サービスに IPv6 アドレスを使用する場合は、「IPv6」チェックボックスを選択し、次のパラメータの詳細を入力します。
 - 管理サービス IP アドレス: Web ブラウザを使用して管理サービスにアクセスするために使用される IPv6 アドレス。
 - ゲートウェイ IPv6 アドレス: アプライアンスのサブネットからトラフィックを転送するルーターの IPv4 アドレス。
 - DNS サーバの IP アドレスをプライマリ DNS サーバとは別に追加の DNS サーバとして追加す るには、[追加の DNS] を選択します。IP アドレスは、IPv4 または IPv6 のいずれかになります。

Management Service	Appliance Supportability
nterface*	🗸 Configure Appliance supportability
0/1 ~	Appliance supportability IP*
Gateway*	10 . 217 . 29 . 26
10 . 217 . 29 . 1	Gateway*
✓ IPv4	10 . 217 . 29 . 1
Appliance Management IP*	Netmask*
10 . 217 . 29 . 27	255 . 255 . 255 . 0
Netmask*	DNS
255 . 255 . 255 . 0	127 . 0 . 0 . 2
DNS	
127 . 0 . 0 . 2	Auto Disable Hypervisor Access
IPv6	

- 5. [作成]または[**OK**]をクリックします。ネットワーク情報が変更されると、管理サービスへの接続は失われます。
- 6. NetScaler SDX アプライアンスの管理ポート 0/1 をスイッチに接続し、ネットワーク経由でアクセスします。 前に使用した IP アドレスを参照し、デフォルトの認証情報でログインします。
- 7. 新しいライセンスを適用します。手順については、「SDX ライセンスの概要」を参照してください。
- 8. [構成]>[システム] に移動し、[システム管理] グループで [アプライアンスの再起動] をクリックします。[は い] をクリックして確定します。これで、NetScaler SDX アプライアンスで VPX インスタンスをプロビジョ ニングする準備ができました。手順については、「NetScaler インスタンスの Provisioning」を参照してく ださい。

NetScaler MPX 24100 および 24150 アプライアンスを NetScaler ADC SDX 24100 および 24150 アプライアンスに変換する

January 25, 2024

新しいソリッドステートドライブ(SSD)を使用してソフトウェアをアップグレードすることで、NetScaler MPX アプライアンスを NetScaler ADC SDX アプライアンスに変換できます。NetScaler は、NetScaler MPX アプライ アンスを NetScaler SDX アプライアンスに移行するためのフィールド変換キットを提供しています。

変換には、最低4つのSSDが必要です。

注:変換プロセスを開始する前に、

NetScaler ADC アプライアンスのライトアウト管理(LOM)ポートを構成することをお勧めします。NetScaler アプライアンスの LOM ポートについて詳しくは、「NetScaler アプライアンスのライトアウト管理ポート」を 参照してください。

NetScaler MPX アプライアンスを NetScaler ADC SDX アプライアンスに変換するには、コンピュータまたは端末 に接続されたコンソールケーブルを介してアプライアンスにアクセスする必要があります。コンソールケーブルを接 続する前に、次の構成をサポートするようにコンピュータまたはターミナルを構成してください。

- VT100 端末エミュレーション
- ・ 9600 ボー
- 8データビット
- 1ストップビット
- パリティとフロー制御を NONE に設定

コンソールケーブルの一方の端をアプライアンスの RS232 シリアル・ポートに接続し、もう一方の端をコンピュー タまたは端末に接続します。

注:RJ-45

コンバータ付きのケーブルを使用するには、オプションのコンバータをコンソールポートに挿入し、ケーブル を接続します。

変換処理中に LOM 接続が失われるため、VGA モニターをアプライアンスに接続して変換プロセスを監視することを お勧めします。

ケーブルを接続した状態で、MPX アプライアンスのコンポーネントが正しく機能していることを確認します。これ で、変換を開始する準備ができました。変換プロセスでは、BIOS が変更され、Citrix Hypervisor と管理サービス イメージがインストールされ、NetScaler VPX イメージがソリッドステートドライブにコピーされます。

また、変換プロセスでは、ローカルストレージ(SSD スロット 1 および SSD スロット 2)および NetScaler ADC VPX ストレージ(SSD スロット 3 および SSD スロット番号 4)用の冗長アレイ(RAID)コントローラもセットアップされます。

変換プロセスの後、アプライアンスの設定を変更し、新しいライセンスを適用します。その後、管理サービスを通じ て、NetScaler SDX アプライアンスの VPX インスタンスをプロビジョニングできます。

MPX アプライアンスのコンポーネントが適切に動作していることを確認するには

- 1. コンソールポートにアクセスし、管理者の資格情報を入力します。
- アプライアンスのコマンドラインインターフェイスから次のコマンドを実行してシリアル番号を表示します。
 シリアル番号は、シトリックスのテクニカルサポートに連絡する場合に役立ちます。
 show hardware

注

- 3. 次のコマンドを実行して、アクティブな 10G インターフェイスのステータスを表示します。show interface
- 4. show interface コマンドの出力で、すべてのインターフェイスが有効になっており、各インターフェイスの ステータスが UP/UP と表示されていることを確認します。

すべてのポートに SFP+ トランシーバがない場合は、インターフェイスを段階的に確認します。最初の インターフェイスセットを確認したら、SFP+ トランシーバを取り外し、次のポートセットに接続しま す。

5. UP/UP 状態でない各インターフェイスに対して、次のコマンドを実行します。

アプライアンスをアップグレードするには

- 1. NetScaler アプライアンスの電源を切ります。
- 2. 次の図に示すように、アプライアンスの背面にある 2 つのソリッドステートドライブ (SSD) をスロット #1 と スロット #2 に配置します。



- 交換用のソリッドステートドライブ (SSD) が NetScaler モデルに必要なものであることを確認します。変換には、最低 4 つの SSD が必要です。NetScaler ラベルは、いずれかのソリッドステートドライブの上部にあります。このドライブには、新しいバージョンの BIOS と必要な NetScaler SDX 管理サービスの最新ビルドがあらかじめ入力されています。この SSD はスロット1に取り付ける必要があります。
- 4. ドライブハンドルを引きながら、ドライブカバーの安全ラッチを押し下げて、SSD を取り外します。
- 5. 新しい NetScaler 認定 SSD ドライブでは、ドライブハンドルを完全に左に開き、新しいドライブをスロット #1 にできるだけ挿入します。
- 6. ドライブを装着するには、ハンドルをアプライアンスの背面と同じ位置で閉じ、ドライブがスロットにしっか りとロックされるようにします。

重要

SSD の向きは重要です。ドライブを挿入するときは、NetScaler 製品ラベルが上部にあることを確認してください。

2 つ目の NetScaler 認定 SSD をスロット #2 のスロット #1 にある SSD の容量と同じサイズで挿入します。
 スロット #3 と #4 には、空の NetScaler 認定 SSD をさらに挿入してください。

重要

古い SSD と新しい SSD の混合とマッチングはサポートされていません。最初の RAID ペア (ローカル ストレージ) を構成するスロット #1 とスロット #2 の SSD は、同じサイズとタイプである必要がありま す。同様に、2 番目の RAID ペア (VPX ストレージ) を構成するスロット #3 とスロット #4 の SSD のサ イズとタイプが同じである必要があります。付属の変換キットに含まれるドライブのみを使用してくだ さい。

- 8. データポートと管理ポートからすべてのネットワークケーブルを取り外します。
- NetScaler ADC アプライアンスを起動します。手順については、「ハードウェアのインストール」の「アプラ イアンスの切り替え」を参照してください。変換プロセスは約 30 分間実行できますが、その間、アプライア ンスの電源を入れ直してはいけません。変換プロセス全体がコンソールに表示されず、応答しないように見え ることがあります。変換プロセスによって BIOS が更新され、Citrix Hypervisor と管理サービスがインスト ールされます。また、インスタンスプロビジョニングのために NetScaler ADC VPX イメージを SSD にコピ ーし、RAID1 ペアを形成します。

アプライアンスのシリアル番号は変わりません。

- 10. 変換処理中は、コンソールケーブルを接続したままにします。プロセスの完了を許可します。この時点で、 Netscaler-sdx ログイン: プロンプトが表示されます。
- 11. 変換プロセス中に、IP アドレスをデフォルト値の 192.168.1.3 にリセットするため、LOM ポート接続が失わ れる可能性があります。変換ステータス出力は、VGA モニタで確認できます。

NetScaler MPX 14020/14030/14040/14060/14080/14100 アプライアンスを NetScaler ADC SDX 14020/14030/14040/ 14060/14080/14100 アプライアン

スに変換します

注

January 25, 2024

新しいソリッドステートドライブ(SSD)を使用してソフトウェアをアップグレードすることで、NetScaler MPX アプライアンスを NetScaler ADC SDX アプライアンスに変換できます。NetScaler は、NetScaler MPX アプライ アンスを SDX アプライアンスに移行するためのフィールド変換キットを提供しています。

変換には、最低4つのSSDが必要です。

注:変換プロセスを開始する前に、NetScaler アプライアンスのライトアウト管理(LOM)ポートを構成することを お勧めします。NetScaler アプライアンスの LOM ポートについて詳しくは、「NetScaler SDX アプライアンスのラ イトアウト管理ポート」を参照してください。

NetScaler MPX アプライアンスを SDX アプライアンスに変換するには、コンピュータまたは端末に接続されたコン ソールケーブルを介してアプライアンスにアクセスする必要があります。コンソールケーブルを接続する前に、次の 構成をサポートするようにコンピュータまたはターミナルを構成してください。

- VT100 端末エミュレーション
- ・ 9600 ボー
- 8データビット
- 1ストップビット
- パリティとフロー制御を NONE に設定

コンソールケーブルの一方の端をアプライアンスの RS232 シリアル・ポートに接続し、もう一方の端をコンピュー タまたは端末に接続します。

注: RJ-45 コンバータ付きのケーブルを使用するには、オプションのコンバータをコンソールポートに挿入し、ケー ブルを接続します。

変換処理中に LOM 接続が失われる可能性があるため、VGA モニターをアプライアンスに接続して変換プロセスを監 視することをお勧めします。

ケーブルを接続した状態で、MPX アプライアンスのコンポーネントが正しく機能していることを確認します。これ で、変換を開始する準備ができました。変換プロセスにより、BIOS が変更され、Citrix Hypervisor と管理サービ スイメージがインストールされ、VPX イメージがソリッドステートドライブにコピーされます。

変換プロセスでは、ローカルストレージ用の独立ディスク (RAID) コントローラの冗長アレイ (RAID) が設定されま す。

- (SSD スロット 1 および SSD スロット 2)
- NetScaler VPX ストレージ(SSD スロット番号 3 および SSD スロット番号 4)

変換プロセスの後、アプライアンスの構成を変更し、新しいライセンスを適用します。その後、管理サービスを通じ て、現在の SDX アプライアンスの VPX インスタンスをプロビジョニングできます。

MPX アプライアンスのコンポーネントが適切に動作していることを確認するには

1. コンソールポートにアクセスし、管理者の資格情報を入力します。

 アプライアンスのコマンドラインインターフェイスから次のコマンドを実行して、シリアル番号を表示します。 show hardware

シリアル番号は、シトリックスのテクニカルサポートに連絡する場合に役立ちます。

例

1	show ha	rdware
2		Platform: NSMPX-14000 12*CPU+16*IX+2*E1K+2*CVM N3
		250101
3		Manufactured on: 10/2/2015
4		CPU: 2600MHZ
5		Host Id: 234913926
6		Serial no: JSW4UCKKM5
7		Encoded serial no: JSW4UCKKM5
8	Done	

- 3. 次のコマンドを実行して、アクティブな 10G インターフェイスのステータスを表示します。show interface
- 4. show **interface**コマンドの出力で、すべてのインターフェイスが有効になっており、各インターフェ イスのステータスが UP/UP と表示されていることを確認します。

注: すべてのポートに SFP+ トランシーバがない場合は、インターフェイスを段階的に確認します。最初のイ ンターフェイスセットを確認したら、SFP+ トランシーバを取り外し、次のポートセットに接続します。

5. UP/UP ステートでない各インターフェイスに対して、次のコマンドを実行します。

enable **interface** 10/x 。x は新しいインターフェイス番号です。

- 6. 次のコマンドを実行して、電源装置のステータスが正常であることを確認します。stat system detail
- 7. 次のコマンドを実行して、システム設定データと統計情報の tar を生成します。show techsupport

注: コマンドの出力は/var/tmp/support/collector_<IP_address>_P_<date>.tar .gzファイルにあります。後で参照するために、このファイルを別のコンピュータにコピーします。コマンド の出力は、シトリックスのテクニカルサポートに問い合わせる場合に役立つことがあります。

- 8. コマンドラインインターフェイスで、シェルプロンプトに切り替えます。種類: shell
- 次のコマンドを実行して、アプライアンスに応じて利用可能な Cavium カードの数を確認します。root@ns # grep "cavium"/var/nslog/dmesg.boot

例

1 r	oot@ns#	grep	"cavium"	/var/nslog/dmesg.boot
-----	---------	------	----------	-----------------------

- 2 Cavium cavium_probe : found card 0x177d,device=0x11
- 3 cavium0 mem 0xdd600000-0xdd6fffff irq 32 at device 0.0 on pci3
- 4 Cavium cavium_probe : found card 0x177d,device=0x11
- 5 cavium1 mem 0xfaa00000-0xfaafffff irq 64 at device 0.0 on pci136

10. 次のコマンドを実行して、アプライアンスに応じて、共有メモリ用に予約されている RAM メモリを確認しま す。root@ns# grep "memory"/var/nslog/dmesg.boot

例

```
1 root@ns# grep "memory" /var/nslog/dmesg.boot
2 real memory = 70866960384 (67584 MB)
3 avail memory = 66267971584 (63198 MB)
```

 次のコマンドを実行して、アプライアンスに応じて CPU コアの数を確認します。root@ns# grep " cpu"/var/nslog/dmesg.boot

例

1	root@ns# grep "cpu" /var/nslog/dmesg.boot
2	cpu0 (BSP): APIC ID: 0
3	cpul (AP): APIC ID: 2
4	cpu2 (AP): APIC ID: 4
5	cpu3 (AP): APIC ID: 6
6	cpu4 (AP): APIC ID: 8
7	cpu5 (AP): APIC ID: 10
8	cpu6 (AP): APIC ID: 32
9	cpu7 (AP): APIC ID: 34
10	cpu8 (AP): APIC ID: 36
11	cpu9 (AP): APIC ID: 38
12	cpul0 (AP): APIC ID: 40
13	cpull (AP): APIC ID: 42
14	cpu0: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>
15	acpi_throttle0: <acpi cpu="" throttling=""> on cpu0</acpi>
16	cpu1: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>
17	acpi_throttle1: <acpi cpu="" throttling=""> on cpu1</acpi>
18	cpu2: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>
19	acpi_throttle2: <acpi cpu="" throttling=""> on cpu2</acpi>
20	cpu3: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>
21	acpi_throttle3: <acpi cpu="" throttling=""> on cpu3</acpi>
22	cpu4: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>
23	acpi_throttle4: <acpi cpu="" throttling=""> on cpu4</acpi>
24	cpu5: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>
25	acpi_throttle5: <acpi cpu="" throttling=""> on cpu5</acpi>
26	cpu6: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>
27	acpi_throttle6: <acpi cpu="" throttling=""> on cpu6</acpi>
28	cpu/: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>
29	acpi_throttler: &ttACPI CPU inrottling> on cpur
30	cpu8: &(l;ACPI CPU≷ on acpi0
31 22	acpi_throttles: all;ACPI CPU inrottlingagt; on cpus
3Z 22	cpu9: &(c;ACPI CPU&gc On acpi0
27	cpula: Blt:ACPI CPUBgt: on acpia
25 25	cpuid. Act, ACPI Crowge, on acpid
36	$cpull \cdot klt \cdot ACPT CPUkgt \cdot on acnie$
37	achi throttlell. <.ACPT CPU Throttling>. on coull
38	rootAns#
50	loo censii

- 12. 次のコマンドを実行して /var ドライブが /dev/ad8s1e としてマウントされていることを確認します:root @ns # df-h
- 13. ns_hw_err.bash潜在的なハードウェアエラーをチェックするスクリプトを実行します。root@ns# ns_hw_err.bash

例

```
1 root@ns# ns_hw_err.bash
2 NetScaler NS10.1: Build 133.11.nc, Date: Sep 21 2015, 17:59:51
3 platform: serial JSW4UCKKM5
4 platform: sysid 250101 - NSMPX-14000 12\*CPU+16\*IX+2\*E1K+2\*CVM
      N3
5 HDD MODEL: ar0: 227328MB < Intel MatrixRAID RAID1&gt; status:
      READY
6 Generating the list of newnslog files to be processed...
7 Generating the events from newnslog files...
8 Checking for HDD errors...
9 Checking for HDD SMART errors...
10 Checking for Flash errors...
11 /var/nslog/dmesg.prev:* DEVELOPER mode - run NetScaler manually!
13 FOUND
               1 Flash errors: DEVELOPER mode - run NetScaler
      manually
15 Checking for SSL errors...
16 Checking for BIOS errors...
17 Checking for SMB errors...
18 Checking for MotherBoard errors...
19 Checking for CMOS errors...
          License year: 2015: OK
21 License server failed at startup. Check /var/log/license.log
22 Vendor daemon failed at startup. Check /var/log/license.log
23 Checking for SFP/NIC errors...
24 Checking for Firmware errors...
25 Checking for License errors...
26 Checking for Undetected CPUs...
27 Checking for DIMM flaps...
28 Checking for LOM errors...
29 Checking the Power Supply Errors...
30 root@ns#
```

14. 重要: 管理ポートを含む LOM ポートを除くすべてのポートをネットワークから物理的に切断します。

15. シェルプロンプトで、NetScaler ADC コマンドラインに切り替えます。種類: exit

16. 次のコマンドを実行して、アプライアンスをシャットダウンします。shutdown -p now

アプライアンスをアップグレードするには

1. NetScaler アプライアンスの電源を切ります。

2. 次の図に示すように、アプライアンスの背面にある 2 つのソリッドステートドライブ (SSD) をスロット #1 と スロット #2 に配置します。



- 交換用の SSD が、NetScaler ADC モデルに必要な SSD であることを確認します。変換には、最低 4 つの SSD が必要です。NetScaler のラベルはいずれかの SSD の上部にあります。SSD には、新しいバージョン の BIOS と、最新のビルドの管理サービスがあらかじめ入力されています。この SSD はスロット1に取り付 ける必要があります。
- 4. ドライブハンドルを引きながら、ドライブカバーの安全ラッチを押し下げて、SSDを取り外します。
- 5. 新しい NetScaler 認定 SSD ドライブで、ドライブハンドルを完全に左に開きます。次に、可能な限り新しい ドライブをスロット #1 に挿入します。
- 6. ドライブを装着するには、ハンドルをアプライアンスの背面と同じ位置で閉じ、ドライブがスロットにしっか りとロックされるようにします。

重要: SSD の向きは重要です。ドライブを挿入するときは、NetScaler 製品ラベルが上部にあることを確認し てください。

7. 2 つ目の NetScaler 認定 SSD をスロット #2 のスロット #1 にある SSD の容量と同じサイズで挿入します。 その他の空の NetScaler 認定 SSD をスロット #3 と #4 に挿入します。

注: アプライアンスのライセンスが 14040 の場合は、他の空の NetScaler 認定 SSD をスロット #3、#4、 #5、#6 に挿入してください。

アプライアンスのライセンスが 14060/14080/14100 の場合は、スロット #3、#4、#5、#6、#7、#8 に他の 空の NetScaler 認定 SSD を挿入してください。

Important: Mixing and matching of old and new SSDs is not supported. SSDs in slot #1 and slot # 2, which constitute the first RAID pair (local storage), must be of the same size and type. Similarly, SSDs in slot # 3 and slot # 4, which constitute the second RAID pair (VPX storage), must be of the same size and type. Only use drives that are part of the provided conversion kit.

8. 将来の処理のために、古い SSD を保存してください。

- 9. データポートと管理ポートからすべてのネットワークケーブルを取り外します。
- NetScaler ADC アプライアンスを起動します。手順については、「ハードウェアのインストール」の「アプラ イアンスの電源を入れる」を参照してください。
 変換プロセスは約 30 分間実行できますが、その間、アプライアンスの電源を入れ直してはいけません。変換 プロセス全体がコンソールに表示されず、応答しないように見えることがあります。
 変換プロセスによって BIOS が更新され、Citrix Hypervisor と管理サービスがインストールされます。また、 VPX イメージを SSD にコピーしてインスタンスのプロビジョニングを行い、RAID1 ペアを形成します。
 注: アプライアンスのシリアル番号は変わりません。
- 変換処理中は、コンソールケーブルを接続したままにします。プロセスの完了を許可します。この時点で、 Netscaler-sdx ログイン: プロンプトが表示されます。
- 12. 変換プロセス中に、IP アドレスをデフォルト値の 192.168.1.3 にリセットするため、LOM ポート接続が失わ れる可能性があります。変換ステータス出力は、VGA モニタで確認できます。
- 13. 変換が成功したことを確認するには、FVT の結果が正常であることを確認してください。次のコマンドを実行 します。tail /var/log/fvt/fvt.log

例

1	[root@netscaler-sdx ~]# tail /var/log/fvt/fvt.log
2	Wed, 28 Oct 2015 04:40:47 /opt/xensource/packages/files/fvt/workers/
	<pre>check_vf_countpf_device="0000:89:00.1"vf_count=&</pre>
	quot;40"
3	Wed, 28 Oct 2015 04:40:47 => PASS
4	Wed, 28 Oct 2015 04:40:47 /opt/xensource/packages/files/fvt/workers/
	<pre>check_vf_countpf_device="0000:03:00.0"vf_count=&</pre>
	quot;8"
5	Wed, 28 Oct 2015 04:40:47 => PASS
6	Wed, 28 Oct 2015 04:40:47 /opt/xensource/packages/files/fvt/workers/
	<pre>check_vf_countpf_device="0000:88:00.0"vf_count=&</pre>
	quot;8"
7	Wed, 28 Oct 2015 04:40:47 => PASS
8	Wed, 28 Oct 2015 04:40:47 FVT RESULT: SUCCESS!
9	[root@netscaler-sdx ~]#

変換したアプライアンスを再構成するには

変換プロセスの後、アプライアンスの以前の動作設定はなくなります。したがって、デフォルトの IP アドレス 192.168.100.1/16 を使用してのみ、Web ブラウザを介してアプライアンスにアクセスできます。ネットワーク 192.168.0.0 でコンピュータを構成し、クロスオーバーイーサネットケーブルを使用してアプライアンスの管理ポー ト (0/1) に直接接続します。または、ストレートイーサネットケーブルを使用して、ネットワークハブを介して SDX アプライアンスにアクセスします。既定の資格情報を使用してログオンし、次の操作を行います。

1. [構成] タブを選択します。

- 2. [System Resource] セクションに、SDX アプライアンスの CPU コア、SSL コア、および合計メモリの正確 な数が表示されていることを確認します。
- 3.「システム」ノードを選択し、「アプライアンスの設定」で「ネットワーク構成」をクリックして、管理サービスの IP アドレスを変更します。
- 4. [ネットワーク構成の構成]ダイアログボックスで、次の詳細を指定します。
 - Interface*: クライアントが管理サービスに接続するときに使用するインターフェイス。可能な値:0/1、 0/2。デフォルト:0/1。
 - Citrix Hypervisor の IP アドレス *-Citrix Hypervisor の IP アドレス。
 - 管理サービス IP アドレス*: 管理サービスの IP アドレス。
 - Netmask*: SDX アプライアンスが配置されているサブネットのサブネットマスク。
 - Gateway*: ネットワークのデフォルトゲートウェイ。
 - DNS サーバ: DNS サーバの IP アドレス。

* 必須パラメータ

- 5. [OK] をクリックします。ネットワーク情報が変更されると、管理サービスへの接続は失われます。
- 6. SDX アプライアンスの管理ポート 0/1 をスイッチに接続し、ネットワーク経由でアクセスします。先に使用 した IP アドレスを参照し、デフォルトの資格情報でログオンします。
- 7. 新しいライセンスを適用します。手順については、「SDX ライセンスの概要」を参照してください。
- 8. [構成]>[システム] に移動し、[システム管理] グループで [アプライアンスの再起動] をクリックします。[は い] をクリックして確定します。これで、NetScaler SDX アプライアンスで VPX インスタンスをプロビジョ ニングする準備ができました。手順については、「NetScaler インスタンスの Provisioning」を参照してく ださい。

NetScaler MPX 14020 40G、MPX 14040 40G、MPX 14060 40G、MPX 14080 40G アプライアンスを NetScaler ADC SDX 14020 40G、SDX 14040 40G、SDX 14040 40G、SDX 14060 40G、SDX 14060 40G、SDX 14080 40G アプライアン スに変換します

January 25, 2024

新しいソリッドステートドライブ(SSD)を使用してソフトウェアをアップグレードすることで、NetScaler MPX アプライアンスを NetScaler ADC SDX アプライアンスに変換できます。NetScaler は、NetScaler MPX アプライ アンスを SDX アプライアンスに移行するためのフィールド変換キットを提供しています。

変換には、最低 4 つの SSD が必要です。

注:変換プロセスを開始する前に、アプライアンスのライトアウト管理(LOM)ポートを構成することをお勧めしま す。NetScaler アプライアンスの LOM ポートについて詳しくは、「NetScaler SDX アプライアンスのライトアウト 管理ポート」を参照してください。

MPX アプライアンスを SDX アプライアンスに変換するには、コンピュータまたはターミナルに接続されたコンソー ルケーブルを使用してアプライアンスにアクセスする必要があります。コンソールケーブルを接続する前に、次の構 成をサポートするようにコンピュータまたはターミナルを構成してください。

- VT100 端末エミュレーション
- ・ 9600 ボー
- 8データビット
- 1ストップビット
- パリティとフロー制御を NONE に設定

コンソールケーブルの一方の端をアプライアンスの RS232 シリアル・ポートに接続し、もう一方の端をコンピュー タまたは端末に接続します。

注: RJ-45 コンバータ付きのケーブルを使用するには、オプションのコンバータをコンソールポートに挿入し、ケー ブルを接続します。

変換処理中に LOM 接続が失われるため、VGA モニターをアプライアンスに接続して変換プロセスを監視することを お勧めします。

ケーブルを接続した状態で、MPX アプライアンスのコンポーネントが正しく機能していることを確認します。これ で、変換を開始する準備ができました。変換プロセスにより、BIOS が変更され、Citrix Hypervisor とサービス仮 想マシンイメージがインストールされ、NetScaler VPX イメージがソリッドステートドライブにコピーされます。

変換プロセスでは、ローカルストレージ(SSD スロット 1 および SSD スロット 2)と NetScaler VPX ストレージ (SSD スロット番号 3 および SSD スロット 4)用の独立ディスク(RAID)コントローラの冗長アレイもセットアップ されます。

変換プロセスの後、アプライアンスの設定を変更し、新しいライセンスを適用します。その後、管理サービスを通じ て、NetScaler SDX アプライアンスの VPX インスタンスをプロビジョニングできます。

MPX アプライアンスのコンポーネントが適切に動作していることを確認する

- 1. コンソールポートにアクセスし、管理者の資格情報を入力します。
- アプライアンスのコマンドラインインターフェイスから次のコマンドを実行して、シリアル番号を表示します。 show hardware

例

1	show hardware
2	Platform: NSMPX-14000-40G 12*CPU+16*F1X+4*F4X+2*E1K+2*CVM
	N3 250140
3	Manufactured on: 3/21/2016

4 CPU: 2600MHZ
5 Host Id: 234913926
6 Serial no: KZCHGCN810
7 Encoded serial no: KZCHGCN810
8 Done

シリアル番号は、シトリックスのテクニカルサポートに問い合わせる際に役立つことがあります。

3. 次のコマンドを実行して、アクティブなインターフェイスの状態を表示します:

show interface

例

1	show	interface
2	1)	Interface 0/1 (Gig Ethernet 10/100/1000 MBits) #10
3		flags=0xc020 <enabled, 802.1q="" autoneg,="" hamon,="" up,=""></enabled,>
4		MTU=1500, native vlan=1, MAC=0c:c4:7a:41:ea:94, uptime 43 h59m55s
5		Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
6		throughput 0
7		Actual: media UTP, speed 1000, duplex FULL, fctl OFF, throughput 1000
8		LLDP Mode: NONE
9		<pre>RX: Pkts(44337150) Bytes(2767558041) Errs(0) Drops(41260552)</pre>
10		TX: Pkts(128116) Bytes(9004699) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
11		NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
12		Bandwidth thresholds are not set.
13	2)	Interface 0/2 (Gig Ethernet 10/100/1000 MBits) #11
14		flags=0x4000 <enabled, 802.1q><="" autoneg,="" down,="" hamon,="" th=""></enabled,>
15		MIU=1500, native vlan=1, MAC=0c:c4:7a:41:ea:95, downtime 44 h00m08s
16		Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
17		throughput 0
18		LLDP Mode: NONE
19		RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
20		TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
21		NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fetts(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
22	2)	Bandwidth thresholds are not set.
23	3)	Interface 10/1 (106 Ethernet) #17
24		Tlags=0x4000 <enabled, 802.1q><="" autoneg,="" down,="" hamon,="" th=""></enabled,>
25		; MTU=1500, native vlan=1, MAC=68:05:ca:30:e1:40, downtime 44 h00m08s
26		Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF.
27		throughput 0
28		LLDP Mode: NONE
29		RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
30		TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
31		NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
32		Bandwidth thresholds are not set.
33	4)	Interface 10/2 (10G Ethernet) #18

34		flags=0x4000 <enabled, 802.1q><="" autoneg,="" down,="" hamon,="" th=""></enabled,>
35		, MTU=1500, native vlan=1, MAC=68:05:ca:30:e1:41, downtime 44 h00m08s
36		Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
37		throughput 0
38		RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
40		TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
41		NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
42	- >	Bandwidth thresholds are not set.
43	5)	Interface 10/3 (10G Ethernet) #19 flags=0x4000 <:ENABLED DOWN down autonog HAMON 802 lg>
44		:
45		MTU=1500, native vlan=1, MAC=68:05:ca:30:e1:42, downtime 44
46		Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF.
47		throughput 0
48		LLDP Mode: NONE
49		RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
50		IX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0) NIC: TpDisc(0) OutDisc(0) Ectls(0) Stalls(0) Happs(0) Muted(0)
52		Bandwidth thresholds are not set.
53	6)	Interface 10/4 (10G Ethernet) #20
54		flags=0x4000 <enabled, 802.1q><="" autoneg,="" down,="" hamon,="" td=""></enabled,>
55		; MTU=1500, native vlan=1, MAC=68:05:ca:30:e1:43, downtime 44 h00m08s
56 57		Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
58		LLDP Mode: NONE
59		RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
60		TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
61 62		NIC: INDISC(0) OUTDISC(0) FCTIS(0) STALLS(0) Hangs(0) MUTED(0) Bandwidth thresholds are not set
63	7)	Interface 10/5 (10G Ethernet) #13
64		flags=0x4000 <enabled, 802.1q><="" autoneg,="" down,="" hamon,="" td=""></enabled,>
65		MTU=1500, native vlan=1, MAC=68:05:ca:2e:6b:a0, downtime 44 h00m08s
66		Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
67		throughput 0
68		LLUF MODE: NUNE RX: Pkts(0) Rytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
70		TX: $Pkts(0)$ $Bytes(0)$ $Errs(0)$ $Drops(0)$ $Stalls(0)$
71		NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
72		Bandwidth thresholds are not set.
73	8)	Interface 10/6 (10G Ethernet) #14
74 75		MTU=1500, native vlan=1, MAC=68:05:ca:2e:6b:a1, downtime 44
76		Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF.
77		throughput 0

```
LLDP Mode: NONE
78
79
           RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
           TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
80
            NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
81
82
           Bandwidth thresholds are not set.
            Interface 10/7 (10G Ethernet) #15
   9)
            flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, 802.1q&gt
84
               ;
           MTU=1500, native vlan=1, MAC=68:05:ca:2e:6b:a2, downtime 44
              h00m08s
            Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
87
                     throughput 0
88
           LLDP Mode: NONE
           RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
90
           TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
91
           NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
           Bandwidth thresholds are not set.
92
93
   10)
            Interface 10/8 (10G Ethernet) #16
94
            flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, 802.1q&gt
           MTU=1500, native vlan=1, MAC=68:05:ca:2e:6b:a3, downtime 44
              h00m08s
96
           Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
97
                     throughput 0
            LLDP Mode: NONE
99
            RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
            TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
          NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
102
            Bandwidth thresholds are not set.
103
   11)
            Interface 10/9 (10G Ethernet) #0
           flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, 802.1q&gt;
104
           MTU=1500, native vlan=1, MAC=68:05:ca:30:e1:a0, downtime 44
105
              h00m08s
106
           Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
107
                    throughput 0
108
           LLDP Mode: NONE
109
            RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
110
           TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
           NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
111
           Bandwidth thresholds are not set.
112
113 12)
            Interface 10/10 (10G Ethernet) #1
114
            flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, 802.1q&gt
            MTU=1500, native vlan=1, MAC=68:05:ca:30:e1:a1, downtime 44
115
               h00m08s
116
            Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
117
                     throughput 0
            LLDP Mode: NONE
118
            RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
119
            TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
120
121
            NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
122
            Bandwidth thresholds are not set.
            Interface 10/11 (10G Ethernet) #2
123 13)
```

124		flags=0x4000 <enabled, 802.1q><="" autoneg,="" down,="" hamon,="" th=""></enabled,>
125		, MTU=1500, native vlan=1, MAC=68:05:ca:30:e1:a2, downtime 44 h00m08s
126		Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
127		throughput 0
128		LLDP Mode: NONE
129		RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
130		TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
131		NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
132		Bandwidth thresholds are not set.
133	14)	Interface 10/12 (10G Ethernet) #3
134		flags=0x4000 <enabled, 802.1q><br="" autoneg,="" down,="" hamon,="">:</enabled,>
135		MTU=1500, native vlan=1, MAC=68:05:ca:30:e1:a3, downtime 44 h00m08s
136		Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
137		throughput O
138		LLDP Mode: NONE
139		
140		RX: $Pkts(0)$ Bytes(0) $Errs(0)$ $Drops(0)$ $Stalls(0)$
141		IX: PKts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0) NIC: ImDiae(0) OutDiae(0) Fatle(0) Stalle(0) Hange(0) Mutad(0)
1/12		Randwidth thresholds are not set
143		bandwidth threshotds are not set.
145	15)	Interface 10/13 (10G Ethernet) #4
146	10)	flags=0x4000 <:ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, 802.1g&
		gt:
147		MTU=1500, native vlan=1, MAC=68:05:ca:30:e2:70, downtime 44 h00m08s
148		Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
149		throughput 0
150		LLDP Mode: NONE
151		<pre>RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)</pre>
152		TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
153		NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
154	10)	Banawlath thresholds are not set.
155	10)	flags=0x4000 <+ENARLED DOWN down autonog HAMON 202 1~2
120		at.
157		MTU=1500, native vlan=1, MAC=68:05:ca:30:e2:71, downtime 44 h00m15s
158		Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF.
159		throughput 0
160		LLDP Mode: NONE
161		<pre>RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)</pre>
162		<pre>TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)</pre>
163		NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
164		Bandwidth thresholds are not set.
165	17)	Interface 10/15 (10G Ethernet) #6
166		flags=0x4000 <enabled, 802.1q&="" autoneg,="" down,="" gt;<="" hamon,="" td=""></enabled,>
167		MIU=1500, native vlan=1, MAC=68:05:ca:30:e2:72, downtime 44

		h00m15s
168		Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF.
169		throughout 0
170		
171		PV: Pkts(0) = Pvtos(0) = Frrs(0) = Drops(0) = Stalls(0)
172		KX. $PKLS(0)$ $Bytes(0)$ $Errs(0)$ $Drops(0)$ $Statts(0)$
172		IX: PKts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Statts(0)
1/3		NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fetts(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
174		Bandwidth thresholds are not set.
175	18)	Interface 10/16 (10G Ethernet) #7
176		<pre>flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, 802.1q&</pre>
177		MTU=1500, native vlan=1, MAC=68:05:ca:30:e2:73, downtime 44
170		Poguested: modia AUTO speed AUTO dupley AUTO fet] OFF
170		Requested: media Auto, speed Auto, duptex Auto, foct OFF,
100		LLDD Made NONE
180		LLDP MODE: NONE
181		
182		RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
183		TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
184		NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
185		Bandwidth thresholds are not set.
186	19)	Interface 40/1 (40G Ethernet) #9
187		<pre>flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, 802.1q&</pre>
188		MTU=1500, native vlan=1, MAC=3c:fd:fe:9c:f9:98, downtime 44 h00m15s
189		Requested: media AUTO. speed AUTO. duplex AUTO. fctl OFF.
190		throughout 0
191		LLDP Mode: NONE
192		$PX \cdot Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)$
193		TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Statts(0)
194		NIC: $InDisc(0)$ $OutDisc(0)$ $Ectls(0)$ $Stalls(0)$ Hangs(0) Muted(0)
105		Bandwidth thresholds are not set
106	20)	$T_{\rm ptorface} = 40/2$ (406 Ethornot) #21
107	20)	flags=0x4000 blt;ENARLED DOWN down autonog HAMON 802 lab
197		at.
198		MTU=1500, native vlan=1, MAC=3c:fd:fe:9c:fa:68, downtime 44 h00m15s
199		Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF.
200		throughput 0
201		LIDP Mode: NONE
202		$RX \cdot Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)$
203		TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
204		NIC: $InDisc(0) OutDisc(0) Ectls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)$
205		Bandwidth thresholds are not set
205	21)	Interface $40/3$ (40G Ethernet) #12
200	21)	flags=0x4000 <enabled, 802.1q&<="" autoneg,="" down,="" hamon,="" td=""></enabled,>
208		gt; MTU=1500, native vlan=1, MAC=3c:fd:fe:9c:f9:f8, downtime 44 h00m15s
209		Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO. fctl OFF.
210		throughput 0
211		LLDP Mode: NONE

212		RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)	
213		TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)	
214		NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)	
215		Bandwidth thresholds are not set.	
216	22)	Interface 40/4 (40G Ethernet) #8	
217		<pre>flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, 802.1q& gt;</pre>	
218		<pre>MTU=1500, native vlan=1, MAC=3c:fd:fe:9c:f9:e0, downtime 44 h00m15s</pre>	
219		Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,	
220		throughput O	
221		LLDP Mode: NONE	
222		RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)	
223		TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)	
224		NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)	
225		Bandwidth thresholds are not set.	
226	23)	<pre>Interface L0/1 (Netscaler Loopback interface) #22</pre>	
227		flags=0x20008020 <enabled, up="" up,=""></enabled,>	
228		MTU=1500, native vlan=1, MAC=0c:c4:7a:41:ea:94, uptime 44 h00m15s	
229		LLDP Mode: NONE	
230		<pre>RX: Pkts(103847611) Bytes(14441166499) Errs(0) Drops(0) Stalls</pre>	
231		<pre>TX: Pkts(206723664) Bytes(20488047637) Errs(0) Drops(0) Stalls</pre>	
232		Bandwidth thresholds are not set.	
233	Done		

4. show interface コマンドの出力で、すべてのインターフェイスが有効になっており、各インターフェイスのステ ータスが UP/UP と表示されていることを確認します。

注:

- ケーブルがインターフェイスに接続されている場合にのみ、インターフェイスのステータスが UP/UP として 表示されます。
- すべてのポートに SFP+ トランシーバがない場合は、インターフェイスを段階的に確認します。最初のインタ ーフェイスセットを確認したら、SFP+ トランシーバを取り外し、次のポートセットに接続します。

5. UP/UP 状態でない各インターフェイスに対して、次のコマンドを実行します。

```
1 enable interface 10/x
2 enable interface 40/x
```

ここで、x は新しいインターフェイス番号です。

例:

```
    enable interface 10/1
    Done
    > enable interface 40/1
    Done
```

6. 次のコマンドを実行して、電源装置のステータスが正常であることを確認します。stat system –detail

例

1	stat system -detail	
2	NetScaler Executive View	
3	System Information:	
4	Up since Mon Mar 21 13:53:22	2 2016
5	Memory usage (MB)	1177
6	InUse Memory (%)	5.37
7	Number of CPUs	7
8	System Health Statistics (Standard)):
9	CPU 0 Core Voltage (Volts)	0.99
10	CPU 1 Core Voltage (Volts)	0.98
11	Main 3.3 V Supply Voltage	3.36
12	Standby 3.3 V Supply Voltage	3.31
13	+5.0 V Supply Voltage	5.06
14	+12.0 V Supply Voltage	12.08
15	Battery Voltage (Volts)	3.17
16	Intel CPU Vtt Power(Volts)	1.01
17	5V Standby Voltage(Volts)	0.00
18	Voltage Sensor2(Volts)	0.00
19	CPU Fan O Speed (RPM)	4650
20	CPU Fan 1 Speed (RPM)	4575
21	System Fan Speed (RPM)	4650
22	System Fan 1 Speed (RPM)	4650
23	System Fan 2 Speed (RPM)	4650
24	CPU 0 Temperature (Celsius)	42
25	CPU 1 Temperature (Celsius)	49
26	Internal Temperature (Celsius)	36
27	Power supply 1 status	NORMAL
28	Power supply 2 status	NORMAL
29	Power supply 3 status	NOT SUPPORTED
30	Power supply 4 status	NOT SUPPORTED
31	System Disk Statistics:	
32	/flash Size (MB)	16858
33	/flash Used (MB)	186
34	/flash Available (MB)	15323
35	/flash Used (%)	1
36	/var Size (MB)	143802
37	/var Used (MB)	781
38	/var Available (MB)	131517
39	/var Used (%)	Θ
40	System Health Statistics(Auxiliary)):
41	Voltage 0 (Volts)	1.49
42	Voltage 1 (Volts)	1.49
43	Voltage 2 (Volts)	1.50
44	Voltage 3 (Volts)	1.49
45	Voltage 4 (Volts)	1.49
46	Voltage 5 (Volts)	0.00
47	Voltage 6 (Volts)	0.00
48	Voltage 7 (Volts)	0.00
49	Fan O Speed (RPM)	4650
50	Fan 1 Speed (RPM)	Θ
51	Fan 2 Speed (RPM)	0
----	-------------------------	----
52	Fan 3 Speed (RPM)	0
53	Temperature 0 (Celsius)	28
54	Temperature 1 (Celsius)	43
55	Temperature 2 (Celsius)	0
56	Temperature 3 (Celsius)	0
57	Done	

7. 次のコマンドを実行して、システム設定データと統計情報の tar を生成します。show techsupport

```
1 show techsupport
   showtechsupport data collector tool - $Revision: #2 $!
2
   NetScaler version 10.5
3
   Creating /var/tmp/support ....
4
5
    The NS IP of this box is 192.168.100.1
    Current HA state: Primary (or this is not part of HA pair!)
6
    All the data will be collected under
7
8
            /var/tmp/support/collector P 192.168.100.1 23Mar2016 10 00
    Copying selected configuration files from nsconfig ....
9
10
    Copying WebInterface configuration files (if WI is installed) ....
11
            .... WI is not installed on this system. Nothing to copy.
    Running shell commands ....
13
    Running CLI show commands ....
14
    Running CLI stat commands ....
15
    Running vtysh commands ....
16
    Determining newnslog files to archive ....
17
            Last newnslog file index=1
18
            Warning! Missing newnslog.0 and newnslog.0.tar and newnslog.0.
                tar.gz file!
19
            Warning! Missing newnslog.199 and newnslog.199.tar and
                newnslog.199.tar.gz file!
            Warning! Missing newnslog.198 and newnslog.198.tar and
                newnslog.198.tar.gz file!
            Warning! Missing newnslog.197 and newnslog.197.tar and
21
                newnslog.197.tar.gz file!
            Warning! Missing newnslog.196 and newnslog.196.tar and
                newnslog.196.tar.gz file!
23
            Five newnslog files missing
24
25
            .... copied 2 files from this directory.
26
    Copying core files from /var/core .... (last 5 files created within
       the last week)
27
            .... Nothing to copy .... No files created within the last one
                week
    Copying core files from /var/crash .... (last 5 files created within
28
       the last week)
29
            .... Nothing to copy .... No files created within the last one
                week
    Copying imported files and mapping files ....
    Copying GSLB location database files ....
31
    Copying files from /var/log/db ....
32
    Copying messages, ns.log, dmesg and other log files ....
```

34	Warning : cluster showtech node failure log file: /var/tmp/support/
	collector_P_192.168.100.1_23Mar2016_10_00/
	cluster_showtech_node_failure.log is not present
35	Archiving all the data into "/var/tmp/support/collector_P_192
	.168.100.1_23Mar2016_10_00.tar.gz"
36	Created a symbolic link for the archive with /var/tmp/support/support.
	tgz
37	<pre>/var/tmp/support/support.tgz points to> /var/tmp/support/</pre>
	collector_P_192.168.100.1_23Mar2016_10_00.tar.gz
38	If this node is part of HA pair, please run it on the other node also
	11
39	Done

注 <IP_address\> <date\>: コマンドの出力は /var/tmp/support/collector__P_\ .tar.gz ファイルにありま す。後で参照するために、このファイルを別のコンピュータにコピーします。コマンドの出力は、シトリックスのテ クニカルサポートに連絡するときに役立つことがあります。

8. コマンドラインインターフェイスで、シェルプロンプトに切り替えます。種類: shell

例

9. 次のコマンドを実行して、アプライアンスに応じて利用可能な Cavium カードの数を確認します。

root@ns# grep "cavium"/var/nslog/dmesg.boot

例

1	/var/nslog/dmesg.boot	
2	Cavium cavium_probe : found card	0x177d,device=0x11
3	cavium0 mem 0xde200000-0xde2ffff	irq 32 at device 0.0 on pci3
4	cavium0: [ITHREAD]	
5	Cavium cavium_probe : found card	0x177d,device=0x11
6	cavium1 mem 0xfb400000-0xfb4ffff	irq 64 at device 0.0 on pci136
7	cavium1: [ITHREAD]	
8	Cavium cavium_probe : found card	0x177d,device=0x11
9	<pre>cavium0 mem 0xde200000-0xde2ffff</pre>	irq 32 at device 0.0 on pci3
10	cavium0: [ITHREAD]	
11	Cavium cavium_probe : found card	0x177d,device=0x11
12	cavium1 mem 0xfb400000-0xfb4ffff	irq 64 at device 0.0 on pci136
13	cavium1: [ITHREAD]	
1.4	root@ns#	

10. 次のコマンドを実行して、アプライアンスに応じて、共有メモリ用に予約されている RAM メモリを確認します。

root @ns # grep「メモリ」/var/nslog/dmesg.boot

例

```
1 /var/nslog/dmesg.boot
2 real memory = 70866960384 (67584 MB)
3 avail memory = 66206515200 (63139 MB)
4 NS-KERN map_shared_mem_ioctl (cpu 11, NSPPE-00): Reserving 596 MB for
shared memory type 0
5 real memory = 70866960384 (67584 MB)
6 avail memory = 66206515200 (63139 MB)
7 root@ns#
```

11. 次のコマンドを実行して、アプライアンスに応じて CPU コアの数を確認します。

root@ns# grep "cpu"/var/nslog/dmesg.boot

1	root@ns# grep "cpu" /var/nslog/dmesg.boot
2	cpu0 (BSP): APIC ID: 0
3	cpul (AP): APIC ID: 2
4	cpu2 (AP): APIC ID: 4
5	cpu3 (AP): APIC ID: 6
6	cpu4 (AP): APIC ID: 8
7	cpu5 (AP): APIC ID: 10
8	cpu6 (AP): APIC ID: 32
9	cpu7 (AP): APIC ID: 34
10	cpu8 (AP): APIC ID: 36
11	cpu9 (AP): APIC ID: 38
12	cpul0 (AP): APIC ID: 40
13	cpull (AP): APIC ID: 42
14	cpu0: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>
15	cpu1: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>
16	cpu2: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>
17	cpu3: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>
18	cpu4: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>
19	cpu5: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>
20	cpu6: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>
21	cpu7: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>
22	cpu8: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>
23	cpu9: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>
24	cpul0: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>
25	cpull: <acpi cpu=""> on acpi0</acpi>
26	est0: <enhanced control="" frequency="" speedstep=""> on cpu0</enhanced>
27	p4tcc0: <cpu control="" frequency="" thermal=""> on cpu0</cpu>
28	est1: ≪Ennanced SpeedStep Frequency Control> on cpul
29	p4tccl: <cpu control="" frequency="" inermal=""> on cpul</cpu>
30	est2: ≪Ennanced SpeedStep Frequency Control> on cpu2
31	p4tcc2: ⁢CPU Frequency Inermal Control> on cpu2
32	ests: & t; Ennanced Speedstep Frequency Control & gt; on cpus
27	patters: all;CPO Frequency Thermat Controlagt; on Cpus
25	nAtecal & Alt. CPU Eroquency Thermal Control>, on cpu4
36	est5. Alt. Enhanced SpeedSten Frequency Control & at. on chu5
27	nAtec5. Alt.CPU Frequency Thormal Control>. on cpu5
51	preces. acc, ero rrequency mermat controlage, on chus

est6: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu6 38 39 p4tcc6: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu6 est7: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu7 40 p4tcc7: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu7 41 est8: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu8 42 43 p4tcc8: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu8 44 est9: < Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu9 45 p4tcc9: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu9 46 est10: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu10 47 p4tcc10: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu10 48 est11: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpul1 49 p4tcc11: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu11 50 NS-KERN map_shared_mem_ioctl (cpu 11, NSPPE-00): Reserving 596 MB for shared memory type 0 cpu0 (BSP): APIC ID: 51 0 52 cpul (AP): APIC ID: 2 53 cpu2 (AP): APIC ID: 4 cpu3 (AP): APIC ID: 54 6 cpu4 (AP): APIC ID: 8 cpu5 (AP): APIC ID: 10 57 cpu6 (AP): APIC ID: 32 cpu7 (AP): APIC ID: 34 58 59 cpu8 (AP): APIC ID: 36 cpu9 (AP): APIC ID: 38 cpul0 (AP): APIC ID: 40 61 62 cpull (AP): APIC ID: 42 63 cpu0: <:ACPI CPU> on acpi0 64 cpu1: <ACPI CPU> on acpi0 cpu2: <ACPI CPU> on acpi0 cpu3: <ACPI CPU> on acpi0 67 cpu4: <ACPI CPU> on acpi0 cpu5: <ACPI CPU> on acpi0 68 69 cpu6: <ACPI CPU> on acpi0 cpu7: <ACPI CPU> on acpi0 71 cpu8: <ACPI CPU> on acpi0 72 cpu9: <ACPI CPU> on acpi0 cpu10: <ACPI CPU> on acpi0 73 74 cpull: <ACPI CPU> on acpi0 75 est0: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu0 p4tcc0: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu0 76 est1: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu1 77 78 p4tcc1: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu1 est2: < Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu2 79 p4tcc2: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu2 est3: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu3 81 82 p4tcc3: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu3 est4: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu4 83 84 p4tcc4: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu4 est5: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu5 p4tcc5: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu5 87 est6: < Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu6 p4tcc6: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu6 est7: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu7

90	p4tcc7: <cpu control="" frequency="" thermal=""> on cpu7</cpu>
91	est8: <enhanced control="" frequency="" speedstep=""> on cpu8</enhanced>
92	p4tcc8: <cpu control="" frequency="" thermal=""> on cpu8</cpu>
93	est9: <enhanced control="" frequency="" speedstep=""> on cpu9</enhanced>
94	p4tcc9: <cpu control="" frequency="" thermal=""> on cpu9</cpu>
95	est10: <enhanced control="" frequency="" speedstep=""> on cpu10</enhanced>
96	p4tcc10: <cpu control="" frequency="" thermal=""> on cpu10</cpu>
97	est11: <enhanced control="" frequency="" speedstep=""> on cpu11</enhanced>
98	p4tcc11: <cpu control="" frequency="" thermal=""> on cpu11</cpu>
99	root@ns#

12. 次のコマンドを実行して /var ドライブが /dev/ ar0s1a としてマウントされていることを確認します:root @ns # df —h

例

1	root@ns# df -	-h				
2	Filesystem	Size	Used	Avail	Capacity	Mounted on
3	/dev/md0	327M	317M	3.1M	99%	/
4	devfs	1.0k	1.0k	0 B	100%	/dev
5	procfs	4.0k	4.0k	0 B	100%	/proc
6	/dev/ar0s1a	16G	186 <mark>M</mark>	15G	1%	/flash
7	/dev/ar0s1e	140G	857M	128 <mark>6</mark>	1%	/var
8	root@ns#					

13. 次のコマンドを入力して ns_hw_err.bash スクリプトを実行します。このスクリプトは、潜在的なハードウェ アエラーをチェックします。ルート @ns # ns hw err.bash

```
root@ns# ns_hw_err.bash
1
  NetScaler NS10.5: Build 59.71.nc, Date: Mar 2 2016, 05:22:19
2
3
   platform: serial KZCHGCN810
4
   platform: sysid 250140 - NSMPX-14000-40G 12\*CPU+16\*F1X+4\*F4X+2\*E1K
       +2*CVM N3
5
   HDD MODEL: ar0: 227328MB < Intel MatrixRAID RAID1&gt; status: READY
6
   Generating the list of newnslog files to be processed...
7
   Generating the events from newnslog files...
8
   Checking for HDD errors...
9
10
   Checking for HDD SMART errors...
11
   Checking for Flash errors...
12
   /var/nslog/dmesg.boot:* DEVELOPER mode - run NetScaler manually! *
13
   /var/tmp/ns_hw_tmp_10831//dmesg-a.out:* DEVELOPER mode - run NetScaler
        manually! *
14
   ******
15
   FOUND
                2 Flash errors: DEVELOPER mode - run NetScaler manually
   ******
16
   Checking for Mega Raid Controller errors...
17
   Checking for SSL errors...
18
19
   Checking for BIOS errors...
20
    Checking for SMB errors...
21
    Checking for MotherBoard errors...
```

```
Checking for CMOS errors...
22
            License year: 2016: OK
23
24 License server failed at startup. Check /var/log/license.log
25 Vendor daemon failed at startup. Check /var/log/license.log
26 Checking for SFP/NIC errors...
27
   Checking for Firmware errors...
   Checking for License errors...
28
29
    Checking for Undetected CPUs...
30 Checking for DIMM flaps...
31 Checking for LOM errors...
32
    Checking the Power Supply Errors...
33 root@ns#
```

14. 重要: 管理ポートを含む LOM ポートを除くすべてのポートをネットワークから物理的に切断します。

15. シェルプロンプトで、NetScaler ADC コマンドラインに切り替えます。タイプ: 終了

例

```
1 root@ns# exit
2 logout
3 Done
```

16. 次のコマンドを実行して、アプライアンスをシャットダウンします。NetScaler を完全に停止するかどうかを確認するメッセージが表示されます。タイプ: 今すぐシャットダウン-p

例

```
1 root@ns#
2 root@ns# exit
3 logout
4 Done
```

アプライアンスのアップグレード

アプライアンスをアップグレードするには、次の手順に従います。

- 1. NetScaler アプライアンスの電源を切ります。
- 2. 次の図に示すように、アプライアンスの背面にある 2 つのソリッドステートドライブ (SSD) をスロット #1 と スロット #2 に配置します。



3. 交換用のソリッドステートドライブ(SSD)が NetScaler モデルに必要なものであることを確認します。変換に は、最低 4 つの SSD が必要です。NetScaler ラベルは、いずれかのソリッドステートドライブの上部にあります。 このドライブには、新しいバージョンの BIOS と必要な NetScaler SDX 管理サービスの最新ビルドがあらかじめ入 力されています。この SSD はスロット 1 に取り付ける必要があります。

4. ドライブハンドルを引きながら、ドライブカバーの安全ラッチを押し下げて、SSD を取り外します。

5. 新しい NetScaler 認定 SSD ドライブでは、ドライブハンドルを完全に左に開き、新しいドライブをスロット #1 にできるだけ挿入します。

6. ドライブを装着するには、ハンドルをアプライアンスの背面と同じ位置で閉じ、ドライブがスロットにしっかりと ロックされるようにします。

重要:SSD の向きは重要です。ドライブを挿入するときは、NetScaler 製品ラベルが横にあることを確認してください。

7.2 つ目の NetScaler 認定 SSD をスロット #2 のスロット #1 にある SSD の容量と同じサイズで挿入します。

注: アプライアンスのライセンスが 14040 40G、14060 40G、14080 40G の場合は、スロット #3、#4、#5、#6 に空の NetScaler 認定 SSD をさらに挿入してください。

|-|-|-|-|

|NetScaler SDX モデル|含まれる仮想インスタンス|プラットフォーム最大|基本モデルに含まれる SSD(最大インスタンス数)

|SDX 14020 40G|5|25|240 GB × 2 個、300 GB×2 300 GB||

| SDX 14040 40G、SDX 14060 40G、SDX 14080 40G | 25| 2 240 GB、4 300 GB| N/A| 4 300 GB| N/A|

重要: 古い SSD と新しい SSD の混在とマッチングはサポートされていません。最初の RAID ペア (ローカルストレージ)を構成するスロット #1 とスロット #2 の SSD は、同じサイズとタイプである必要があります。同様に、2 番目の RAID ペア (VPX ストレージ)を構成するスロット #3 とスロット #4 の SSD のサイズとタイプが同じである必要があ ります。付属の変換キットに含まれるドライブのみを使用してください。 8. データポートと管理ポートからすべてのネットワークケーブルを取り外します。

9. NetScaler ADC アプライアンスを起動します。手順については、「ハードウェアのインストール」の「アプライア ンスの切り替え」を参照してください。

変換プロセスは約 30 分間実行できますが、その間、アプライアンスの電源を入れ直してはいけません。変換プロセ ス全体がコンソールに表示されず、応答しないように見えることがあります。

変換プロセスにより、BIOS が更新され、Citrix Hypervisor と管理サービスオペレーティングシステムがインスト ールされ、NetScaler VPX イメージを SSD にコピーしてインスタンスプロビジョニングを行い、RAID1 ペアを形成 します。

注: アプライアンスのシリアル番号は変わりません。

10. 変換処理中は、コンソールケーブルを接続したままにします。プロセスの完了を許可します。この時点で、 Netscaler-sdx ログイン: プロンプトが表示されます。

11. 変換プロセス中に、IP アドレスをデフォルト値の 192.168.1.3 にリセットするため、LOM ポート接続が失われる可能性があります。変換ステータス出力は、VGA モニタで確認できます。

12. アプライアンスが MPX から SDX に変換されると、デフォルトの認証情報は、nsroot/nsroot からルート/nsroot に変更されます。

13. 変換が成功したことを確認するには、FVT の結果が正常であることを確認してください。次のコマンドを実行します:tail /var/log/fvt/fvt.log

変換したアプライアンスの再構成

変換プロセスの後、アプライアンスの以前の動作設定はなくなります。したがって、デフォルトの IP アドレス 192.168.100.1/16 を使用してのみ、Web ブラウザを介してアプライアンスにアクセスできます。ネットワーク 192.168.0.0 でコンピュータを構成し、クロスオーバーイーサネットケーブルでアプライアンスの管理ポート(0/1) に直接接続するか、ストレートスルーイーサネットケーブルを使用してネットワークハブを介して NetScaler SDX アプライアンスにアクセスします。既定の資格情報を使用してログオンし、次の操作を行います。

- 1. [構成] タブを選択します。
- 2. [システムリソース] セクションに、NetScaler SDX アプライアンスの CPU コア、SSL コア、および合計メ モリの正確な数が表示されていることを確認します。
- 3.「システム」ノードを選択し、「アプライアンスの設定」で「ネットワーク構成」をクリックして、管理サービス のネットワーク情報を変更します。
- 4.「ネットワーク構成の変更」ダイアログ・ボックスで、次の詳細を指定します。
 - Interface*: クライアントが管理サービスに接続するときに使用するインターフェイス。可能な値:0/1、 0/2。デフォルト:0/1。
 - Citrix Hypervisor の IP アドレス *-Citrix Hypervisor の IP アドレス。
 - 管理サービス IP アドレス *: 管理サービスの IP アドレス。

- Netmask*: SDX アプライアンスが配置されているサブネットのサブネットマスク。
- Gateway*: ネットワークのデフォルトゲートウェイ。
- DNS サーバ: DNS サーバの IP アドレス。

* 必須パラメータ

- 1. [OK] をクリックします。ネットワーク情報が変更されると、管理サービスへの接続は失われます。
- 2. NetScaler SDX アプライアンスの管理ポート 0/1 をスイッチに接続し、ネットワーク経由でアクセスします。 先に使用した IP アドレスを参照し、デフォルトの資格情報でログオンします。
- 3. 新しいライセンスを適用します。手順については、「SDX ライセンスの概要」を参照してください。
- 4. [構成]>[システム]に移動し、[システム管理]グループで[アプライアンスの再起動]をクリックします。[は い]をクリックして確定します。これで、NetScaler SDX アプライアンスで VPX インスタンスをプロビジョ ニングする準備ができました。手順については、「NetScaler インスタンスの Provisioning」を参照してく ださい。

NetScaler MPX 8900 アプライアンスを NetScaler ADC SDX 8900 アプライアン

スに変換します

January 25, 2024

新しいソリッドステートドライブ(SSD)を使用してソフトウェアをアップグレードすることで、NetScaler MPX アプライアンスを NetScaler ADC SDX アプライアンスに変換できます。NetScaler は、NetScaler MPX アプライ アンスを NetScaler SDX アプライアンスに移行するためのフィールド変換キットを提供しています。

注

変換プロセスを開始する前に、NetScaler アプライアンスのライトアウト管理(LOM)ポートを構成すること をお勧めします。NetScaler アプライアンスの LOM ポートについて詳しくは、「 NetScaler アプライアンスのライトアウト管理ポート」を参照してください。

NetScaler MPX アプライアンスを NetScaler ADC SDX アプライアンスに変換するには、コンピュータまたは端末 に接続されたコンソールケーブルを介してアプライアンスにアクセスする必要があります。コンソールケーブルを接 続する前に、次の構成をサポートするようにコンピュータまたはターミナルを構成してください。

- VT100 端末エミュレーション
- ・9600 ボー
- 8データビット
- 1ストップビット
- パリティとフロー制御を NONE に設定

コンソールケーブルの一方の端をアプライアンスの RS232 シリアル・ポートに接続し、もう一方の端をコンピュー タまたは端末に接続します。

注

RJ-45 コンバータ付きのケーブルを使用するには、オプションのコンバータをコンソールポートに挿入し、ケ ーブルを接続します。

ケーブルを接続した状態で、MPX アプライアンスのコンポーネントが正しく機能していることを確認します。これ で、変換を開始する準備ができました。変換プロセスでは、BIOS が変更され、Citrix Hypervisor とサービス仮想 マシンイメージがインストールされ、NetScaler VPX イメージが SSD にコピーされます。

変換プロセスの後、アプライアンスの設定を変更し、新しいライセンスを適用します。その後、管理サービスを通じ て、NetScaler SDX アプライアンスの VPX インスタンスをプロビジョニングできます。

次の図は、MPX 89xx の前面パネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 89xx フロントパネル



MPX アプライアンスのコンポーネントが適切に動作していることを確認するには

- 1. コンソールポートにアクセスし、管理者の資格情報を入力します。
- アプライアンスのコマンドラインインターフェイスから次のコマンドを実行して、シリアル番号を表示します。
 show hardware

シリアル番号は、シトリックスのテクニカルサポートに連絡する場合に役立ちます。

```
1 > show hardware
      Platform: NSMPX-8900 8\*CPU+4\*F1X+6\*E1K+1\*E1K+1*COL 8955
2
          30010
3
      Manufactured on: 12/3/2018
      CPU: 2100MHZ
4
5
      Host Id: 1862303878
       Serial no: JVFUJCZT1E
6
7
       Encoded serial no: JVFUJCZT1E
      BMC Revision: 4.51
8
```

9 Done

- 3. 次のコマンドを実行して、アクティブな 1G および 10G インターフェイスのステータスを表示します。**show interface**
- 4. show interface コマンドの出力で、すべてのインターフェイスが有効になっており、各インターフェイスの ステータスが UP/UP と表示されていることを確認します。

注

すべてのポートに SFP+ トランシーバがない場合は、インターフェイスを段階的に確認します。最初の インターフェイスセットを確認したら、SFP+ トランシーバを取り外し、次のポートセットに接続しま す。SFP+ トランシーバはホットスワップできません。したがって、トランシーバの接続後に MPX アプ ライアンスを再起動します。

- 5. UP/UP ステートでない各インターフェイスに対して、次のコマンドを実行します。
 - インターフェイス **1/x** を有効にする
 - インターフェイス 10/x を有効にする

ここで、x は新しいインターフェイス番号です。

- 6. 次のコマンドを実行して、電源装置のステータスが正常であることを確認します。stat system-detail
 - 例

1	> stat system -detail		
2	NetScaler Executive View		
3	System Information:		
4	Up since Tue Dec 4 14:01:49 2018		
5	Memory usage (MB) 859		
6	InUse Memory (%) 4.81		
7	Number of CPUs 5		
8	System Health Statistics (Standard):		
9	CPU 0 Core Voltage (Volts)	1.78	
10	CPU 1 Core Voltage (Volts)	0.00	
11	Main 3.3 V Supply Voltage	3.28	
12	Standby 3.3 V Supply Voltage	3.28	
13	+5.0 V Supply Voltage	4.90	
14	+12.0 V Supply Voltage	11.81	
15	Battery Voltage (Volts)	3.02	
16	Intel CPU Vtt Power(Volts)	0.00	
17	5V Standby Voltage(Volts)	5.05	
18	Voltage Sensor2(Volts)	0.00	
19	CPU Fan 0 Speed (RPM)	6900	
20	CPU Fan 1 Speed (RPM)	6700	
21	System Fan Speed (RPM)	6800	
22	System Fan 1 Speed (RPM)	6800	
23	System Fan 2 Speed (RPM)	6900	
24	CPU 0 Temperature (Celsius)	44	
25	CPU 1 Temperature (Celsius)	Θ	

26	Internal Temperature (Celsius)	37	
27	Power supply 1 status	NORMAL	
28	Power supply 2 status	NORMAL	
29	Power supply 3 status	NOT SUPPORTED	
30	Power supply 4 status	NOT SUPPORTED	
31	System Disk Statistics:		
32	/flash Size (MB)	16858	
33	/flash Used (MB)	323	
34	/flash Available (MB)	15186	
35	/flash Used (%)	2	
36	/var Size (MB)	143802	
37	/var Used (MB)	1880	
38	/var Available (MB)	130418	
39	/var Used (%)	1	
40	System Health Statistics(Auxiliary):		
41	Voltage 0 (Volts)	1.20	
42	Voltage 1 (Volts)	1.20	
43	Voltage 2 (Volts)	0.00	
44	Voltage 3 (Volts)	0.00	
45	Voltage 4 (Volts)	0.00	
46	Voltage 5 (Volts)	0.00	
47	Voltage 6 (Volts)	0.00	
48	Voltage 7 (Volts)	0.00	
49	Fan O Speed (RPM)	7000	
50	Fan 1 Speed (RPM)	0	
51	Fan 2 Speed (RPM)	0	
52	Fan 3 Speed (RPM)	Θ	
53	Temperature 0 (Celsius)	28	
54	Temperature 1 (Celsius)	34	
55	Temperature 2 (Celsius)	Θ	
56	Temperature 3 (Celsius)	Θ	
57	Done		

7. 次のコマンドを実行して、システム構成データと統計情報のタールを生成します。show techsupport

```
1 > show techsupport
2 showtechsupport data collector tool - $Revision: #13 $!
3 NetScaler version 11.1
4 Creating /var/tmp/support ....
5 The NS IP of this box is 10.221.44.30
6 This is not HA configuration
7 Copying selected configuration files ....
8 Running shell commands ....
9 Running CLI show commands ....
10 Collecting ns running configuration....
11 Collecting running gslb configuration....
12 Running CLI stat commands ....
13 Running vtysh commands ....
14 Copying newnslog files ....
15 Copying core files from /var/core ....
16 Copying core files from /var/crash ....
17 Copying GSLB location database files ....
```

```
18 Copying GSLB auto sync log files ....
19 Copying Safenet Gateway log files ....
20 Copying messages, ns.log, dmesg and other log files ....
21 Creating archive ....
22 /var/tmp/support/support.tgz ---- points to ---> /var/tmp/support
22 /var/tmp/support/support.tgz ---- points to ---> /var/tmp/support
23 /var/tmp/support
24 Done
```

```
注
```

コマンドの出力は、/var/tmp/support/collector_<IP_address>_P_<date>. tar.gz ファイルにあります。後で参照するために、このファイルを別のコンピュータにコピーしま す。コマンドの出力は、シトリックスのテクニカルサポートに問い合わせる場合に役立つことがありま す。

- 8. NetScaler ADC コマンドラインインターフェイスで、シェルプロンプトに切り替えます。次を入力: shell
- 9. 次のコマンドを実行して、270 MB の RAM が共有メモリ用に予約されていることを確認します。root@ns

dmesg | grep memory

例

```
1 root@ns# dmesg | grep memory
2 real memory = 36507222016 (34816 MB)
3 avail memory = 32728735744 (31212 MB)
4 NS-KERN nsppe_rendezvous: NSPPE-02 on CPU3NS-KERN
map_shared_mem_ioctl (cpu 2, NSPPE-01): Reserving 270 MB for
shared memory type 0
5 root@ns#
```

10. 次のコマンドを実行して、アプライアンスに12のCPUコアがあることを確認します。root@ns# dmesg

grep cpu

```
1 root@ns# dmesg | grep cpu
2 cpu0 (BSP): APIC ID: 0
3 cpu1 (AP): APIC ID: 2
4 cpu2 (AP): APIC ID: 4
5 cpu3 (AP): APIC ID: 6
6 cpu4 (AP): APIC ID: 8
7 cpu5 (AP): APIC ID: 10
8 cpu6 (AP): APIC ID: 12
9 cpu7 (AP): APIC ID: 14
10 cpu0: <ACPI CPU> on acpi0
11 cpu1: <ACPI CPU> on acpi0
12 cpu2: <ACPI CPU> on acpi0
13 cpu3: <ACPI CPU> on acpi0
14 cpu4: <ACPI CPU> on acpi0
15 cpu5: <ACPI CPU> on acpi0
16 cpu6: <ACPI CPU> on acpi0
```

```
17 cpu7: <ACPI CPU> on acpi0
18 est0: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu0
19 p4tcc0: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu0
20 est1: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu1
21 p4tcc1: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu1
22 est2: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu2
23 p4tcc2: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu2
24 est3: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu3
25 p4tcc3: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu3
26 est4: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu4
27 p4tcc4: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu4
28 est5: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu5
29 p4tcc5: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu5
30 est6: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu6
31 p4tcc6: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu6
32 est7: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu7
33 p4tcc7: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu7
34 NS-KERN nsppe_rendezvous: NSPPE-02 on CPU3NS-KERN
      map_shared_mem_ioctl (cpu 2, NSPPE-01): Reserving 270 MB for
      shared memory type 0
35 root@ns#
```

 次のコマンドを実行して、/var ドライブが /dev/ad0s1e としてマウントされていることを確認します。 root@ns# df -h

例

1	root@ns# df -	-h				
2	Filesystem	Size	Used	Avail	Capacity	Mounted on
3	/dev/md0	354M	342M	5M	99%	/
4	devfs	1.0k	1.0k	0 B	100%	/dev
5	procfs	4.0k	4.0k	0 B	100%	/proc
6	/dev/ad0s1a	16 <mark>6</mark>	323M	14G	2%	/flash
7	/dev/ad0s1e	140G	1.9G	127 <mark>6</mark>	1%	/var
8	root@ns#					

12. ns_hw_err.bash スクリプトを実行して、潜在的なハードウェア・エラーをチェックします。root@ns# /netscaler/ns hw err.bash

```
1 root@ns# ns_hw_err.bash
2 NetScaler NS11.1: Build 60.5.nc, Date: Oct 3 2018, 10:58:21
3 platform: serial JVFUJCZT1E
4 platform: sysid 30010 - NSMPX-8900 8\*CPU+4\*F1X+6\*E1K+1\*E1K+1*
COL 8955
5 HDD MODEL: ad0: 228936MB <MICRON M510DC MTFDDAK240MBP 0013> at
ata0-master UDMA33
6
7 Generating the list of newnslog files to be processed...
8 Generating the events from newnslog files...
9 Checking for HDD errors...
10 Checking for HDD SMART errors...
```

```
11 Checking for Flash errors...
      skipping flash check because HDD and flash are same physical
12
         device: ad0.
13
      Please refer to HDD error output.
14 Checking for Mega Raid Controller errors...
15 Checking for SSL errors...
16 Checking for BIOS errors...
17 Checking for SMB errors...
18 Checking for MotherBoard errors...
19 Checking for CMOS errors...
20
      License year: 2018: OK
21 License server failed at startup. Check /var/log/license.log
22 Vendor daemon failed at startup. Check /var/log/license.log
23 Checking for SFP/NIC errors...
24 Checking for Firmware errors...
25 Checking for License errors...
26 Checking for Undetected CPUs...
27 Checking for DIMM flaps...
28 Checking for LOM errors...
29 Checking the Power Supply Errors...
30 Checking for Hardware Clock errors...
32 NS hardware check: Found 2 errors
34 Script Done.
35 root@ns#
```

13. 重要:LOM ポート以外のすべてのポート (管理ポートを含む) をネットワークから物理的に切断してください。

14. シェルプロンプトで、NetScaler ADC コマンドラインに切り替えます。タイプ: 終了

15. 次のコマンドを実行して、アプライアンスをシャットダウンします。shutdown -p now

例

1 > shutdown -p now

2 Are you sure you want to completely stop NetScaler (Y/N)? [N]:y

アプライアンスのアップグレード

アップグレードプロセスには、次の2つの手順が含まれます。

- SSD を交換してください
- アプライアンスを起動する

SSD を交換してください

1. 次の図に示すように、アプライアンスの背面パネルにあるソリッドステートドライブの位置を確認します。



- 交換用ソリッドステートドライブ(SSD)が、NetScaler ADC モデルに必要なものであることを確認します。 NetScaler のラベルは SSD の上部にあります。SSD には、新しいバージョンの BIOS と、必要なサービス仮 想マシンソフトウェアの最新ビルドがあらかじめ入力されています。
- 3. 現在取り付けられている SSD ドライブを取り外します。ドライブカバーの安全ラッチを右に押し、ハンドル でドライブを引き出します。
- 新しいドライブのドライブハンドルを左側に完全に開き、ドライブをスロットに挿入します。次の図は、ドラ イブが部分的に挿入されていることを示しています。ドライブをスロットに押し込みます。



1. ドライブがスロットにしっかりとロックされるように、アプライアンスの背面側にハンドルを閉じます。

重要

ソリッドステートドライブの向きは重要です。ドライブを挿入するときは、NetScaler 製品ラベルが上 部にあることを確認してください。

アプライアンスを起動する

1. NetScaler ADC アプライアンスを起動します。手順については、「ハードウェアのインストール」の「アプラ イアンスのスイッチオン」セクションを参照してください。

変換処理が完了するまで約 30 分かかります。変換プロセスでは、次のアクションが実行されます。

- BIOS を更新します。
- Citrix Hypervisor とサービス仮想マシンオペレーティングシステムをインストールします。
- インスタンスプロビジョニングのために、NetScaler VPX イメージをソリッドステートドライブにコ ピーします。

変換が開始されると、次の図に示すように、フロント・ベゼルの LCD 画面に NSMPX-8900 が表示されます。

1 ![SDX 8900 before conversion](/ja-jp/netscaler-hardware-platforms/sdx/ media/89xx-before-conversion.png)

```
2
3 When the conversion is successful, the LCD indicates Citrix NSSDX -
8900, as shown in the following figure.
4
5 ![SDX 8900 after conversion](/ja-jp/netscaler-hardware-platforms/sdx/
media/89xx-after-conversion.png)
6
7 > **Note**
8 >
9 > The serial number of the appliance remains the same.
```

- 変換処理中は、コンソールケーブルを接続したままにします。プロセスの完了を許可します。この時点で、 Netscaler-sdx ログイン: プロンプトが表示されます。
- アプライアンスは変換プロセスを終了すると、以前に動作していた設定ではなくなります。したがって、アプ ライアンスには Web ブラウザからのみアクセスできます。デフォルトの IP アドレス 192.168.100.1/16 を 使用します。ネットワーク 192.168.0.0 でコンピュータを構成し、クロスオーバーイーサネットケーブルを使 用して、アプライアンスの管理ポート 0/1 に直接接続します。または、ストレートイーサネットケーブルを使 用して、ネットワークハブを介してアプライアンスにアクセスします。デフォルトの認証情報を使用します。
- 3. [構成] タブを選択します。
- 4. [システムリソース] セクションに、NetScaler SDX アプライアンスの CPU コア、SSL コア、および合計メ モリが表示されていることを確認します。
- 5. システムノードを選択し、システムページの [ネットワーク構成] リンクをクリックして、サービス VM の IP アドレスを変更します。
- 6.「ネットワーク構成の変更」ダイアログ・ボックスで、次の詳細を指定します。
 - [Interface]: クライアントが管理サービスに接続するときに使用するインターフェイス。可能な値:0/1、 0/2。デフォルト:0/1。
 - Citrix Hypervisor IP アドレス: Citrix Hypervisor の IP アドレス。
 - 管理サービス IP アドレス:管理サービスの IP アドレス。
 - Netmask: SDX アプライアンスが配置されているサブネットのサブネットマスク。
 - ゲートウェイ: ネットワークのデフォルトゲートウェイ。
 - DNS サーバ: DNS サーバの IP アドレス。* オプションのパラメータ
- 7. [**OK**] をクリックします。
- 8. ネットワーク経由でアクセスするには、NetScaler SDX アプライアンスをスイッチに接続します。管理サー ビスの IP を参照し、既定の資格情報でログオンします。
- 9. ライセンスの適用手順については、「[NetScaler SDX ライセンスの概要]」を参照してください。 (/en-us/sdx/current-release/manage-monitor-appliance-network-configuration/licensingoverview.html)

NetScaler MPX 15000 アプライアンスを NetScaler ADC SDX 15000 アプライア

ンスに変換する

January 25, 2024

NetScaler MPX アプライアンスを NetScaler SDX アプライアンスに変換するには、新しいソリッドステートドラ イブ(SSD)を使用してソフトウェアをアップグレードします。NetScaler は、NetScaler MPX アプライアンスを SDX アプライアンスに移行するためのフィールド変換キットを提供しています。

変換には8つの SSD すべてが必要です。

注:

変換プロセスを開始する前に、アプライアンスのライトアウト管理(LOM)ポートを構成することをお勧めし ます。ADC アプライアンスの LOM ポートについて詳しくは、「NetScaler SDX アプライアンスのライトアウ ト管理ポート」を参照してください。

MPX アプライアンスを SDX アプライアンスに変換するには、コンピュータまたはターミナルに接続されたコンソー ルケーブルを使用してアプライアンスにアクセスする必要があります。コンソールケーブルを接続する前に、次の構 成をサポートするようにコンピュータまたはターミナルを構成してください。

- VT100 端末エミュレーション
- ・9600 ボー
- 8データビット
- 1ストップビット
- パリティとフロー制御を NONE に設定

コンソールケーブルの一方の端をアプライアンスの RS232 シリアル・ポートに接続し、もう一方の端をコンピュー タまたは端末に接続します。

注:

RJ-45 コンバータ付きのケーブルを使用するには、オプションのコンバータをコンソールポートに挿入し、ケ ーブルを接続します。

変換処理中に LOM 接続が失われるため、VGA モニターをアプライアンスに接続して変換プロセスを監視することを お勧めします。

ケーブルを接続した状態で、MPX アプライアンスのコンポーネントが正しく機能していることを確認します。これ で、変換を開始する準備ができました。変換プロセスにより、BIOS が変更され、Citrix Hypervisor とサービス仮 想マシンイメージがインストールされ、NetScaler VPX イメージがソリッドステートドライブにコピーされます。

変換プロセスでは、ローカルストレージと NetScaler VPX ストレージ用の独立ディスク(RAID)コントローラーの 冗長アレイもセットアップされます。SSD スロット #1 と #2 はローカルストレージに使用され、SSD スロット #3 と #4 は NetScaler VPX ストレージに使用されます。 変換プロセスの後、アプライアンスの設定を変更し、新しいライセンスを適用します。その後、現在の NetScaler SDX アプライアンス上の管理サービスを通じて VPX インスタンスをプロビジョニングできます。

MPX アプライアンスのコンポーネントが適切に動作していることを確認する

- 1. コンソールポートにアクセスし、管理者の資格情報を入力します。
- アプライアンスのコマンドラインインターフェイスから次のコマンドを実行して、シリアル番号を表示します。 show hardware。変換後にアプライアンスにログオンするために、シリアル番号が必要になる場合があ ります。

例

シリアル番号は、シトリックスのテクニカルサポートに問い合わせる際に役立つことがあります。

3. 次のコマンドを実行して、アクティブなインターフェイスの状態を表示します:

show interface

```
例
```

```
1 > show interface
2
3
  1) Interface 0/1 (Gig Ethernet 10/100/1000 MBits) #4
       flags=0xc020 <ENABLED, UP, UP, autoneg, HAMON, HEARTBEAT,</pre>
4
           802.1q>
       MTU=1500, native vlan=1, MAC=0c:c4:7a:e5:3c:50, uptime 1
5
           h08m02s
6
       Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
                throughput 0
7
       Actual: media UTP, speed 1000, duplex FULL, fctl OFF,
8
           throughput 1000
9
       LLDP Mode: NONE,
                                         LR Priority: 1024
10
       RX: Pkts(19446) Bytes(1797757) Errs(0) Drops(19096) Stalls(0)
11
       TX: Pkts(368) Bytes(75619) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
12
13
       NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
       Bandwidth thresholds are not set.
14
15
```

```
Interface 0/2 (Gig Ethernet 10/100/1000 MBits) #5
16 2)
       flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HEARTBEAT, 802.1q>
17
18
       MTU=1500, native vlan=1, MAC=0c:c4:7a:e5:3c:51, downtime 1
           h08m15s
       Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
19
                throughput 0
21
                                         LR Priority: 1024
       LLDP Mode: NONE,
       RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
24
       TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
25
       NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
26
       Bandwidth thresholds are not set.
27
       Interface 10/1 (10G Ethernet) #6
28
   3)
       flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HAMON, HEARTBEAT,</pre>
29
           802.1a>
       MTU=1500, native vlan=200, MAC=00:e0:ed:5d:e5:76, downtime 1
           h08m15s
31
       Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
                throughput 0
32
33
       LLDP Mode: NONE,
                                         LR Priority: 1024
34
       RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
       TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
37
       NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
       Bandwidth thresholds are not set.
39
       Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
40
41
       Interface 10/2 (10G Ethernet) #7
   4)
       flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HEARTBEAT, 802.1q>
42
43
       MTU=1500, native vlan=200, MAC=00:e0:ed:5d:e5:77, downtime 1
           h08m15s
       Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
44
45
                throughput 0
                                         LR Priority: 1024
46
       LLDP Mode: NONE,
47
48
       RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
49
       TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
       NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
51
       Bandwidth thresholds are not set.
52
       Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
53
54
  5)
       Interface 10/3 (10G Ethernet) #8
55
       flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HEARTBEAT, 802.1q>
       MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:5d:e5:78, downtime 1
           h08m15s
57
       Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
                throughput 0
                                         LR Priority: 1024
59
       LLDP Mode: NONE,
61
       RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
       TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
62
       NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
```

```
Bandwidth thresholds are not set.
64
        Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
        Interface 10/4 (10G Ethernet) #9
67 6)
68
        flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HEARTBEAT, 802.1q>
69
        MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:5d:e5:79, downtime 1
           h08m15s
        Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
 71
                 throughput 0
72
        LLDP Mode: NONE,
                                          LR Priority: 1024
        RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
74
75
        TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
        NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
 76
 77
        Bandwidth thresholds are not set.
        Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
 78
        Interface 10/5 (10G Ethernet) #0
   7)
 81
        flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HEARTBEAT, 802.1q>
82
        MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:5d:e5:aa, downtime 1
           h08m15s
        Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
83
 84
                 throughput 0
85
        LLDP Mode: NONE,
                                          LR Priority: 1024
86
87
        RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
88
        TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
89
        NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
90
        Bandwidth thresholds are not set.
        Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
91
93
        Interface 10/6 (10G Ethernet) #1
   8)
        flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HEARTBEAT, 802.1q>
        MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:5d:e5:ab, downtime 1
           h08m15s
96
        Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
97
                 throughput 0
                                          LR Priority: 1024
        LLDP Mode: NONE,
99
        RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
101
        TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
102
        NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
103
        Bandwidth thresholds are not set.
104
        Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic
105
106
        Interface 10/7 (10G Ethernet) #2
   9)
107
        flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HEARTBEAT, 802.1q>
108
        MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:5d:e5:ac, downtime 1
           h08m15s
        Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
110
                 throughput 0
111
        LLDP Mode: NONE,
                                          LR Priority: 1024
112
```

RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0) 114 TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0) 115 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0) 116 Bandwidth thresholds are not set. 117 Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic 118 119 10) Interface 10/8 (10G Ethernet) #3 flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HEARTBEAT, 802.1q> 121 MTU=1500, native vlan=1, MAC=00:e0:ed:5d:e5:ad, downtime 1 h08m15s 122 Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF, 123 throughput 0 124 LR Priority: 1024 LLDP Mode: NONE, 125 RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0) 127 TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0) NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0) 128 129 Bandwidth thresholds are not set. 130 Rx Ring: Configured size=2048, Actual size=512, Type: Elastic 131 132 11) Interface 50/1 (50G Ethernet) #13 flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HEARTBEAT, 802.1q> 134 MTU=1500, **native** vlan=1, MAC=24:8a:07:a3:1f:84, downtime 1 h08m22s Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF, 135 136 throughput 0 137 LLDP Mode: NONE. LR Priority: 1024 138 139 RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0) 140 TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0) 141 NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0) 142 Bandwidth thresholds are not set. 143 144 12) Interface 50/2 (50G Ethernet) #12 145 flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HEARTBEAT, 802.1q> 146 MTU=1500, native vlan=1, MAC=24:8a:07:a3:1f:6c, downtime 1 h08m22s Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF, 147 148 throughput 0 149 LLDP Mode: NONE, LR Priority: 1024 150 151 RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0) 152 TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0) NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0) 153 154 Bandwidth thresholds are not set. 13) Interface 50/3 (50G Ethernet) #11 flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HEARTBEAT, 802.1q> MTU=1500, native vlan=1, MAC=24:8a:07:a3:1f:98, downtime 1 h08m22s Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF, 160 throughput 0 LR Priority: 1024 161 LLDP Mode: NONE,

```
162
163
        RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
        TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
164
165
        NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
166
        Bandwidth thresholds are not set.
167
168 14) Interface 50/4 (50G Ethernet) #10
        flags=0x4000 <ENABLED, DOWN, down, autoneg, HEARTBEAT, 802.1q>
169
170
        MTU=1500, native vlan=1, MAC=24:8a:07:94:b9:b6, downtime 1
            h08m22s
171
        Requested: media AUTO, speed AUTO, duplex AUTO, fctl OFF,
172
                 throughput 0
173
                                          LR Priority: 1024
        LLDP Mode: NONE,
174
        RX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
175
176
        TX: Pkts(0) Bytes(0) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
        NIC: InDisc(0) OutDisc(0) Fctls(0) Stalls(0) Hangs(0) Muted(0)
177
178
        Bandwidth thresholds are not set.
179
180 15) Interface LO/1 (Netscaler Loopback interface) #14
181
        flags=0x20008020 <ENABLED, UP, UP>
        MTU=1500, native vlan=1, MAC=0c:c4:7a:e5:3c:50, uptime 1
182
            h08m18s
        LLDP Mode: NONE,
                                          LR Priority: 1024
184
        RX: Pkts(5073645) Bytes(848299459) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
185
        TX: Pkts(9923625) Bytes(968741778) Errs(0) Drops(0) Stalls(0)
187
        Bandwidth thresholds are not set.
188
189 Done
```

4. show interface コマンドの出力で、すべてのインターフェイスが有効になっており、各インターフェイスの ステータスが UP/UP と表示されていることを確認します。

```
注:
>
>- T ケーブルがインターフェイスに接続されている場合にのみ、インターフェイスのステータスが
UP/UP として表示されます。
>
>-すべてのポートに SFP+ トランシーバがない場合は、インターフェイスを段階的に確認します。最初
のインターフェイスセットを確認したら、SFP+ トランシーバを取り外し、次のポートセットに接続し
ます。
```

5. UP/UP 状態でない各インターフェイスに対して、次のコマンドを実行します。

```
    enable interface 50/1
    Done
    enable interface 50/2
    Done
    enable interface 50/3
```

```
6 Done
7 > enable interface 50/4
8 Done
```

x は新しいインターフェイス番号です

6. 次のコマンドを実行して、電源装置のステータスが正常であることを確認します。

```
stat system -detail
```

```
例
```

1	> stat system -detail		
2			
3	NetScaler Executive View		
5	System Information:		
6	Up since Sat Dec 5 04:17:29	2020	
7	Up since(Local) Sat Dec 5 04:17:29	2020	
8	Memory usage (MB)	4836	
9	InUse Memory (%)	4.08	
10	Number of CPUs	13	
11			
12	System Health Statistics (Standard)	:	
13	CPU 0 Core Voltage (Volts)	1.80	
14	CPU 1 Core Voltage (Volts)	1.80	
15	Main 3.3 V Supply Voltage	3.35	
16	Standby 3.3 V Supply Voltage	3.23	
17	+5.0 V Supply Voltage	5.00	
18	+12.0 V Supply Voltage	12.06	
19	Battery Voltage (Volts)	3.02	
20	Intel CPU Vtt Power(Volts)	0.00	
21	5V Standby Voltage(Volts)	4.95	
22	Voltage Sensor2(Volts)	0.00	
23	CPU Fan O Speed (RPM)	3500	
24	CPU Fan 1 Speed (RPM)	3600	
25	System Fan Speed (RPM)	3600	
26	System Fan 1 Speed (RPM)	3600	
27	System Fan 2 Speed (RPM)	3500	
28	CPU 0 Temperature (Celsius)	37	
29	CPU 1 Temperature (Celsius)	47	
30	Internal Temperature (Celsius)	26	
31	Power supply 1 status	NORMAL	
32	Power supply 2 status	NORMAL	
33	Power supply 3 status	NOT SUPPORTED	
34	Power supply 4 status	NOT SUPPORTED	
35			
36	System Disk Statistics:	00001	
37	/flash Size (MB)	23801	
38	/TLASH USED (MB)	7009	
39	/itash Avaitable (MB)	14887	
40	/itash Used (%)	32	
41	(var llood (MB)	341167	
42		20202	

43	/var Available (MB)	257371	
7.5	(var Head (%)	10	
44	/var useu (%)	18	
45			
46	System Health Statistics(Auxiliary):		
47	Voltage 0 (Volts)	1.20	
48	Voltage 1 (Volts)	1.20	
49	Voltage 2 (Volts)	1.20	
50	Voltage 3 (Volts)	1.20	
51	Voltage 4 (Volts)	1.54	
52	Voltage 5 (Volts)	0.00	
53	Voltage 6 (Volts)	0.00	
54	Voltage 7 (Volts)	0.00	
55	Fan O Speed (RPM)	3600	
56	Fan 1 Speed (RPM)	Θ	
57	Fan 2 Speed (RPM)	Θ	
58	Fan 3 Speed (RPM)	Θ	
59	Temperature 0 (Celsius)	24	
60	Temperature 1 (Celsius)	30	
61	Temperature 2 (Celsius)	Θ	
62	Temperature 3 (Celsius)	Θ	
63	Done		

7. 次のコマンドを実行して、システム設定データと統計情報の tar を生成します。

show techsupport

```
1 > show techsupport
2
3 showtechsupport data collector tool - $Revision$!
4 NetScaler version 13.0
5 The NS IP of this box is 10.217.206.43
6 This is not HA configuration
7 Copying selected configuration files ....
8 Running shell commands ....
9 Running CLI show commands ....
10 Collecting ns running configuration....
11 Collecting running gslb configuration....
12 Running CLI stat commands ....
13 Running vtysh commands ....
14 Copying newnslog files ....
15 Copying core files from /var/core ....
16 Copying core files from /var/crash ....
17 Copying GSLB location database files ....
18 Copying GSLB auto sync log files ....
19 Copying Safenet Gateway log files ....
20 Copying messages, ns.log, dmesg and other log files ....
21 Creating archive ....
22 /var/tmp/support/support.tgz ---- points to ---> /var/tmp/support
      /collector_P_10.217.206.43_5Dec2020_05_32.tar.gz
23
24 showtechsupport script took 1 minute(s) and 17 second(s) to
      execute.
```

25 Done

注:

<IP_address\> <date\> コマンドの出力は /var/tmp/support/collector__P_\ .tar.gz ファイル にあります。後で参照するために、このファイルを別のコンピュータにコピーします。コマンドの出力 は、シトリックスのテクニカルサポートに連絡するときに役立つことがあります。

8. コマンドラインインターフェイスで、シェルプロンプトに切り替えます。種類: shell

例

9. 次のコマンドを実行して、アプライアンスに応じて利用可能な Cavium カードの数を確認します。

root@ns# grep "memory"/var/nslog/dmesg.boot

例

```
1 root@ns# grep "memory" /var/nslog/dmesg.boot
2 real memory = 139586437120 (133120 MB)
3 avail memory = 132710871040 (126562 MB)
4 root@ns#
```

10. 次のコマンドを実行して、アプライアンスに応じて CPU コアの数を確認します。

root@ns# grep "cpu"/var/nslog/dmesg.boot

```
1 root@ns# grep "cpu" /var/nslog/dmesg.boot
2 cpu0 (BSP): APIC ID: 0
3 cpu1 (AP): APIC ID: 2
4 cpu2 (AP): APIC ID: 4
5 cpu3 (AP): APIC ID: 6
6 cpu4 (AP): APIC ID: 8
7 cpu5 (AP): APIC ID: 10
8 cpu6 (AP): APIC ID: 12
9 cpu7 (AP): APIC ID: 12
9 cpu7 (AP): APIC ID: 14
10 cpu8 (AP): APIC ID: 16
11 cpu9 (AP): APIC ID: 18
12 cpu10 (AP): APIC ID: 20
13 cpu11 (AP): APIC ID: 22
14 cpu12 (AP): APIC ID: 24
15 cpu13 (AP): APIC ID: 26
```

16 cpu14 (AP): APIC ID: 28 17 cpu15 (AP): APIC ID: 30 18 cpu0: <ACPI CPU> on acpi0 19 cpu1: <ACPI CPU> on acpi0 20 cpu2: <ACPI CPU> on acpi0 21 cpu3: <ACPI CPU> on acpi0 22 cpu4: <ACPI CPU> on acpi0 23 cpu5: <ACPI CPU> on acpi0 24 cpu6: <ACPI CPU> on acpi0 25 cpu7: <ACPI CPU> on acpi0 26 cpu8: <ACPI CPU> on acpi0 27 cpu9: <ACPI CPU> on acpi0 28 cpu10: <ACPI CPU> on acpi0 29 cpull: <ACPI CPU> on acpi0 30 cpu12: <ACPI CPU> on acpi0 31 cpu13: <ACPI CPU> on acpi0 32 cpu14: <ACPI CPU> on acpi0 33 cpu15: <ACPI CPU> on acpi0 34 est0: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu0 35 p4tcc0: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu0 36 est1: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu1 p4tcc1: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu1 38 est2: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu2 39 p4tcc2: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu2 40 est3: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu3 41 p4tcc3: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu3 42 est4: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu4 43 p4tcc4: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu4 44 est5: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu5 45 p4tcc5: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu5 46 est6: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu6 47 p4tcc6: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu6 48 est7: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu7 49 p4tcc7: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu7 50 est8: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu8 51 p4tcc8: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu8 52 est9: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu9 53 p4tcc9: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu9 54 est10: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu10 55 p4tcc10: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu10 56 est11: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu11 57 p4tcc11: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu11 58 est12: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu12 59 p4tcc12: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu12 60 est13: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu13 61 p4tcc13: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu13 62 est14: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu14 63 p4tcc14: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu14 64 est15: <Enhanced SpeedStep Frequency Control> on cpu15 65 p4tcc15: <CPU Frequency Thermal Control> on cpu15 66 root@ns#

11. 次のコマンドを実行して、/varドライブが/dev/ ar0s1a: root@ns# df -hとしてマウントされ

ているか検証します。

例

1	root@ns# df -h					
2	Filesystem	Size	Used	Avail	Capacity	Mounted on
3	/dev/md0	422M	404M	9.1M	98%	/
4	devfs	1.0k	1.0k	0 B	100%	/dev
5	procfs	4.0k	4.0k	0 B	100%	/proc
6	/dev/ar0s1a	23G	6.9 <mark>G</mark>	14G	32%	/flash
7	/dev/ar0s1e	333 <mark>6</mark>	32 <mark>G</mark>	274 <mark>6</mark>	10%	/var
8	root@ns#					

12. 次のコマンドを入力して ns_hw_err.bash スクリプトを実行します。このスクリプトは、潜在的なハードウ ェアエラーをチェックします: root @ns

```
# ns_hw_err.bash
```

```
1 root@ns# ns_hw_err.bash
2 NetScaler NS13.0: Build 71.3602.nc, Date: Nov 12 2020, 07:26:41
       (64-bit)
3 platform: serial 4VCX9CUFN6
4 platform: sysid 520400 - NSMPX-15000-50G 16\*CPU+128GB+4\*MLX(50)
      +8\*F1X+2\*E1K+2*2-CHIP COL 8955
5 HDD MODEL: ar0: 434992MB <Intel MatrixRAID RAID1> status: READY
6
7 Generating the list of newnslog files to be processed...
8 Generating the events from newnslog files...
9 Checking for HDD errors...
10 Checking for HDD SMART errors...
11 Checking for Flash errors...
12 Checking for Mega Raid Controller errors...
13 Checking for SSL errors...
14 Dec 5 06:00:31 <daemon.err> ns monit[996]: 'safenet_gw' process
      is not running
15 Checking for BIOS errors...
16 Checking for SMB errors...
17 Checking for MotherBoard errors...
18 Checking for CMOS errors...
19 License year: 2020: OK
20 Checking for SFP/NIC errors...
21 Dec 5 06:02:32 <daemon.err> ns monit[996]: 'safenet_gw' process
      is not running
22 Checking for Firmware errors...
23 Checking for License errors...
24 Checking for Undetected CPUs...
25 Checking for DIMM flaps...
26 Checking for Memory Channel errors...
27 Checking for LOM errors...
28 Checking the Power Supply Errors...
29 Checking for Hardware Clock errors...
30 Script Done.
```

- 31 root@ns#
- 13. 重要:管理ポートを含む LOM ポートを除くすべてのポートをネットワークから物理的に切断します。
- 14. シェルプロンプトで、ADC コマンドラインに切り替えます。タイプ: 終了

例

```
1 root@ns# exit
2 logout
3 Done
```

15. 次のコマンドを実行して、アプライアンスをシャットダウンします。ADC を完全に停止するかどうかを尋ねら れます。種類: shutdown -p now

```
1 > shutdown -p now
2 Are you sure you want to completely stop NetScaler (Y/N)? [N]:y
3 Done
4 > Dec 5 06:09:11 <auth.notice> ns shutdown: power-down by root:
5 Dec 5 06:09:13 <auth.emerg> ns init: Rebooting via init mechanism
6 Dec 5 06:09:13 <syslog.err> ns syslogd: exiting on signal 15
7 Dec 5 06:09:13 aslearn[1662]: before pthread_join(), task name:
      Aslearn_Packet_Loop_Task
8 Dec 5 06:09:15 aslearn[1662]: Exiting function ns_do_logging
9 Dec 5 06:09:15 aslearn[1662]: before pthread_join(), task name:
      Aslearn WAL Cleanup Task
10 Dec 5 06:09:15 aslearn[1662]: before pthread_join(), task name:
      Aslearn_HA_Primary_Task
11 Dec 5 06:09:15 aslearn[1662]: 1662 exiting gracefully
12 Dec 5 06:09:18 [1672]: nsnet_tcpipconnect: connect() failed;
      returned -1 errno=61
13 gat0: gat_dev0 stopped 12 acceleration engines
14 pci4: Resetting device
15 qat1: qat_dev1 stopped 12 acceleration engines
16 pci6: Resetting device
17 qat2: qat_dev2 stopped 12 acceleration engines
18 pci132: Resetting device
19 qat3: qat_dev3 stopped 12 acceleration engines
20 pci134: Resetting device
21 Dec 5 06:09:33 init: some processes would not die; ps axl advised
22 reboot initiated by init with parent kernel
23 Waiting (max 60 seconds) for system process `vnlru' to stop...done
24 Waiting (max 60 seconds) for system process `bufdaemon' to stop...
      done
25 Waiting (max 60 seconds) for system process `syncer' to stop...
26 Syncing disks, vnodes remaining...0 0 0 done
27 All buffers synced.
28 Uptime: 1h53m18s
29 ixl shutdown: lldp start 0
30 ixl_shutdown: lldp start 0
31 ixl_shutdown: lldp start 0
32 ixl_shutdown: lldp start 0
```

```
33 usbus0: Controller shutdown
34 uhub0: at usbus0, port 1, addr 1 (disconnected)
35 usbus0: Controller shutdown complete
36 usbus1: Controller shutdown
37 uhub1: at usbus1, port 1, addr 1 (disconnected)
38 ugen1.2: <vendor 0x8087> at usbus1 (disconnected)
39 uhub3: at uhub1, port 1, addr 2 (disconnected)
40 ugen1.3: <FTDI> at usbus1 (disconnected)
41 uftdi0: at uhub3, port 1, addr 3 (disconnected)
42 ugen1.4: <vendor 0x1005> at usbus1 (disconnected)
43 umass0: at uhub3, port 3, addr 4 (disconnected)
44 (da0:umass-sim0:0:0:0): lost device - 0 outstanding, 0 refs
45 (da0:umass-sim0:0:0:0): removing device entry
46 usbus1: Controller shutdown complete
47 usbus2: Controller shutdown
48 uhub2: at usbus2, port 1, addr 1 (disconnected)
49 ugen2.2: <vendor 0x8087> at usbus2 (disconnected)
50 uhub4: at uhub2, port 1, addr 2 (disconnected)
51 ugen2.3: <vendor 0x0557> at usbus2 (disconnected)
52 uhub5: at uhub4, port 7, addr 3 (disconnected)
53 ugen2.4: <vendor 0x0557> at usbus2 (disconnected)
54 ukbd0: at uhub5, port 1, addr 4 (disconnected)
55 ums0: at uhub5, port 1, addr 4 (disconnected)
56 usbus2: Controller shutdown complete
57 ixl_shutdown: lldp start 0
58 ixl_shutdown: lldp start 0
59 ixl shutdown: lldp start 0
60 ixl shutdown: lldp start 0
61 acpi0: Powering system off
```

アプライアンスのアップグレード

アプライアンスをアップグレードするには、次の手順に従います。

- 1. ADC アプライアンスの電源を切ります。
- 2. 次の図に示すように、アプライアンスの背面にある 2 つのソリッドステートドライブ (SSD) をスロット #1 と スロット #2 に配置します。



- 交換用のソリッドステートドライブ (SSD) が ADC モデルに必要なものであることを確認します。変換には、 最低 4 つの SSD が必要です。NetScaler のラベルはいずれかの SSD の上部にあります。SSD には、新しい バージョンの BIOS と、必要な NetScaler SDX 管理サービスの最新ビルドがあらかじめ入力されています。 この SSD はスロット 1 に取り付ける必要があります。
- 4. ドライブハンドルを引きながら、ドライブカバーの安全ラッチを押し下げて、SSDを取り外します。
- 5. 新しい NetScaler 認定 SSD ドライブで、ドライブハンドルを完全に左に開きます。次に、可能な限り新しい ドライブをスロット #1 に挿入します。
- 6. ドライブを装着するには、ハンドルをアプライアンスの背面と同じ位置で閉じ、ドライブがスロットにしっか りとロックされるようにします。

重要:SSD の向きは重要です。ドライブを挿入するときは、NetScaler 製品ラベルが横にあることを確認して ください。

7. 2 つ目の NetScaler 認定 SSD をスロット #2 のスロット #1 にある SSD の容量と同じサイズで挿入します。

注: アプライアンスのライセンスが 14040 40G、14060 40G、14080 40G の場合は、スロット #3、#4、#5、 #6 に空の NetScaler 認定 SSD をさらに挿入してください。

|-|-|-|-|

| NetScaler SDX モデル | 含まれる仮想インスタンス | プラットフォームの最大数 | 基本モデルに含まれる SSD | 最大インスタンス用の追加 SSD | | SDX 15020/SDX 15020-50G

|5|55|240 GB RAID 対応リムーバブルブートソリッドステートドライブ(SSD)2 台(スロット1と2)。2 つの 240 GB RAID サポートリムーバブルストレージリポジトリ (スロット 3 および 4 のペア) SSD、および 4 つの 480 GB ストレージリポジトリ (スロット 5 ~6 ペアと 7 ~8 ペア) SSD。|NA|

| SDX 15030/SDX 15030-50G | 20 | 55 | 240 GB RAID をサポートするリムーバブルブートソリッドステー トドライブ (SSD) 2、(スロット 1 および 2) 2 つの 240 GB RAID サポートリムーバブルストレージリポジト リ (スロット 3 および 4 のペア) SSD、および 4 つの 480 GB ストレージリポジトリ (スロット 5 ~6 ペアと 7 ~8 ペア) の SSD。| NA | 重要:

古い SSD と新しい SSD の混合とマッチングはサポートされていません。最初の RAID ペア (ローカル ストレージ)を構成するスロット #1 とスロット #2 の SSD は、同じサイズとタイプである必要がありま す。同様に、2 番目の RAID ペア (VPX ストレージ)を構成するスロット #3 とスロット #4 の SSD のサ イズとタイプが同じである必要があります。付属の変換キットに含まれるドライブのみを使用してくだ さい。

- 8. データポートと管理ポートからすべてのネットワークケーブルを取り外します。
- 9. ADC アプライアンスを起動します。手順については、「ハードウェアのインストール」の「アプライアンスの 切り替え」を参照してください。

変換プロセスは約 30 分間実行できますが、その間、アプライアンスの電源を入れ直してはいけません。変換 プロセス全体がコンソールに表示されず、応答しないように見えることがあります。

変換プロセスによって BIOS が更新され、Citrix Hypervisor と管理サービスオペレーティングシステムがイ ンストールされます。また、インスタンスプロビジョニングのために NetScaler ADC VPX イメージを SSD にコピーし、RAID1 ペアを形成します。

注: アプライアンスのシリアル番号は変わりません。

- 10. 変換処理中は、コンソールケーブルを接続したままにします。プロセスが完了し、その時点で SDX login: プロンプトが表示されます。
- 11. 変換プロセス中に、IP アドレスをデフォルト値の 192.168.1.3 にリセットするため、LOM ポート接続が失わ れる可能性があります。変換ステータス出力は、VGA モニタで確認できます。
- アプライアンスが MPX から SDX に変換されると、Citrix Hypervisor のデフォルト資格情報は root/nsroot に変更されます。このパスワードが機能しない場合は、nsroot/アプライアンスのシリアル番号を入力してみ てください。シリアル番号のバーコードは、アプライアンスの背面に表示され、show hardwareコマン ドの出力にも表示されます。
- 13. 変換が成功したことを確認するには、FVT の結果が正常であることを確認してください。次のコマンドを実行 します:tail /var/log/fvt/fvt.log

変換したアプライアンスの再構成

変換プロセスの後、アプライアンスの以前の動作設定はなくなります。したがって、デフォルトの IP アドレス 192.168.100.1/16 を使用してのみ、Web ブラウザを介してアプライアンスにアクセスできます。ネットワーク 192.168.0.0 でコンピュータを構成し、クロスオーバーイーサネットケーブルを使用してアプライアンスの管理 ポート (0/1) に直接接続します。または、ストレートイーサネットケーブルを使用してネットワークハブ経由で NetScaler SDX アプライアンスにアクセスします。既定の資格情報を使用してログオンし、次の操作を行います。

1. [構成] タブを選択します。

- 2. [システムリソース] セクションに、NetScaler SDX アプライアンスの CPU コア、SSL コア、および合計メ モリの正確な数が表示されていることを確認します。
- 3.「システム」ノードを選択し、「アプライアンスの設定」で「ネットワーク構成」をクリックして、管理サービス のネットワーク情報を変更します。
- 4.「ネットワーク構成の変更」ダイアログ・ボックスで、次の詳細を指定します。
 - Interface*: クライアントが管理サービスに接続するときに使用するインターフェイス。可能な値:0/1、 0/2。デフォルト:0/1。
 - Citrix Hypervisor の IP アドレス *-Citrix Hypervisor の IP アドレス。
 - 管理サービス IP アドレス*: 管理サービスの IP アドレス。
 - Netmask*: SDX アプライアンスが配置されているサブネットのサブネットマスク。
 - Gateway*: ネットワークのデフォルトゲートウェイ。
 - DNS サーバ: DNS サーバの IP アドレス。

* 必須パラメータ

- 5. [OK] をクリックします。ネットワーク情報が変更されると、管理サービスへの接続は失われます。
- 6. NetScaler SDX アプライアンスの管理ポート 0/1 をスイッチに接続し、ネットワーク経由でアクセスします。 先に使用した IP アドレスを参照し、デフォルトの資格情報でログオンします。
- 7. 新しいライセンスを適用します。手順については、「SDX ライセンスの概要」を参照してください。
- 8. [構成]>[システム] に移動し、[システム管理] グループで [アプライアンスの再起動] をクリックします。[は い] をクリックして確定します。これで、NetScaler SDX アプライアンスで VPX インスタンスをプロビジョ ニングする準備ができました。手順については、「NetScaler インスタンスの Provisioning」を参照してく ださい。

SDX アプライアンス間で NetScaler インスタンスの構成を移行する

September 30, 2024

NetScaler インスタンス構成を新しい SDX アプライアンスに移行する前に、まず新しい SDX アプライアンスをセットアップする必要があります。

次の表は、移行プロセスに関係するデバイス名を示しています。

用語	説明
SDX-OLD-A1、SDX-OLD-A2	旧 SDX プラットフォームの名前
SDX-A1、SDX-A2	新しい SDX プラットフォームの名前

用語	説明
VPX-OLD-A1、VPX-OLD-A2	古い SDX プラットフォームでホストされている VPX イ
	ンスタンスの名前
VPX-NEW-A1、VPX-NEW-A2	新しい SDX プラットフォームでホストされている VPX
	インスタンスの名前

以下の画像は移行プロセスを説明したもので、ハイアベイラビリティ (HA) 構成の現在の状態、暫定状態、および最 終状態を示しています。

図 1: インライン展開 現	見在の状態
----------------	-------



図 2: 暫定状態



図 5. 希望都道府県



次の表では、この図で使用されている色の凡例について説明します。

カラーレジェンド	説明
緑	現在または希望の状態にあるプラットフォームとインス
	タンスを表します。
オレンジ	移行中または移行保留中のプラットフォームとインスタ
	ンスを表します。

前提条件

- 新しい SDX アプライアンス (SDX-NEW-A2)を古いものと同じビルドバージョンにアップグレードします。古い SDX アプライアンスのビルドが新しい SDX でサポートされていない場合は、まず古い SDX アプライアンスを新しい SDX でサポートされているビルドにアップグレードします。
- 新しい SDX アプライアンス(SDX-NEW-A2)で、ユーザー名、パスワード、IP アドレス、ゲートウェイ構成の設定を含む 初期構成を完了します。
- 複製が必要な特定の構成が古い SDX アプライアンスに存在する場合は、Management Service を使用して、 新しい SDX アプライアンスのチャネル作成、MTU 設定、管理者プロファイルなどの設定を構成します。
- 新しい SDX アプライアンス(SDX-NEW-A2)に、古いものと同じビルドと構成で NetScaler インスタンス (VPX-NEW-A2)をプロビジョニングします。詳しくは、SDX アプライアンスへの NetScaler インスタンス のプロビジョニングを参照してください。

サポートされている移行シナリオ

この移行は次のシナリオに適用されます。

- 高可用性 (HA) 構成
- スタンドアロンデプロイ
- 同じ SDX プラットフォームへの移行
- 別の SDX プラットフォームへの移行

メモ:

- この移行プロセスでは、SDX からサードパーティのハイパーバイザーがホストする VPX インスタンスへの移行はサポートされていません。
- これらの概説された手順は、SDX プラットフォームを SDX 14000 から 15000 に、SDX 14000 を 16000
 に、SDX 22000 を 15000 に移行する際に検証されています。同じ手順は他の SDX プラットフォームに も適用されます。

さまざまなシナリオを以下に説明します。
ケース **1:** チャネルがなく、インターフェイスの速度と番号が同じ場合 古い VPX インスタンス(VPX-OLD-A2)が インターフェイス 10/1、10/2、…、10/n で構成されている場合、新しい VPX インスタンス(VPX-NEW-A2)はこ の構成を正確に複製する必要があります。

ケース **2:** チャンネルがなく、インターフェースの速度や番号が異なる 古い VPX インスタンス(VPX-OLD-A2)が インターフェイス 10/1 および 10/2 で構成され、新しい VPX インスタンス(VPX-NEW-A2)がインターフェイス 10/3 および 10/4 で構成されている場合。または、新しい VPX インスタンス(VPX-NEW-A2)がインターフェイス 25/1 および 25/2 を使用する場合があります。

ケース **3:** 同じチャンネル番号 古い VPX インスタンス(VPX-OLD-A2)がチャネル LA/1、LA/2、…、LA/n で構成されている場合、新しい VPX インスタンス(VPX-NEW-A2)はこの構成を正確に複製する必要があります。基盤となるメンバーインターフェイスの番号付けや速度は、この要件に影響しません。

ケース **4:** チャンネル番号が異なる 古い VPX インスタンス(VPX-OLD-A2)がチャネル LA/1 と LA/2 で構成され、 新しい VPX インスタンス(VPX-NEW-A2)がチャネル LA/3 と LA/4 で構成されている場合。

移行のフェーズ

フェーズ 1: HA(該当する場合)を解除し、セカンダリ VPX を削除する

HA が有効になっている場合は、HA 構成を解除し、HA セットアップからセカンダリ VPX(VPX-OLD-A2)を削除す る必要があります。

- 1. HA 構成を解除する
 - a) プライマリ VPX インスタンス (VPX-OLD-A1) CLI にログオンします。
 - b) VPX-OLD-A1のHAステータスをプライマリノードとして維持するように設定するには、次のように入力します。

1 set ha node -hastatus STAYPRIMARY

c) プライマリノード (VPX-OLD-A1)の HA 同期ステータスを無効にするには、次のように入力します。

1 set ha node -haSync DISABLED

2. HA ペアからセカンダリ VPX を削除します

- a) セカンダリ VPX インスタンス (VPX-OLD-A2) CLI にログオンします。
- b) VPX-OLD-A2 の HA ステータスをセカンダリノードとして残すように設定するには、次のように入力します。

1 set ha node -hastatus STAYSECONDARY

c) 高可用性構成を解除するには、VPX-OLD-A2 を HA ペアから削除してください。VPX-OLD-A2 のノー ド ID を特定し、次のコマンドを実行します。

1 rm ha node <node_id>

フェーズ 2: 古いプライマリ VPX と新しい VPX の間に HA ペアを形成する

古いプライマリ VPX (VPX-OLD-A1) と新しい VPX (VPX-NEW-A2)の間に高可用性ペアを確立するには:

1. 古いプライマリ VPX (VPX-OLD-A1) の CLI で、次のように入力します。

1 add ha node 1 <IP address of VPX-NEW-A2>

2. 新しい VPX (VPX-NEW-A2) の CLI で、次のように入力します。

1 add ha node 1 <IP address of VPX-OLD-A1>

フェーズ 3: VPX 構成の移行

プライマリ VPX(VPX-OLD-A1)で、次のコマンドを使用して HA 同期を有効にします。

1 set ha node -haSync ENABLED

フェーズ 4 (オプション): ケース 2 とケース 4 には追加の手順が必要

ケース2(チャネルがなく、インターフェイスの速度または番号が異なる)とケース4(チャネル番号が異なる)の移 行の特定のシナリオに対応するには、次の手順を実行してください。

新しいセカンダリ VPX (VPX-NEW-A2) について:

- /var/nssynclog/sync_batch_status.logのログファイルにエラーがないか確認してください。
- インターフェイス関連の設定により、エラーが発生する可能性があります。bind vlanとセットインタ ーフェイスの設定を手動で修正してください。
- 3. 他のエラーが見つかった場合は、手動で対処してください。
- 4. save config または save ns config-all コマンドのいずれかを使用して構成を保存します。

メモ:

新しい SDX アプライアンスで新しい VPX へのトラフィックフェイルオーバーを開始する前に、次のことを確

認してください。

- HA 同期が有効になっていることを確認します。
- show ns runningconfigコマンドを使用して、現在のセカンダリ VPX (VPX-NEW-A2)の構成 を検証します。
- セカンダリノードの /var/nssynclog/sync_batch_status.log にあるログファイルに エラーがないか確認します。

フェーズ 5: フェイルオーバーを強制して、トラフィックを新しい SDX アプライアンスの新しい VPX に移行する

強制フェイルオーバーを開始して、新しい SDX アプライアンスでホストされている新しい VPX(VPX-NEW-A2)に トラフィックをシフトするには、次の手順を実行します。

1. VPX-OLD-A1 で、HA ペアを有効にするには、次のように入力します。

1 set ha node -haStatus ENABLED

ここで、VPX-OLD-A1 が HA ペアでアクティブになります。

2. 新しい VPX (VPX-NEW-A2) へのトラフィックのフェイルオーバーを強制するには、次のように入力します。

1 force ha failover

VPX-NEW-A2 は、受信トラフィックを処理するプライマリノードになります。

以前の SDX プラットフォームである SDX-OLD-A2 から新しい SDX プラットフォームである SDX-NEW-A2 への移 行に伴い、SDX-NEW-A2 の VPX-NEW-A2 がプライマリノードになり、トラフィックを管理するようになりました。 これらの手順は、SDX-OLD-A1 を新しい SDX プラットフォームである SDX-NEW-A1 に置き換える場合にも適用さ れます。

トラブルシューティング

September 30, 2024

NetScaler SDX ハードウェアの問題に関するトラブルシューティング記事の一覧を次に示します。

- 1. NetScaler ADC 電源の問題のトラブルシューティング: https://support.citrix.com/article/CTX202340
- 2. NetScaler スモールフォームプラグ対応 (SFP) の問題のトラブルシューティング: https://support.citrix .com/article/CTX236074
- 3. NetScaler SSL カードの問題のトラブルシューティング: https://support.citrix.com/article/CTX2360 94

4. NetScaler LOM GUI の問題のトラブルシューティング: https://support.citrix.com/s/article /CTX477557-mpxsdx-series-910016000-gui-lom-access-to-configuration-settings-arereadonly?language=en_US

net>scaler.

© 2025 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved. This document is subject to U.S. and international copyright laws and treaties. No part of this document may be reproduced in any form without the written authorization of Cloud Software Group, Inc. This and other products of Cloud Software Group may be covered by registered patents. For details, please refer to the Virtual Patent Marking document located at https://www.cloud.com/legal. Citrix, the Citrix logo, NetScaler, and the NetScaler logo and other marks appearing herein are either registered trademarks or trademarks of Cloud Software Group, Inc. and/or its subsidiaries in the United States and/or other countries. Other marks are the property of their respective owner(s) and are mentioned for identification purposes only. Please refer to Cloud SG's Trademark Guidelines and Third Party Trademark Notices (https://www.cloud.com/legal) for more information.

© 1999–2025 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.